

# V 診療業務概要・ 活動報告

## ～解説～

### ①概要について

1年間の活動内容等を掲載しています。

### ②新規登録疾患について

2016年に登録した病名を診療科別に抽出し、ICD-10（国際疾病分類）3桁で集計を行い円グラフで掲載しています。

1. 抽出条件：
  - ① 2016年1月1日～2016年12月31日に受診した患者。
  - ② 診療科別で対象患者に主病名登録した病名（疑いは除外）を抽出。
  - ③ ICD-10 3桁で集計、上位を表記し、それ以下はその他と表記。
2. 留意事項：
  - ① 複数の病名が登録されている患者については病名ごとに集計（延べ）。
  - ② 比率については小数点第2位 四捨五入。

### ③活動報告について

この項目は、各々の希望に応じた資料を掲載しています。

## V 診療業務概要、活動報告

### 総合内科

#### 1. 概要

高血圧症、糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病は狭心症や心筋梗塞など虚血性心疾患の強力な危険因子であるため、総合内科では特に糖尿病をメインに、さらに内臓脂肪の過剰蓄積・耐糖能障害・高血圧・高中性脂肪血症を併せ持つメタボリックシンドロームも含めて診療を行ってきた。

1996年来、総合内科では糖尿病・耐糖能障害、高血圧症、脂質異常症などの外来診療と糖尿病体験入院を行ってきたが、糖尿病・内分泌内科新設に伴い、2010年4月より総合内科の入院病床は無くなった。現在、糖尿病外来や教育入院などの糖尿病診療は主に糖尿病・内分泌内科にて行われている。

2010年4月以降は、新規を除く糖尿病、高血圧症、脂質異常症、肥満症などの外来診療を継続するとともに、原因不明の発熱、専門科に振り分けられない初診患者の診療を行っている。

(部長 鳥居 俊男)

#### 2. 活動報告

##### (1) 患者状況

年間外来患者数	8,384人	年間外来新患者数	1,776人
年間入院患者数	0人	年間入院新患者数	0人

# 呼吸器内科・アレルギー内科

## 1. 概要

2016年度は、副部長3名（竹山、菅沼、真下）、医員4名（倉橋、高橋、米田、飯島）の、専任スタッフ7名で診療を行った。

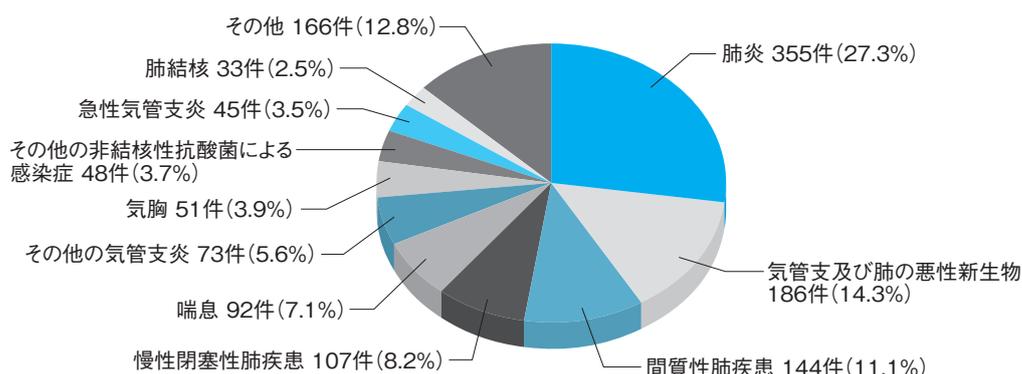
患者中心の医療を心掛け、外来・病棟看護師、薬剤師、リハビリテーション技師と協力して診療に当たっている。また、呼吸器外科医師、放射線科医師とも連携を密にし、治療方針決定のために定期的に合同でカンファレンスを行っている。

日本呼吸器学会、日本呼吸器内視鏡学会、日本アレルギー学会の教育認定施設として、研修医や専攻医の教育に当たるばかりでなく、スタッフ一同もより良い医療ができるよう日々研鑽を積んでいる。また、東三河地区の地域がん診療連携拠点病院の役割を担い、名古屋大学呼吸器内科の関連病院として臨床研究にも努めている。

（部長 菅沼 伸一）

## 2. 新規登録疾患

総数：1,300件



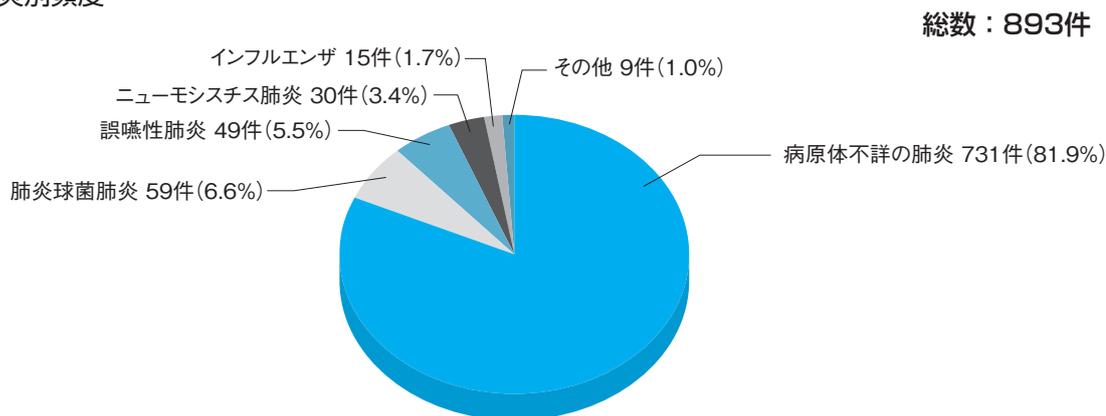
疾患名	主となるICD-10病名	件数(件)	ICD-10
肺炎	肺炎, 詳細不明	287	J189
	肺炎レンサ球菌による肺炎	31	J13
気管支及び肺の悪性新生物	気管支及び肺の悪性新生物,気管支又は肺,部位不明	180	C349
	胸腺の悪性新生物	3	C37
間質性肺疾患	間質性肺疾患, 詳細不明	104	J849
	肺線維症を伴うその他の間質性肺疾患	30	J841
慢性閉塞性肺疾患	慢性閉塞性肺疾患, 詳細不明	57	J449
	肺気腫, 詳細不明	29	J439
喘息	喘息, 詳細不明	91	J459
その他の気管支炎	気管支炎, 急性又は慢性と明示されないもの	37	J40
	詳細不明の慢性気管支炎	36	J42
気胸	気胸, 詳細不明	25	J939
	その他の自然気胸	24	J931
その他の非結核性抗酸菌による感染症	非結核性抗酸菌感染症, 詳細不明	42	A319
	肺非結核性抗酸菌感染症	5	A310
急性気管支炎	急性気管支炎, 詳細不明	43	J209
肺結核	肺結核,細菌学的又は組織学的確認の記載がないもの	21	A162
	詳細不明の呼吸器結核,細菌学的又は組織学的確認の記載がないもの	8	A169

### 3. 活動報告

#### (1) 患者状況

年間外来患者数	23,445人	年間外来新患者数	2,206人
年間入院患者数	22,539人	年間入院新患者数	1,435人

#### (2) 肺炎別頻度



#### (3) 科指定5疾患

	疾患名	件数(件)		疾患名	件数(件)
1	肺炎	893	4	肺癌	212
2	気管支喘息	296	5	慢性閉塞性肺疾患	128
3	間質性肺炎	245		計	1,774

# 消化器内科

## 1. 概要

浦野副院長を筆頭とする6名のスタッフ、専攻医7名、後期研修医1～2名と、さらに岡村前院長の協力を得て診療に当たっている。

山田、山本が消化管、浦野、内藤が肝臓、藤田、松原が胆道・膵臓を担当し、

- ① 消化器癌のX線・内視鏡・US診断
- ② 食道・胃・大腸腫瘍に対する内視鏡的治療の検討
- ③ IBDに対する内科的治療
- ④ 胆道・膵疾患に対するEUS(-FNA)、造影US・EUS、ERCP(-IDUS)の成績向上における検討
- ⑤ ERCP後膵炎の予防における検討
- ⑥ 閉塞性黄疸に対するERCP（経乳頭の内視鏡）下と、EUS（超音波内視鏡）下治療の成績
- ⑦ ウイルス性肝炎の治療と長期経過観察
- ⑧ 肝癌の画像診断と内科的治療-TACE、RFA、リザーバーを用いた化学療法など

を主な研究テーマとしている。

一方、全消化器領域に対応すべく日常診療に従事しており、嚥下困難患者に対する内視鏡的胃瘻造設術の依頼にも随時対応している。

この他、食道胃静脈瘤、胃・十二指腸潰瘍、大腸憩室などからの急性消化管出血に対するEIS、EVLやクリッピング止血、内因性肝出血や壊死性膵炎に対するIVR、急性胆道炎に対するERCP、PTBD、PTGBD、EUS下ドレナージ、そして劇症肝炎や重症急性膵炎など重症消化器疾患に対する集中治療を積極的に行い、地域の救命救急医療に貢献している。

学会発表並びに若手医師に対する教育・指導も重要視しており、2016年には日本内科学会東海支部、日本超音波医学会中部地方会において、それぞれ優秀演題賞、新人賞を受賞した。

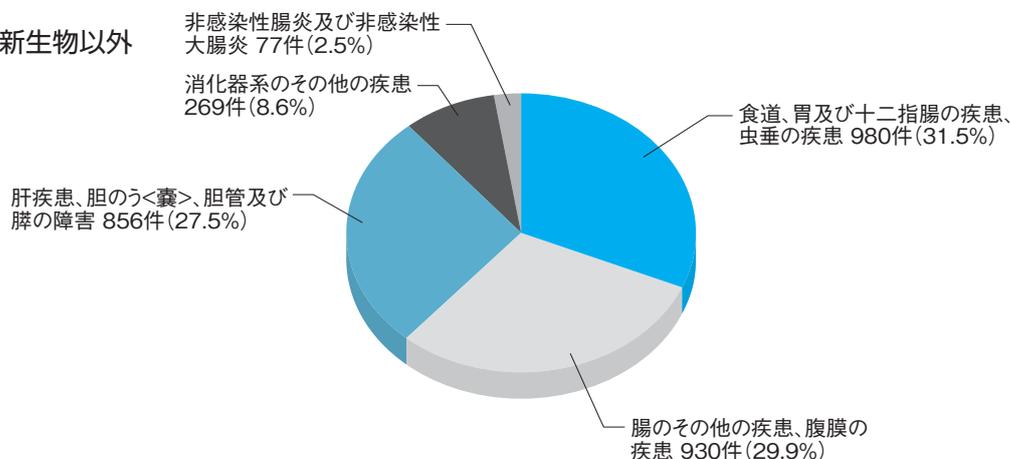
（第一部長 浦野 文博）

（文責 第四部長 松原 浩）

## 2. 新規登録疾患

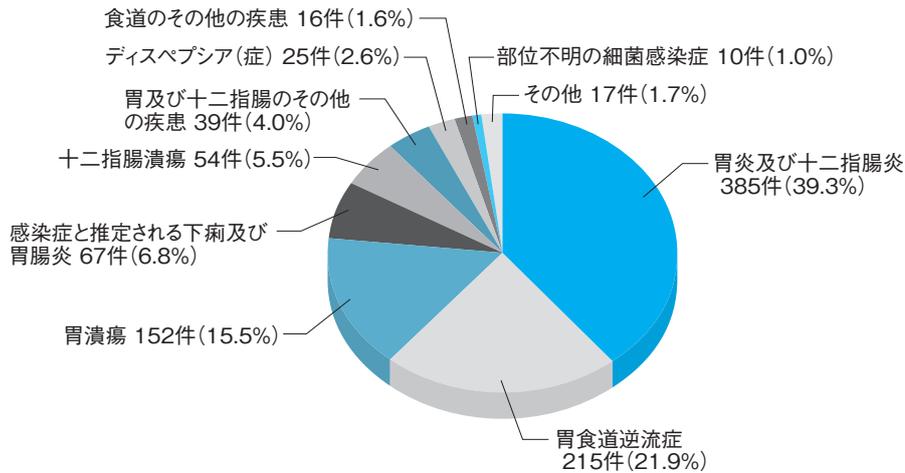
総数：3,112件

### (1) 新生物以外

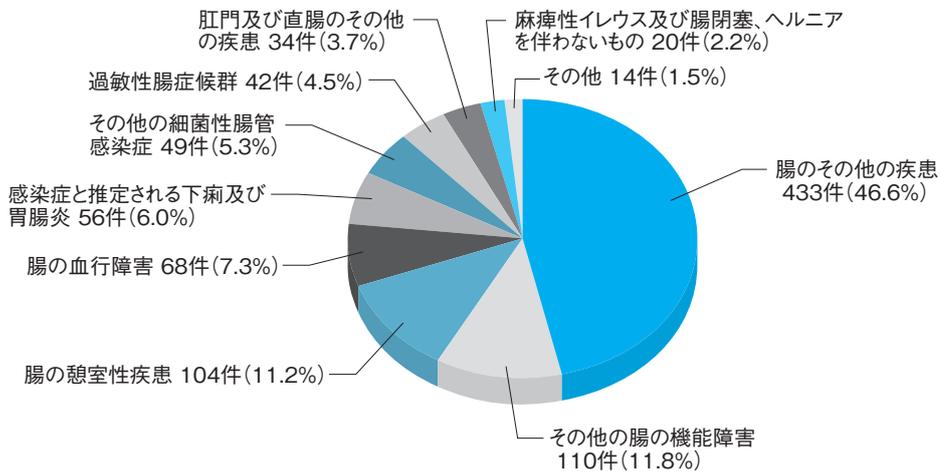


上位3位の詳細

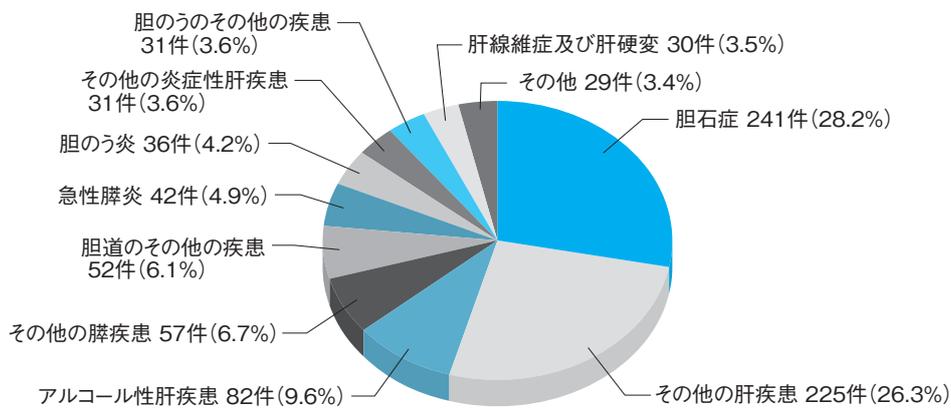
①食道、胃及び十二指腸の疾患、虫垂の疾患：980件



②腸のその他の疾患、腹膜の疾患：930件

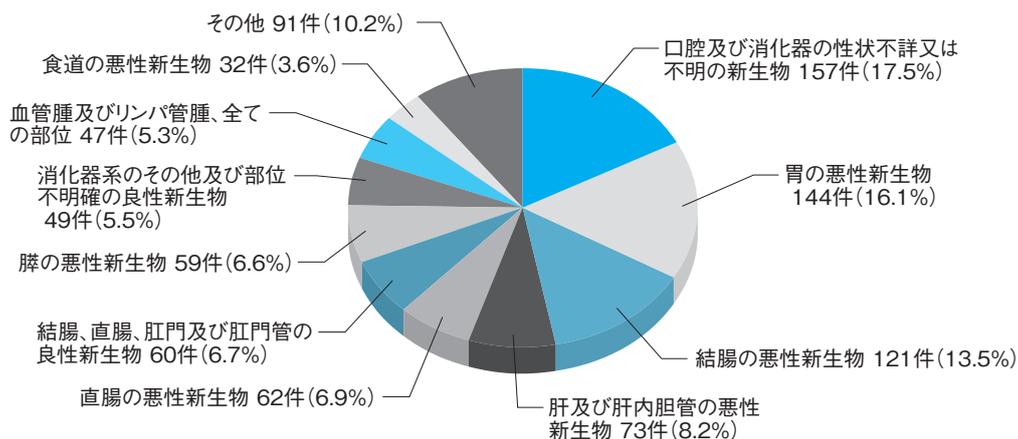


③肝疾患、胆のう、胆管及び膵の障害：856件



(2) 新生物

総数：895件



### 3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数	51,048人	年間外来新患者数	5,318人
年間入院患者数	41,682人	年間入院新患者数	2,599人

(2) 当科で経験した主な疾患の新規症例数

胃癌	204例
大腸癌	288例
	(深達度分類 ssないしal以深：mp：sm：m 131：30：47：80)
肝細胞癌	40例
	(進行度分類 I：II：III：IV 7：18：10：5)
	(JIS 0：1：2：3：4：5 6：12：16：4：2：0)
膵癌	53例
胆道癌	30例

(3) 主な検査治療実績

胃内視鏡検査	6,839件
大腸内視鏡検査	4,374件
消化管超音波内視鏡検査	95件 (うち穿刺生検4件)
内視鏡的粘膜下層切開剥離術	胃89件、大腸55件
胆膵超音波内視鏡検査	368件 (うち穿刺生検52件)
内視鏡的逆行性胆管膵管造影	598件
腹部血管造影検査	204件
うち動脈塞栓術	138件
動注化学療法	26件
リザーバー留置による動注化学療法	3件
ラジオ波焼灼術	38件

# 循環器内科

## 1. 概要

2016年は、心血管/造影カテーテル検査を725件（うち緊急検査143件）に施行した。経皮的冠動脈インターベンションは202例（成功率93.9%）で、そのうち、血管内超音波を180例に、ステント留置術は160例に施行した。再狭窄防止のための薬剤溶出性バルーンが使用可能となり11件に使用した。また、血行動態の悪い症例には、大動脈内パンピングを21例に施行した。心原性ショック例・心停止例（来院時心肺停止も含む）には、経皮的心肺補助装置を装着した（9例）。一方、不整脈診断の為の心臓電気生理学的検査を56例に、カテーテルアブレーションを35例に施行した。64列多列検出器CTによる冠動脈CT検査を142例に施行した。

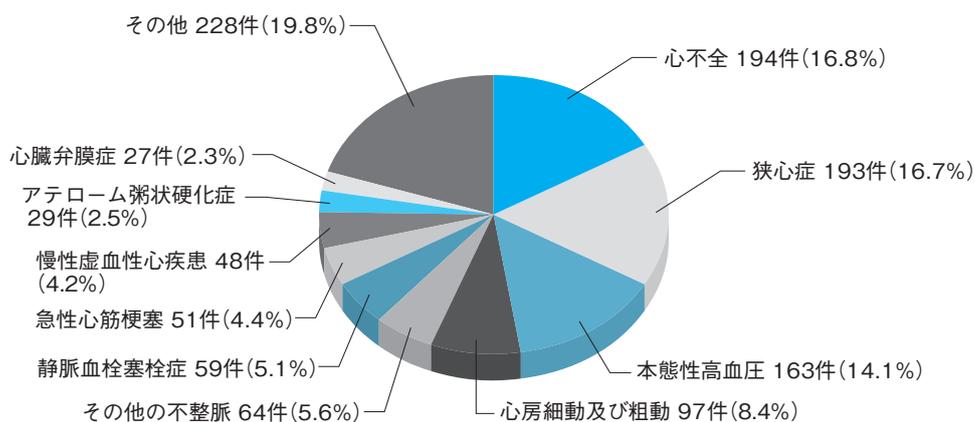
2016年4月11日付で澤崎貴子が産休に入った。

2016年9月9日より、急性心筋梗塞が疑われる患者の救急搬送の際、救急車からの12誘導心電図伝送が開始となった。

（第二部長 成瀬 賢伸）

## 2. 新規登録疾患

総数：1,153件



疾患名	主となるICD-10病名	件数(件)	ICD-10
心不全	うっ血性心不全	92	I500
	心不全, 詳細不明	92	I509
狭心症	狭心症, 詳細不明	135	I209
	その他の型の狭心症	25	I208
本態性高血圧	本態性(原発性)高血圧(症)	163	I10
心房細動及び粗動	心房細動及び粗動	97	I48
その他の不整脈	心室性早期脱分極	28	I493
	洞不全症候群	10	I495
静脈血栓塞栓症	下肢のその他の深在血管の静脈炎及び血栓(性)静脈炎	59	I802
急性心筋梗塞	前壁の急性貫壁性心筋梗塞	18	I210
	下壁の急性貫壁性心筋梗塞	18	I211
慢性虚血性心疾患	陳旧性心筋梗塞	40	I252
	虚血性心筋症	3	I255
アテローム粥状硬化症	全身性及び詳細不明のアテローム硬化(症)	21	I709
	(四) 肢の動脈のアテローム硬化(症)	8	I702
心臓弁膜症	大動脈弁狭窄(症)	21	I350
	大動脈弁閉鎖不全(症)	5	I351

### 3. 活動報告

#### (1) 患者状況

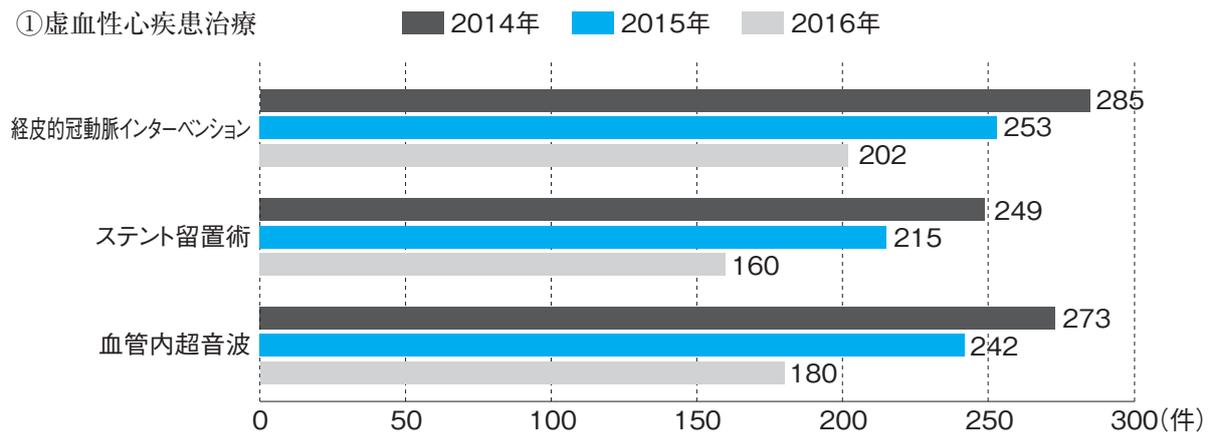
年間外来患者数	16,234人	年間外来新患者数	1,140人
年間入院患者数	8,343人	年間入院新患者数	925人

#### (2) 科指定4疾患

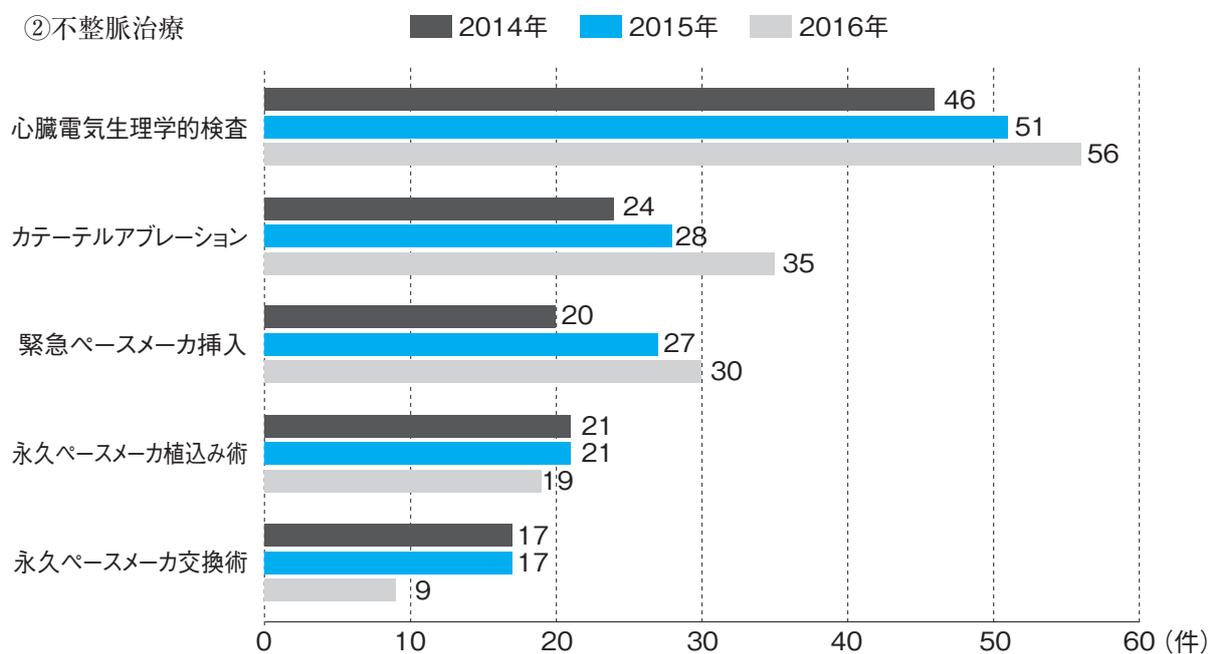
	疾患名	件数(件)		疾患名	件数(件)
1	心不全	552	4	肺血栓塞栓症	35
2	狭心症	386		計	1,115
3	急性心筋梗塞	142			

### (3) 治療実績

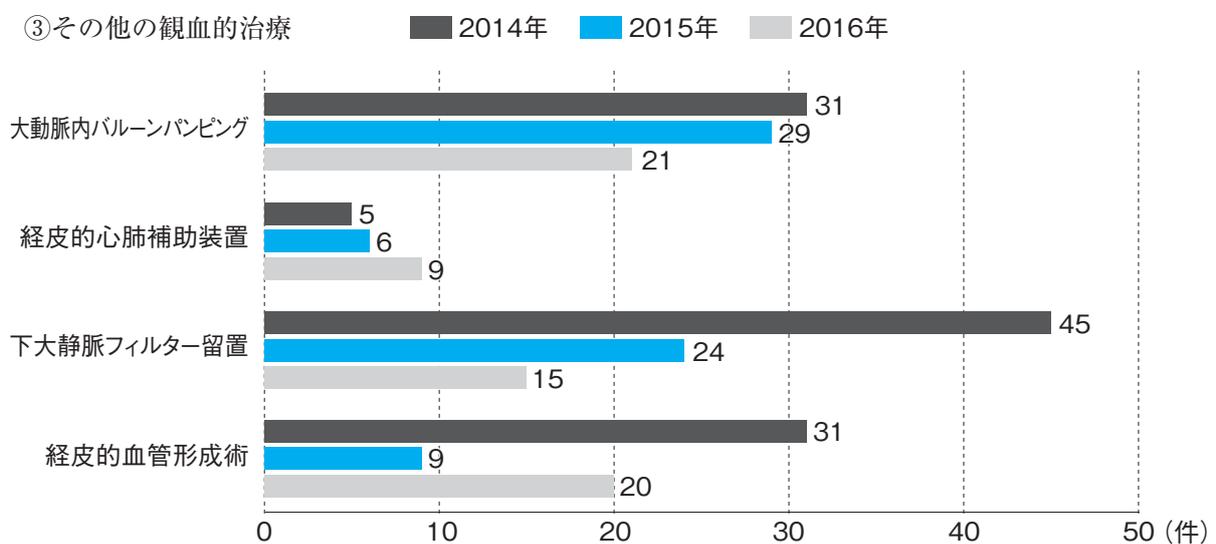
#### ①虚血性心疾患治療



#### ②不整脈治療



#### ③その他の観血的治療



# 腎臓内科

## 1. 概要

当科の主な診療領域は、腎炎・ネフローゼ症候群・腎不全（腎後性腎不全は除く）などの内科的腎臓病一般の他に、透析を含む血液浄化である。尿路結石・腫瘍・感染症は、取り扱っていない。また、透析患者のシャントトラブルも扱っていない。

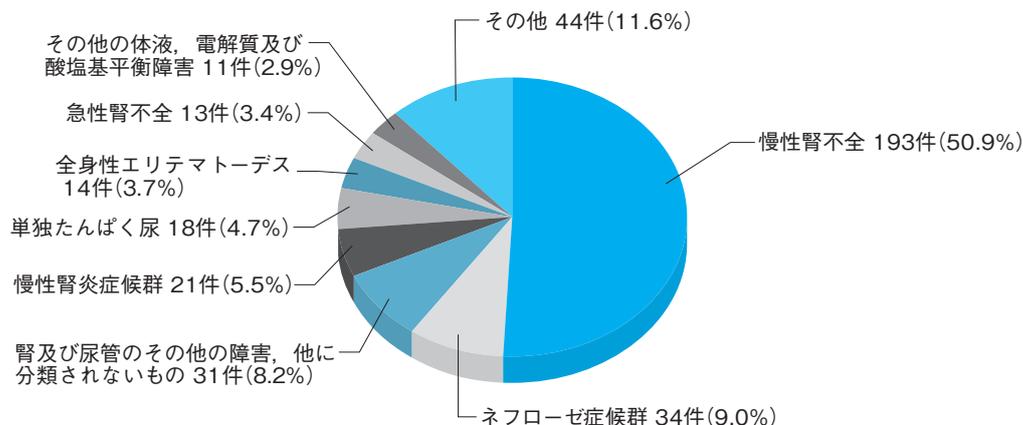
当院は東三河地域の基幹病院であるが、その中で常勤医師数からして内科の中で一番小さな科であるものの、多種多様な病態の診療に携わっている。実際、急性腎不全（AKI）を始めとする重症患者の血液浄化の依頼やコンサルトは多く、維持透析患者の合併症や保存期の慢性腎不全（CKD）患者の治療にも関わっている。

腎炎やネフローゼ症候群には、名古屋大学腎臓内科の御支援の下、積極的に腎生検を行い、診断・治療に役立てている。末期腎不全に対しては、スタッフ不足から新規の通院透析患者は受け入れられないものの、移植外科と連携して腎移植には対応可能である。その他に、MEや看護師の協力により、血漿交換・免疫吸着・持続的血液ろ過透析（CHDF）などを病態に応じて施行している。

(部長 山川 大志)

## 2. 新規登録疾患

総数：379件



疾患名	主となるICD-10病名	件数(件)	ICD-10
慢性腎不全	慢性腎不全, 詳細不明	177	N189
	末期腎疾患	16	N180
ネフローゼ症候群	ネフローゼ症候群, 詳細不明	34	N049
腎及び尿管のその他の障害, 他に分類されないもの	腎及び尿管の障害, 詳細不明	30	N289
慢性腎炎症候群	慢性腎炎症候群, 詳細不明	21	N039
単独たんぱく尿	単独たんぱく尿	18	R80
全身性エリテマトーデス	全身性エリテマトーデス, 詳細不明	12	M329
急性腎不全	急性腎不全, 詳細不明	13	N179
その他の体液, 電解質及び酸塩基平衡障害	低カリウム血症	6	E876

### 3. 活動報告

#### (1) 患者状況

年間外来患者数	12,866人	年間外来新患者数	628人
年間入院患者数	4,982人	年間入院新患者数	350人

#### (2) 科指定5疾患

	疾患名	件数(件)		疾患名	件数(件)
1	慢性腎不全	326	4	IgA 腎症	10
2	ネフローゼ症候群	77	5	急速進行性糸球体腎炎	10
3	急性腎不全	35		計	458

# 糖尿病・内分泌内科

## 1. 概要

当科の診療内容は、糖尿病と各種内分泌・代謝疾患である。日本糖尿病療養指導士15名他の協力で、糖尿病教育入院の他、療養指導外来、フットケア外来、糖尿病透析予防指導外来を設置している。通常のインスリンポンプ療法（CSII）に加え、SAP（CGMつきCSII）療法が増加しつつあり、約半数がSAP療法となっている。年末には新しく保険収載された2週間連続で血糖値を記録できるFlash Glucose Monitoring式のCGMを運用開始した。

日本糖尿病協会の支部として友の会があり、11月の全国糖尿病週間に合わせて院内での啓発活動を実施した。この年は新企画としてアトリウムでのミニ糖尿病教室とポイントラリー形式の参加型展示を行った。

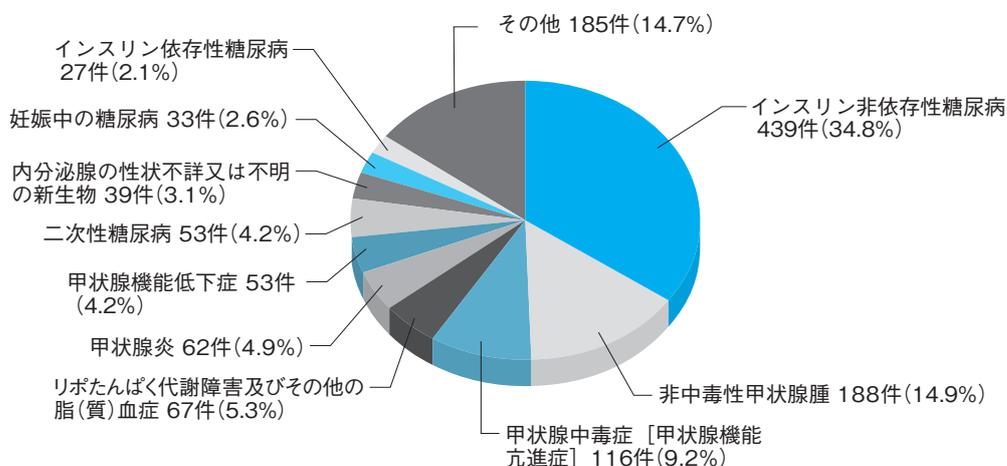
各種内分泌疾患に対しては各種負荷試験、画像診断を元に正確な診断を行い、一般外科、泌尿器科、移植外科、脳神経外科、放射線科などとの密接な連携の元に治療を行っている。放射線科には原発性アルドステロン症に対する選択的副腎静脈サンプリングも依頼している。

人事面では動きがなかった。

(部長 山守 育雄)

## 2. 新規登録疾患

総数：1,262件



疾患名	主となるICD-10病名	件数(件)	ICD-10
インスリン非依存性糖尿病	インスリン非依存性糖尿病	394	E11
	インスリン非依存性糖尿病,多発合併症を伴うもの	25	E117
非中毒性甲状腺腫	非中毒性甲状腺腫, 詳細不明	174	E049
	非中毒性単発性甲状腺結節	11	E041
甲状腺中毒症 [甲状腺機能亢進症]	びまん性甲状腺腫を伴う甲状腺中毒症	102	E050
	甲状腺中毒症, 詳細不明	14	E059
リポたんぱく代謝障害及びその他の脂(質)血症	高脂(質)血症, 詳細不明	64	E785
甲状腺炎	自己免疫性甲状腺炎	55	E063
甲状腺機能低下症	甲状腺機能低下症, 詳細不明	51	E039
二次性糖尿病	詳細不明の糖尿病	37	E14
内分泌腺の性状不詳又は不明の新生物	内分泌腺の性状不詳又は不明の新生物,副腎	22	D441
	内分泌腺の性状不詳又は不明の新生物,甲状腺	14	D440
妊娠中の糖尿病	妊娠中に発生した糖尿病	33	O244
インスリン依存性糖尿病	インスリン依存性糖尿病	24	E10

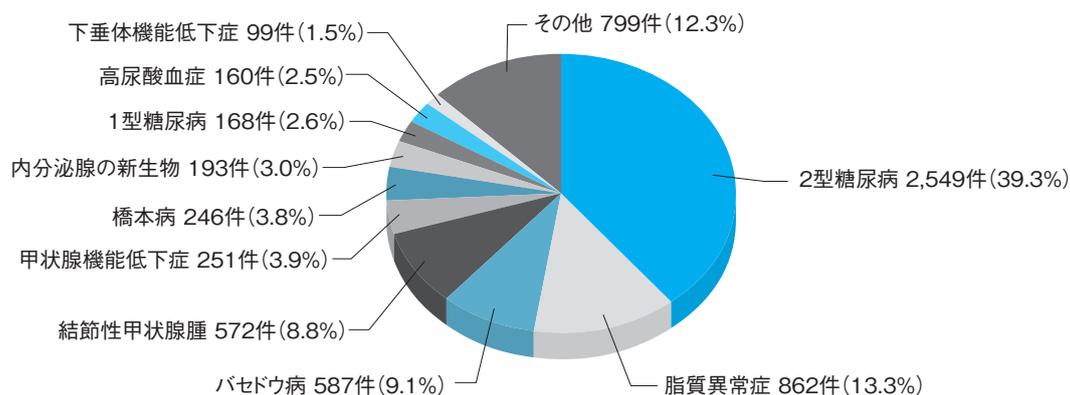
### 3. 活動報告

#### (1) 患者状況

年間外来患者数	19,591人	年間外来新患者数	1,045人
年間入院患者数	3,024人	年間入院新患者数	248人

#### (2) 疾患別頻度

総数：6,486件



# 神経内科

## 1. 概要

2016年のスタッフは、昨年同様5名で診療に当たった。

総入院患者数は年々増え、2016年は昨年より100人余り増加し、795人であった。また、常に定床をオーバーしており、多くの病棟に入院患者が分散したため、回診が大変であった。今年度の主なトピックは、以下のごとくである。

- ① ギランバレー症候群が多く、例年数名のところ、今年度はフィッシャー症候群を含め14名の入院があった。
- ② 相変わらず高齢者のてんかんが多い。
- ③ 脳表ヘモジデリン沈着症や肥厚性硬膜炎など比較的珍しい例もあった。
- ④ 退院・転院に際し、家族背景や社会的背景の難しい患者が相変わらず多く、患者総合支援センターのお世話になっている。

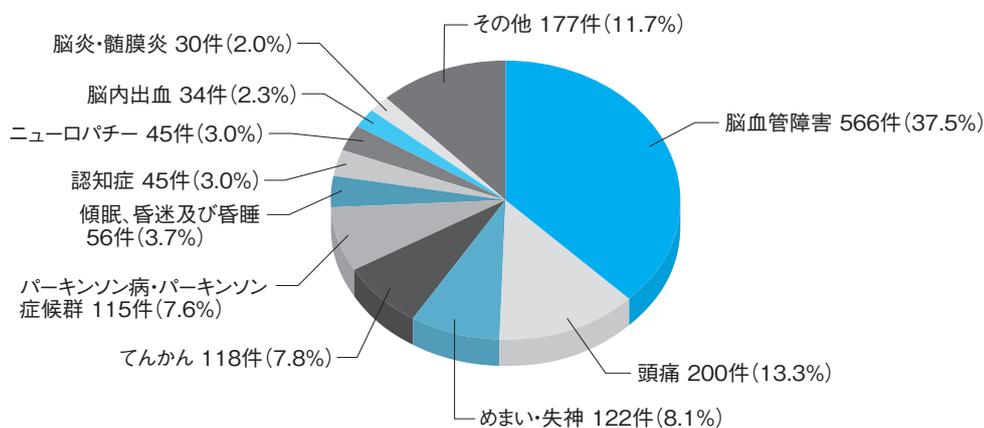
外来の年間受診者総数は8,894人で例年同様、その内初診者数は1,113人と選定療養費の影響でやや減少したものの、紹介状持参の予約外患者が増えており、対応に苦慮している。

(部長 岩井 克成)

(文責 前部長 李野 謙次)

## 2. 新規登録疾患

総数：1,508件



疾患名	主となるICD-10病名	件数(件)	ICD-10
脳血管障害	脳動脈の血栓症による脳梗塞	241	I633
	脳動脈の塞栓症による脳梗塞	118	I634
頭痛	頭痛	159	R51
	緊張性頭痛	22	G442
めまい・失神	めまい感及びよろめき感	106	R42
	失神及び虚脱	16	R55
てんかん	その他のてんかん	47	G408
	てんかん, 詳細不明	43	G409
パーキンソン病・パーキンソン症候群	パーキンソン病	102	G20
傾眠, 昏迷及び昏睡	昏睡, 詳細不明	56	R402
認知症	アルツハイマー病, 詳細不明	28	G309
ニューロパチー	多発(性)ニューロパチー, 詳細不明	24	G629
	ギラン・バレー症候群	14	G610
脳内出血	(大脳)半球の脳内出血, 皮質下	21	I610
脳炎・髄膜炎	脳炎, 脊髄炎及び脳脊髄炎, 詳細不明	7	G049
	急性播種性脳炎	5	G040

### 3. 活動報告

#### (1) 患者状況

年間外来患者数	12,093人	年間外来新患者数	1,488人
年間入院患者数	17,118人	年間入院新患者数	808人

#### (2) 神経難病6疾患

	疾患名	件数(件)
1	パーキンソン病・パーキンソン症候群	161
2	多系統萎縮症	6
3	脊髄小脳変性症	6
4	筋萎縮性側索硬化症・球脊髄性筋萎縮症	9
5	重症筋無力症	15
6	多発性硬化症	14
	計	211

# 血液・腫瘍内科

## 1. 概要

2016年度は5名のスタッフにて、1日約50から60人の外来と、約40から50人の入院に対する診療を行った。疾患の多くは血液腫瘍であり、若年者から高齢者まで対象年齢は幅広い。血液腫瘍は化学療法の効果が期待しやすいことが多く、高齢者であっても可能な範囲で積極的に化学療法を行っている。また、造血幹細胞移植も適応のある症例では行っており、本年度は自己末梢血幹細胞移植を9例に、同種造血幹細胞移植を17例（血縁者間4例、非血縁者間13例）に施行した。

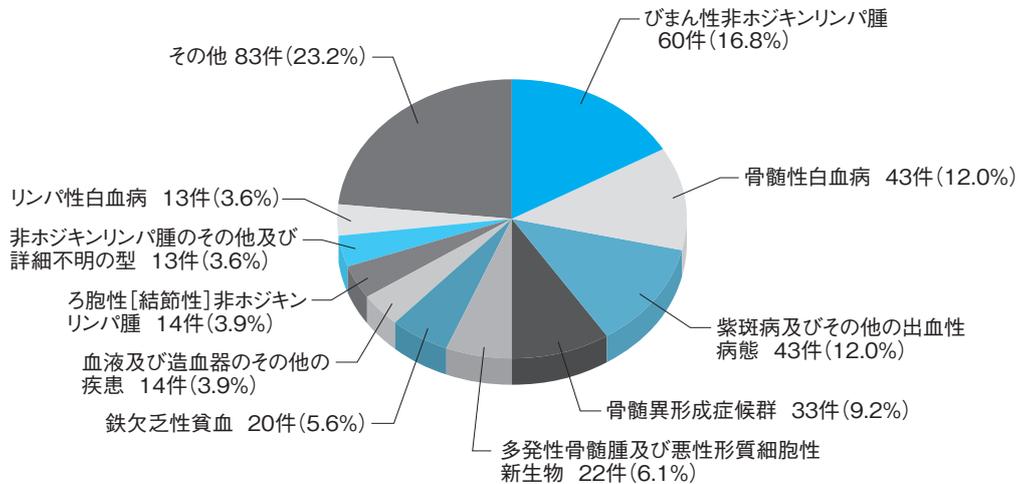
本年度の重点項目として、チーム医療及び耐性菌管理を挙げた。血液腫瘍に対する治療は強力になりやすく、特に同種造血幹細胞移植においては顕著である。そのために様々な合併症が起きやすいが、それらに対応するため、また、治療を円滑に進めるため、他領域専門職種とのチーム医療が望ましく、積極的に実践した。また、治療の安全性のためには感染症管理も重要であり、特に耐性菌管理に注意を払って診療を行った。

(第一部長 杉浦 勇)

(文責 第二部長 倉橋 信悟)

## 2. 新規登録疾患

総数：358件



疾患名	主となるICD-10病名	件数(件)	ICD-10
びまん性非ホジキンリンパ腫	大細胞型 (びまん性)	57	C833
骨髄性白血病	急性骨髄性白血病	29	C920,C924
	慢性骨髄性白血病	12	C921
紫斑病及びその他の出血性病態	特発性血小板減少性紫斑病	29	D693
	血小板減少症, 詳細不明	14	D696
骨髄異形成症候群	骨髄異形成症候群, 詳細不明	25	D469
	芽球過剰性不応性貧血	6	D462
多発性骨髄腫及び悪性形質細胞性新生物	多発性骨髄腫	19	C900
鉄欠乏性貧血	鉄欠乏性貧血, 詳細不明	20	D509
血液及び造血器のその他の疾患	真性赤血球増加症	6	D45
	本態性血小板増加症	6	D752
ろ胞性 [結節性] 非ホジキンリンパ腫	中細胞及び大細胞混合型, ろ胞性	9	C821
	ろ胞性非ホジキンリンパ腫, 詳細不明	3	C829
非ホジキンリンパ腫のその他及び詳細不明の型	B細胞リンパ腫, 詳細不明	6	C851
	非ホジキンリンパ腫のその他の明示された型	5	C857
リンパ性白血病	急性リンパ芽球性白血病	8	C910
	成人型T細胞白血病	3	C915
	慢性リンパ球性白血病	2	C911

### 3. 活動報告

#### (1) 患者状況

年間外来患者数	13,984人	年間外来新患者数	445人
年間入院患者数	16,180人	年間入院新患者数	552人

#### (2) 感染症

延べ総件数：199件

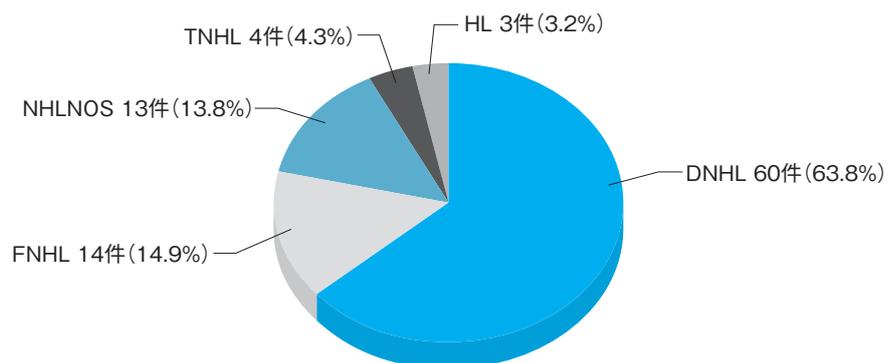
	疾患名	件数(件)		疾患名	件数(件)
1	敗血症	48	5	ヘルペス感染症	19
2	カンジダ症	70	6	ニューモシスチス症	4
3	真菌症	20	7	アスペルギルス症	12
4	サイトメガロウイルス病	26		計	199

#### (3) 造血幹細胞移植

種類			件数(件)
自家移植			9
同種移植	血縁者間	同胞	2 (骨髄：2 末梢血：0)
		半合致	2
	非血縁者間	骨髄バンク	8
		臍帯血バンク	5

(4) 悪性リンパ腫の組織分類 (ICD10 C81-85)

総件数：94件



略語	疾患名
DNHL	びまん性非ホジキンリンパ腫
FNHL	ろ胞性〔結節性〕非ホジキンリンパ腫
NHLNOS	非ホジキンリンパ腫のその他及び詳細不明の型
TNHL	末梢性及び皮膚T細胞リンパ腫
HL	ホジキン病

# 一般外科・小児外科・肛門外科

## 1. 概要

### (1) 一般外科・小児外科

2016年の手術総数は1,604件で、そのうち15歳以下の小児手術は163件。全緊急手術は282件(17.6%)。対象疾患は、虫垂炎やヘルニアといった日常的な疾患から甲状腺・消化器・乳腺の悪性腫瘍まで幅広い。

腹腔鏡下手術は、胃癌切除105件中34件(32.4%)、大腸癌切除200件中68件(34%)、肝部分切除16件中8件(50%)肝外側区域切除2件中1件(50%)に対し行われた。最近では、虫垂や成人鼠径ヘルニアに対しても積極的に腹腔鏡を導入し、2016年には、虫垂炎手術127件中38件(30%)、鼠径ヘルニア手術211件中17件(8%)に行われた。2014年11月より直腸癌に対するロボット支援下手術を臨床研究として開始し、2016年には18件行った。また、2015年4月からは早期胃癌に対してもロボット支援手術が開始され2016年は5件行った。

乳癌手術は144件で、乳房温存手術は63件、センチネルリンパ節生検陰性は113件であった。乳腺専門医と形成外科医による乳房全摘同時再建手術(Tissue expander挿入)は4件に行われた。

肝切除30件で、疾患別内訳は、原発性肝癌14、転移性肝癌9、胆道癌5、その他2。

膵頭十二指腸切除は22件で4件が標準的膵頭十二指腸切除で、残り18件は亜全胃温存で行われた。この疾患別内訳は、膵頭部癌10、胆嚢・胆管癌3、乳頭部癌2、乳頭部腺腫2、十二指腸癌2、十二指腸腺腫1、IPMN1、特殊膵炎(IgG4関連疾患)1。

食道癌は5件に根治手術が行われ、3領域郭清が4件、2領域郭清が1件であった。

上部消化管潰瘍穿孔10件のうち非手術的保存療法は6件(60%)だった。

腸閉塞入院は191件のうち45件(23.6%)に手術が施行された。

小児外科手術は名古屋大学小児外科と連携し治療に当たっており、新生児手術は3件であった。

一般外科全体の入院総数は2,171人と昨年の2,203人よりやや減少し、平均入院期間は10.9日とこちらは昨年の11日よりわずかに減少していたがおおむね同様の傾向であった。

(第一部長 平松 和洋)

### (2) 肛門外科

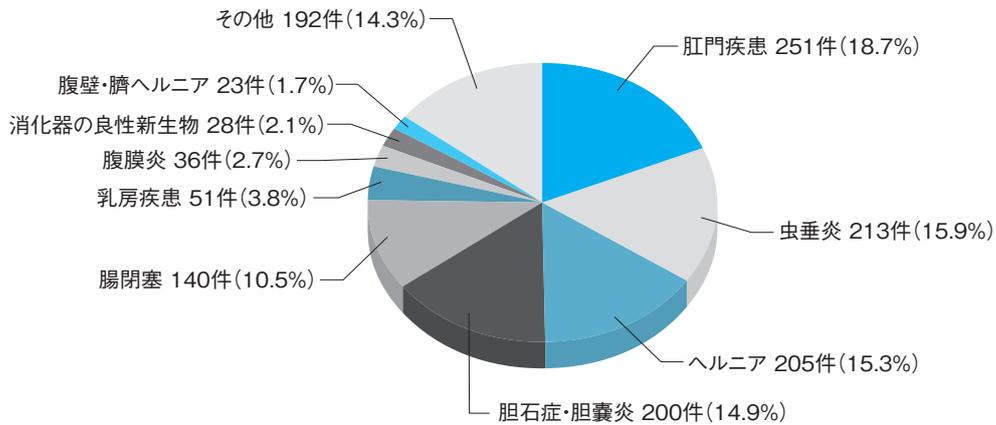
“肛門外科”は当院移転新設に伴い一般外科から離れ、単科(こう門科)と標榜されたが、診療・治療は一般外科と共同で運営している。外科としての外来診療における統計では、悪性疾患治療を除くと痔核を筆頭とした肛門疾患、症状にて受診される患者が多い。肛門というデリケートな部分であることから専門性を必要とした治療においてはやはり専門家での診療・治療を希望される方も多い。肛門外科として標榜している診療日は木曜日の日だけであるが、常勤で外科診療に携わっている利点から、日々肛門外科として診察や治療に当たっている。外来診察の際は、患者が安心して受診できるような応対・環境整備を心掛け、診察で患者に不自由・不快な思いを持たれないように努力している。良性疾患であり、外来処置や生活指導・薬物療法など保存治療に重きを置き、患者の症状によって手術適応を決めている。一方、“ストーマ外来”を認定看護師とともに行っている。

(部長 柴田 佳久)

## 2. 新規登録疾患

(1) 悪性新生物以外

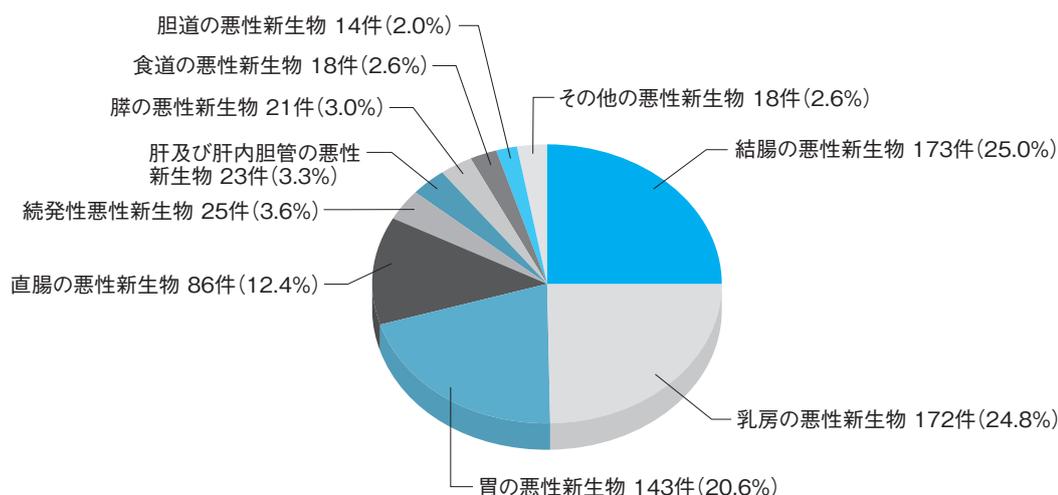
総件数：1,339件



疾患名	主となるICD-10病名	件数(件)	ICD-10
肛門疾患	合併症を伴わない内痔核	91	I842
	合併症を伴わない痔核, 詳細不明	47	I849
虫垂炎	急性虫垂炎, 詳細不明	112	K359
	汎発性腹膜炎を伴う急性虫垂炎	11	K350
ヘルニア	一側性又は患側不明のそけいヘルニア, 閉塞又はえ疽を伴わないもの	191	K409
胆石症・胆嚢炎	胆のう炎を伴わない胆のう結石	114	K802
	その他の胆のう炎を伴う胆のう結石	24	K801
腸閉塞	閉塞を伴う腸癒着[索条物]、イレウス, 詳細不明	98	K565、K567
乳房疾患	乳房の良性新生物	51	D24
腹膜炎	急性腹膜炎	33	K650
消化器の良性新生物	口腔及び消化器の性状不詳又は不明の新生物, その他の消化器	11	D377
腹壁・臍ヘルニア	腹壁ヘルニア, 閉塞又はえ疽を伴わないもの	13	K439

(2) 悪性新生物

総件数：693件



疾患名	主となるICD-10病名	件数(件)	ICD-10
結腸の悪性新生物	結腸の悪性新生物, S状結腸	69	C187
	結腸の悪性新生物, 上行結腸	42	C182
乳房の悪性新生物	乳房の悪性新生物, 乳房, 部位不明	92	C509
	乳房の悪性新生物, 乳房上外側4分の1	35	C504
胃の悪性新生物	胃の悪性新生物, 胃, 部位不明	111	C169
	胃の悪性新生物, 胃体部	17	C162
直腸の悪性新生物	直腸の悪性新生物	86	C20
続発性悪性新生物	肝の続発性悪性新生物	13	C787
	後腹膜及び腹膜の続発性悪性新生物	11	C786
肝及び肝内胆管の悪性新生物	肝及び肝内胆管の悪性新生物, 肝癌	20	C220
脾の悪性新生物	脾の悪性新生物, 脾, 部位不明	10	C259
食道の悪性新生物	食道の悪性新生物, 食道, 部位不明	14	C159
胆道の悪性新生物	その他及び部位不明の胆道の悪性新生物, 肝外胆管	10	C240

### 3. 活動報告

#### (1) 患者状況

年間外来患者数	34,508人	年間外来新患者数	2,373人
年間入院患者数	23,387人	年間入院新患者数	2,052人

#### (2) 2016年入院概要 (全平均入院期間10.9日)

疾患名	治療法	患者数 (人)	平均入院 期間(日)
イレウス	手術	45	15.2
	保存療法	146	9.5
外傷	手術	11	28.8
	IVR	3	37.7
	保存療法	18	16.7
合併症治療・抗がん剤有害事象	保存療法	95	10.6
その他	手術	22	9.7
	保存療法	46	12.5
その他／悪性	手術	5	9.2
	保存療法	1	8
甲状腺／良性	手術	10	5.5
	保存療法	0	0
甲状腺／悪性	手術	10	5.6
	保存療法	0	0
内分泌	予定手術	0	0
非新生児	手術	143	2.4
	保存療法	12	5.1
腹腔内癌再発	手術	2	5
	保存・緩和療法	6	10.4
腹膜炎	手術	27	26.8
	保存療法	29	10.3
ヘルニア	手術	218	2.9
	保存療法	3	4
痔核・痔瘻	手術	31	5.7
虫垂	手術	136	4.4
	保存療法	31	8
胃十二指腸／良性	手術	4	14.3
	保存療法	6	12.5

疾患名	治療法	患者数 (人)	平均入院 期間(日)
胃十二指腸／悪性	手術	124	16.9
	化学療法	7	13.4
	放射線療法	2	28.0
	緩和療法	16	18.8
	保存療法	35	10.7
肝胆膵脾	手術	265	11.0
	保存療法	52	13.3
	緩和療法	8	18.1
	化学療法	13	5.5
	放射線療法・IVR	3	22.0
小・大腸／悪性	手術	245	16.8
	保存療法	21	13.4
	緩和療法	23	26.9
	保存療法	52	13.4
小・大腸／良性	手術	22	21.4
	保存療法	7	8.0
食道／悪性	手術	5	19.4
	保存療法	5	9.2
	化学/放治	8	17.6
	緩和療法	1	22.0
食道／良性	保存療法	2	34.5
乳腺／その他	手術	4	6.3
乳腺／悪性	手術	149	6.8
	保存療法	17	15.4
	緩和療法	12	12.9
	化学/放治	13	20

(3) 一般外科・小児外科手術数 (2016年) 1,604例

①一般外科	1,604	(a)小腸切除	17(1)
全身麻酔	1,208	(b)腸瘻造設	2
脊髄麻酔	114	(c)腸瘻閉鎖	10
局部麻酔	281	(d)腸吻合	1
(ア)甲状腺		(e)結腸直腸切除	10(4)
a 良性疾患		(f)大腸亜全摘	1
(a)部分切除	0	(g)癒着剥離	26(2)
(b)葉切、亜全摘、全摘	10	(h)経肛門／経仙骨	0
b 悪性疾患		(i)単開腹／その他	2
(a)部分切除、亜全摘、他	3	b 悪性疾患	
(b)全摘	10	(a)腸瘻造設	22(1)
(イ)乳 腺		(b)腸吻合	0
a 良性疾患 摘出	7	(c)小腸切除	3(1)
腺管区域切除	1	(d)結腸切除	128(40)
b 悪性疾患	144	(e)直腸切除 (高位、低位)	61(24)
(a)定型乳切	0	(f)直腸切斷	11(4)
(b)非定型乳切 (Bt+Ax)	30	(g)経肛門／仙骨的切除	0
(c)Bt±SLNB	50	(h)骨盤内臓全摘	1
(d)乳房温存手術±SLNB	63	(i)大腸亜全摘	0
(e)Tm他	1	(j)単開腹／その他	0
(ウ)食 道		(カ)虫垂炎 (虫垂 / 回盲部切除)	127(38)
a 良性疾患	0	(キ)肝/胆/膵/脾	
b 悪性疾患		(a)肝部分切除	16(8)
(a)胸部食道切除	6	(b)肝区域／葉切除	12(1)
(b)その他	0	(c)胆嚢床切除	3
(エ)胃・十二指腸		(d)開腹胆嚢摘出術	14
a 良性疾患		(e)腹腔鏡下胆嚢摘出術	175
(a)胃切除、胃全摘	0	(f)開腹胆管切開術	6
(b)体網充填	7	(g)胆管消化管吻合	1
b 悪性疾患		(h)胆管切除	5
(a)幽門側胃切除	72(29)	(i)膵頭十二指腸切除 (PD)	3
(b)胃全摘	33(5)	(j)亜全胃温存PD	19
(c)噴門側胃切除	0	(k)膵尾部切除	12
(d)腹腔鏡下胃切除	34	(l)膵全摘	0
(e)胃腸吻合	8	(m)膵部分切除	1
(f)楔状切除／十二指腸切除	6(2)	(n)膵管空腸吻合	0
(g)PD	0	(o)脾摘	0
(h)試験開腹／その他	4	(p)胃腸吻合	0
(オ)小腸・大腸		(q)単開腹／その他	3
a 良性疾患			

(ク)内分泌	(セ)腹腔内癌再発	15
(a)副甲状腺	(ソ)その他	33
(b)副腎	②小児外科(全例全身麻酔)	163
(ケ)ヘルニア	(ア)新生児手術	3
(a)鼠径大腿	(イ)鼠径ヘルニア	78(73)
(b)腹壁・臍・閉鎖孔など	(ウ)虫垂切除	31(18)
(コ)痔核痔瘻	(エ)精巣固定	13
(カ)局麻手術	(オ)臍形成	9
(a)摘出、生検	(カ)幽門筋切開	1(1)
(b)その他	(キ)その他	28(3)
(シ)外傷／医原性		
(ス)腹膜炎		

( )内はその内の鏡視下手術件数

# 呼吸器外科

## 1. 概要

心臓と食道、乳がんを除く胸部疾患を対象としている。主対象である肺癌は、死因の第1位で増加の一途をたどっている。ヘビースモーカーの多かった団塊の世代が、肺癌好発年齢の中心を占め、今後しばらく減少する気配は見られない。

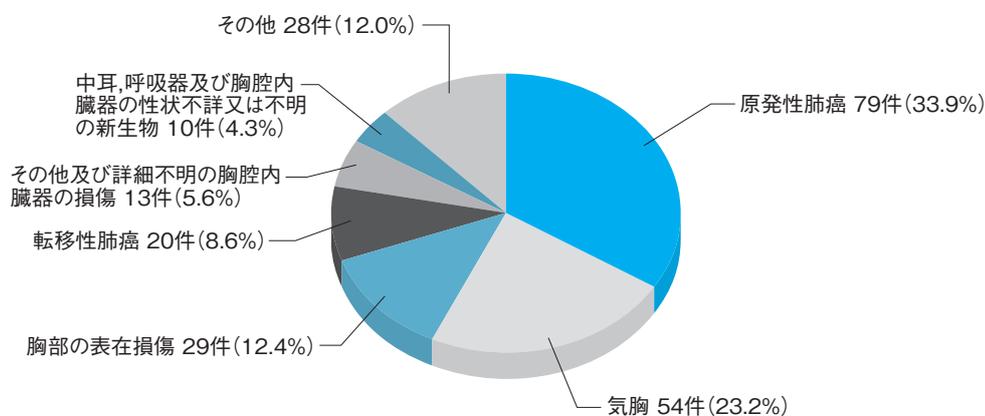
近年では胸腔鏡を用いて開胸創をより小さく、手術浸潤を軽減することで、標準的な肺癌手術でも、手術前日の入院から退院まで5から7日間の治療が可能となっている。残念ながら、定期健診を受けずに進行癌となってから来院されるケースもあり、この場合はすでにリンパ節や他臓器に転移していることも多く、再発の危険が増すばかりか抗癌剤投与や放射線治療の追加が必要となり、経済面や治療時間においても負担が大きくなる。したがって早期発見のため、無症状のうちに受ける住民健診等による定期的なスクリーニングが極めて重要である。

毎週定期的に、呼吸器内科・放射線科と合同カンファレンスを行って、個々の症例に関して治療方針を検討しており、症例ごと病状に適した治療が行えるよう心がけている。

(部長 成田 久仁夫)

## 2. 新規登録疾患

総数：233件



疾患名	主となるICD-10病名	件数(件)	ICD-10
原発性肺癌	気管支及び肺の悪性新生物，気管支又は肺，部位不明	77	C349
気胸	その他の自然気胸	26	J931
	気胸，詳細不明	24	J939
胸部の表在損傷	胸部の挫傷	29	S202
転移性肺癌	肺の続発性悪性新生物	20	C780
その他及び詳細不明の胸腔内臓器の損傷	外傷性気胸	4	S270
	外傷性血胸	4	S271
中耳，呼吸器及び胸腔内臓器の性状不詳又は不明の新生物	中耳，呼吸器及び胸腔内臓器の性状不詳又は不明の新生物，縦隔	7	D383
	中耳，呼吸器及び胸腔内臓器の性状不詳又は不明の新生物，気管，気管支及び肺	3	D381

### 3. 活動報告

#### (1) 患者状況

年間外来患者数	2,593人	年間外来新患者数	312人
年間入院患者数	2,207人	年間入院新患者数	206人

# 心臓外科・血管外科

## 1. 概要

先天性心疾患：NMCにおいて1kgに満たない小さな子たちに救命的な手術を行っている。以前より一貫して将来を見越した胸筋温存による手術を行っており、この術式を取り入れている施設は全国でもごくわずかである。それ以外の症例については、他院へお連れして手術を行っている。

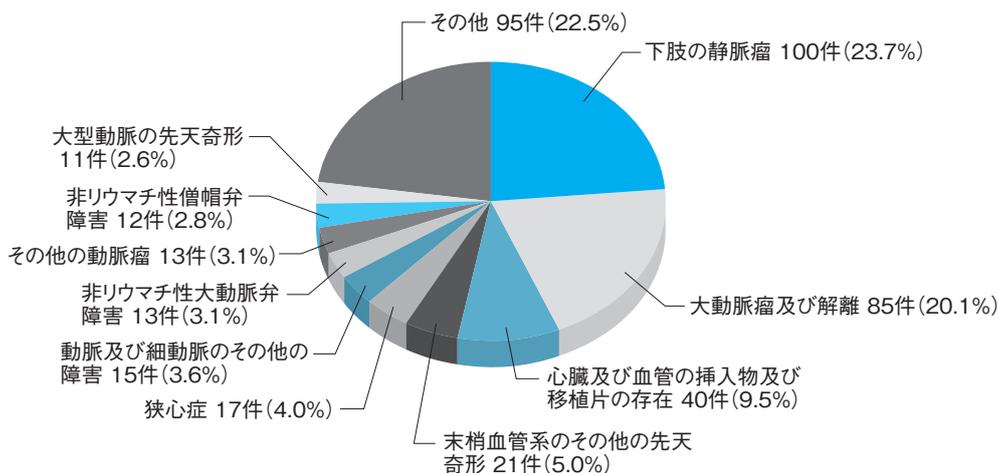
成人心疾患：症例数が多くなくチームの練度が上がらないのが現状であるが、日々のカンファレンスを充実させ一步一步進んでいる。

血管外科：下肢静脈瘤に対して血管内焼灼手術を取り入れてから、2年以上がたち130例を超える方々に施行した。静脈瘤の再開通例はなく海外のデータと比較しても良い成績であると自負している。現在、腹部大動脈瘤に対するステント治療を当院でできるようにするため、ハイブリッド手術室の準備を進めており、多くの方々の協力を得て目標実現に向かっている。

(部長 中山 雅人)

## 2. 新規登録疾患

総数：422件



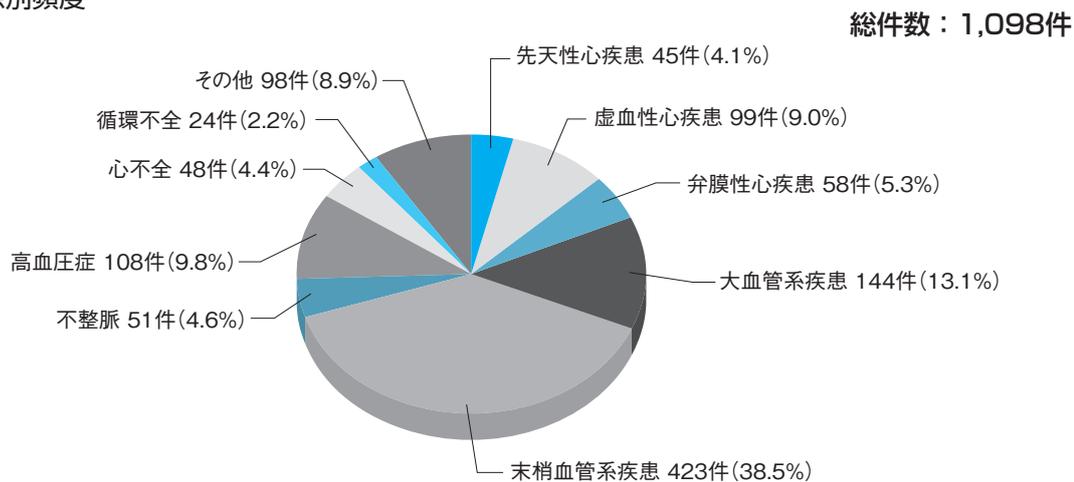
疾患名	主となるICD-10病名	件数(件)	ICD-10
下肢の静脈瘤	潰瘍又は炎症を伴わない下肢の静脈瘤	64	I839
	炎症を伴う下肢の静脈瘤	36	I831
大動脈瘤及び解離	腹部大動脈瘤, 破裂の記載がないもの	46	I714
	大動脈の解離 [各部位]	21	I710
心臓及び血管の挿入物及び移植片の存在	その他の心臓及び血管の挿入物及び移植片の存在	30	Z958
末梢血管系のその他の先天奇形	末梢血管系のその他の明示された先天奇形	21	Q278
狭心症	狭心症, 詳細不明	16	I209
動脈及び細動脈のその他の障害	動脈の狭窄	14	I771
非リウマチ性大動脈弁障害	大動脈弁閉鎖不全 (症)	8	I351
その他の動脈瘤	部位不明の動脈瘤	9	I729
非リウマチ性僧帽弁障害	僧帽弁閉鎖不全 (症)	12	I340
大型動脈の先天奇形	動脈管開存 (症)	9	Q250

### 3. 活動報告

#### (1) 患者状況

年間外来患者数	2,806人	年間外来新患者数	241人
年間入院患者数	3,681人	年間入院新患者数	196人

#### (2) 疾患別頻度



# 移植外科

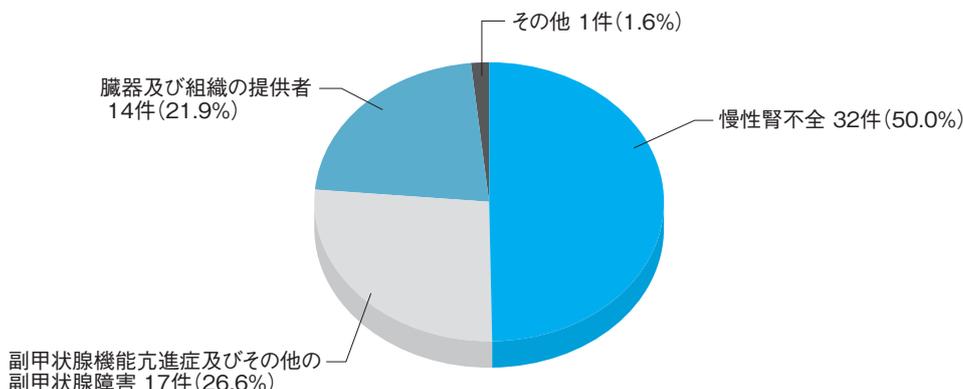
## 1. 概要

2010年4月より移植外科が標榜されて以来、移植外科医2人体制であったが、2012年5月に大塚聡樹医師（15年間勤務）が異動となり、移植外科医は1名となった。2012年10月からは東三河において唯一の腎移植認定施設となってしまったため、当地域の献腎移植登録患者の待機期間中のフォローアップは当院のみで行っている。また、他院で移植された腎移植患者や肝移植患者の定期通院も受け入れており、東三河だけでなく全国の移植施設との間で病診連携がなされている。2016年の腎移植症例は、生体腎移植8例であったが、生体腎移植目的の紹介患者は年々増加しており、今後、腎移植症例はさらに増えてゆくものと思われる。また、長期透析に伴う二次性副甲状腺機能亢進症に対する副甲状腺手術（11例）も年々増加しており、近隣透析施設との病診連携も密に行われている。

（部長 長坂 隆治）

## 2. 新規登録疾患

総数：64件



## 3. 活動報告

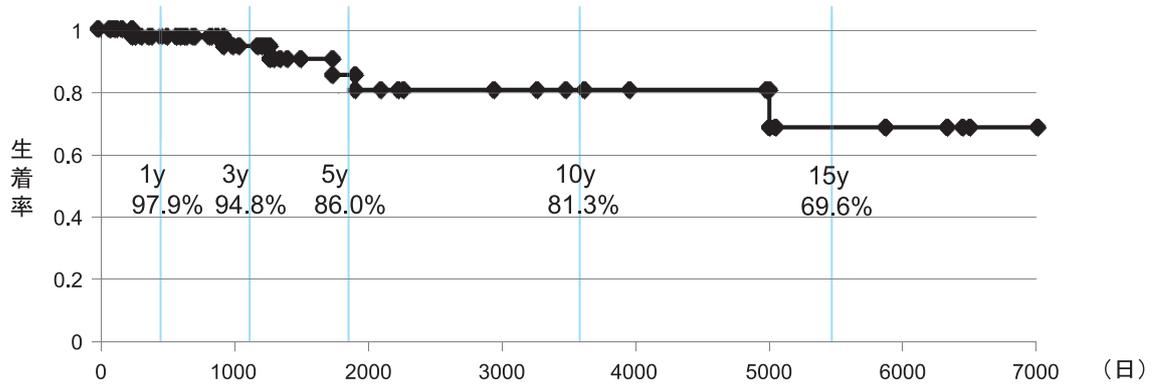
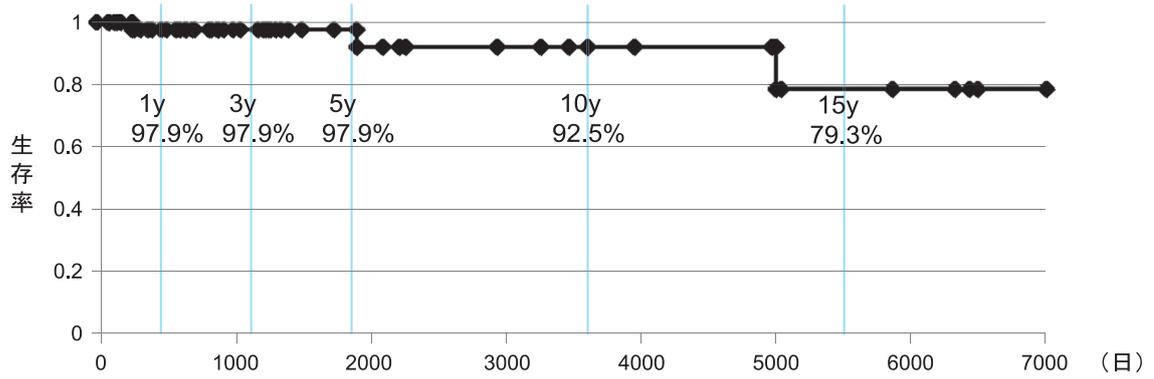
### (1) 患者状況

年間外来患者数	1,357人	年間外来新患者数	44人
年間入院患者数	840人	年間入院新患者数	69人

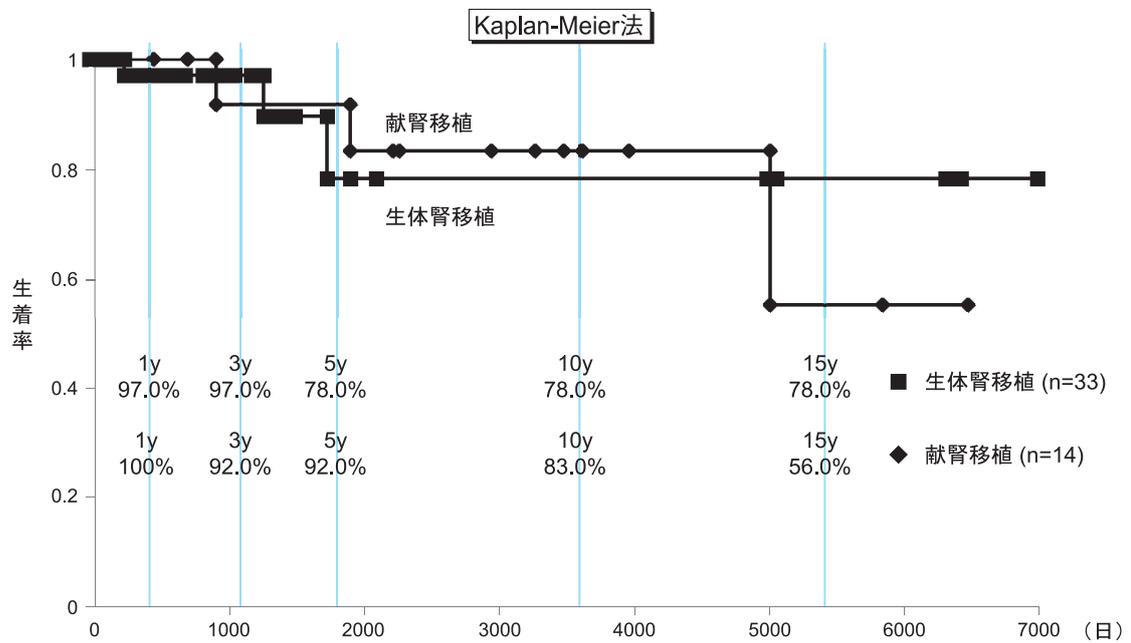
### (2) 外来患者の状況（2017年3月1日現在）

	外来種別	患者数（人）		外来種別	患者数（人）
1	腎移植後	76	4	献腎移植登録外来	111
2	肝移植後	6	5	副甲状腺手術後	54
3	脾移植後	1		計	248

(3) 当院腎移植症例の生存率と生着率 (2017年3月1日現在)



(4) 当院腎移植症例の生着率 (生体腎移植 vs 献腎移植) (2017年3月現在)



# 整形外科

## 1. 概要

2016年12月31日時点の構成は、常勤医（三重野琢磨、山内健一、藤田護、三矢聡、三矢未来）と専攻医（長谷川純也、福井順、岡田裕也）である。

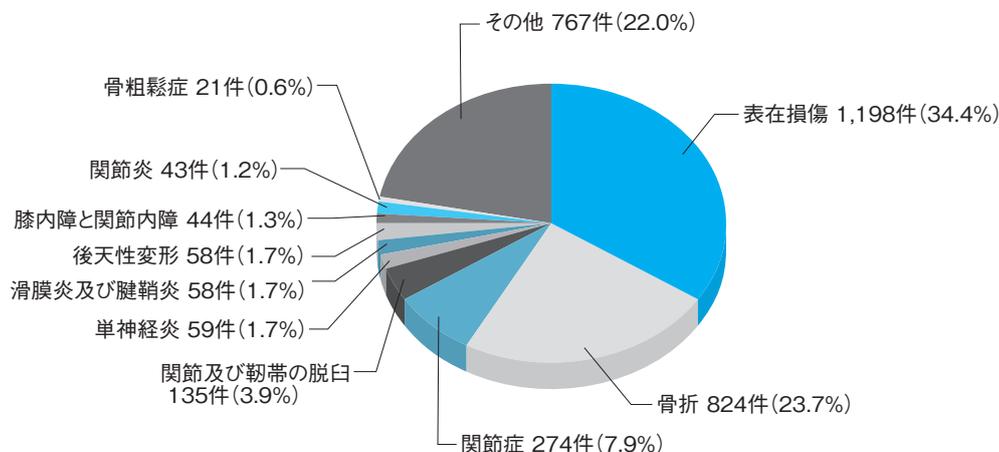
専門外来は小児（三重野）、股関節（山内）、膝・肩関節（藤田）、手（三矢聡）が担当し、月1回で小児（名大：鬼頭准教授）、骨軟部腫瘍（名大：浦川先生）がある。手足の先天異常の手術や切断指の再接着術は三矢聡、膝・肩の鏡視下手術は藤田、人工関節手術は山内と藤田がしている。骨盤骨折に対しても、三矢聡と山内が行っている。大腿骨頸部骨折手術が増え、大腿骨頸部骨折地域連携パスを使用し、市内の回復期病院と連携しているほか、豊橋市こども発達センター「ほいっぷ」に三重野が週1回出張している。

また、名大整形外科と人事交流し、豊橋整形外科研修セミナーを主催した。2月は小児班の三島健一先生、8月は膝・肩班の濱田恭先生の御講演があった。東三整会、三河関節、三河骨軟部、名静会の研究会で近隣の医療機関の医師とも交流を深めている。

（第一部長 山内 健一）  
（文責 前部長 三重野 琢磨）

## 2. 新規登録疾患

総数：3,481件



疾患名	主となるICD-10病名	件数(件)	ICD-10
表在損傷	頸部の表在損傷, 部位不明	203	S109
	下背部及び骨盤部の挫傷	183	S300
骨折	橈骨遠位端骨折	100	S5250
	大腿骨頸部骨折	80	S7200
関節症	膝関節症, 詳細不明	123	M179
	股関節症, 詳細不明	72	M169
関節及び靭帯の脱臼	膝の(前)(後)十字靭帯の捻挫及びストレイン	27	S835
	半月裂傷, 新鮮損傷	21	S832
単神経炎	手根管症候群	19	G560
	尺骨神経の病変	15	G562
滑膜炎及び腱鞘炎	ばね指	28	M6534
	滑膜炎及び腱鞘炎, 詳細不明	12	M6599
後天性変形	外反変形, 他に分類されないもの	18	M2107
	指の変形	15	M200
膝内障と関節内障	関節拘縮	9	M2459
	関節内障, 詳細不明	6	M2492
関節炎	単(発性)関節炎, 他に分類されないもの	6	M1315
	化膿性関節炎, 詳細不明	6	M0095
骨粗鬆症	骨粗しょう症, 詳細不明	20	M8199

### 3. 活動報告

#### (1) 患者状況

年間外来患者数	29,587人	年間外来新患者数	4,584人
年間入院患者数	22,153人	年間入院新患者数	1,227人

#### (2) 骨折頻度

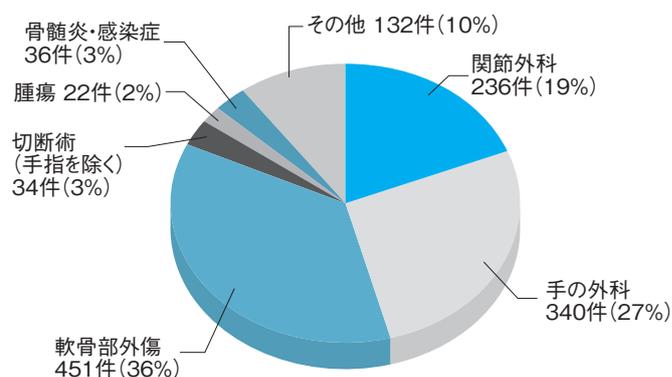
	部 位	件 数 (件)		部 位	件 数 (件)
1	下腿 (足首を含む)	158	5	手首及び手	71
2	大腿骨	157	6	その他	144
3	前腕	156		計	824
4	肩及び上腕	138			

#### (3) 手術実績

①手術症例件数 1,145件

②麻酔別症例件数 (重複あり)

名 称	件 数 (件)
全身麻酔	246
腰椎麻酔	493
伝達麻酔	374
局所麻酔	305
その他	23
計	1,441



③分野別症例件数（重複あり）

(ア)関節外科

a 人工関節

名 称	件 数 (件)
股関節	107
膝関節	29
肩関節	2
肘関節	1
計	139

b 関節形成術

名 称	件 数 (件)
股関節	3
膝関節	0
肩関節	2
計	5

c 関節鏡視下手術

名 称	件 数 (件)
肩関節	7
膝関節	38
手関節	47
足関節	0
計	92

a + b + c 236件

(イ)手の外科

名 称	件 数 (件)
肘・前腕	141
手関節	39
手指	136
マイクロサージャリー	13
足趾、多合指（趾）	11
計	340

(ウ)骨軟部外傷

名 称	件 数 (件)
鎖骨－上腕	49
骨盤－大腿骨頸部	45
大腿－膝	134
下腿	73
足関節－足	51
抜釘	99
計	451

(エ)切断術（手指を除く） 34件  
 (オ)腫瘍 22件  
 (カ)骨髄炎・感染症 36件  
 (キ)その他 132件  
 計 1,251件

# リウマチ科

## 1. 概要

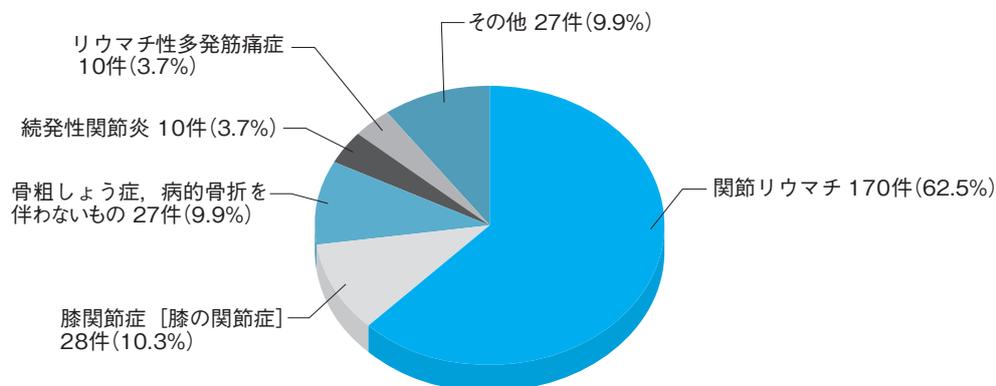
当科は内科的治療を基本とし、整形外科より発展したため外科的治療も行っている。当科の診療の4本柱について記す。2016年度は平野、磯野の2人のリウマチ科常勤医を中心に、研修中の整形外科若手医師の助けも借りて診療に当たっていた。2017年度は磯野の代わりに服部が所属となる。

- ① 関節リウマチ（RA）の薬物治療：MTXを中心とした古典的抗リウマチ薬を早期から使用し、効果不十分例には生物学的製剤やJAK阻害剤を導入し関節破壊の防止に努めている。新薬の治療も行っている。
- ② 各種リウマチ性疾患（強直性脊椎炎、乾癬性関節炎、リウマチ性多発筋痛症、SAPHO症候群）：比較的珍しい疾患群であるが対応し、疾患ごとの適切な治療を行っている。
- ③ 骨粗鬆症の診療：古典的薬剤に加え、新規薬剤（テリパラチド、デノスマブ）が出現し、パラダイムシフトが起こっている。骨折診療の潮流は治療から予防に向かっている。
- ④ RAの外科的治療：長期罹病RA患者には外科的治療が必要であり、薬物治療とのコンビネーションこそが最高の結果をもたらす。人工関節置換術、関節固定術、関節形成術を行っている。

（部長 平野 裕司）

## 2. 新規登録疾患

総数：272件



## 3. 活動報告

### (1) 患者状況

年間外来患者数	12,344人	年間外来新患者数	187人
年間入院患者数	1,401人	年間入院新患者数	58人

## (2) 実績

### ①患者背景

関節リウマチ		
症例数(件)		960
新患者数(各年)(人)		81
性別	男(人)	231
	女(人)	729
	女性率(%)	75.9
平均年齢(歳)		65.6
平均罹病期間(年)		13.7
罹病期間分類(%)	2年以下	14.7
	3年～9年	30.7
	10年以上	54.6
Stage(%)	I	25.5
	II	15.9
	III	23.1
	IV	35.5
Class(%)	1	36.5
	2	49.6
	3	12.4
	4	1.5
RF陽性率(%)		78.2
ACPA陽性率(%)		77.8

### ②薬物治療

関節リウマチ	
MTX 投与者(人)	620
MTX 投与率(%)	64.6
投与例の平均 MTX 投与量(mg/w)	8.2
GST 投与者(人)	32
GST 投与率(%)	3.3
SASP 投与者(人)	171
SASP 投与率(%)	17.8
TAC 投与者(人)	145
TAC 投与率(%)	15.1
IGU 投与者(人)	98
IGU 投与率(%)	10.2
BUC 投与者(人)	21
BUC 投与率(%)	2.2
PSL 投与率(%)	16.9
投与例の平均 PSL 投与量(mg/day)	4.5
生物学的製剤経験者	326
生物学的製剤経験率(%)	34.0

③リウマチ臨床成績

関節リウマチ		
平均CRP (mg/dl)		0.67
平均DAS28 (ESR)		2.88
DAS28 (ESR) 疾患活動性分類 (%)	High	5.1
	Moderate	27.8
	Low	21.7
	Remission	45.3
平均SDAI		6.2
SDAI疾患活動性分類 (%)	High	2.0
	Moderate	14.1
	Low	37.1
	Remission	46.7
Boolean4 (%)		39.3
平均mHAQ		0.4
mHAQ<0.5 (%)		67.7

④手術件数

術 式	件数(件)
人工膝関節全置換術	19
人工膝関節単顆置換術	2
人工股関節置換術	5
足趾形成術	9
RA 手関節手術	1
足関節固定術	0
その他	3
計	39

⑤骨粗鬆症治療

関節リウマチ患者		件数(件)
骨粗鬆症治療の施行	あり	364
	なし	596
ビタミンD 製剤	エディロール	186
	ワークミン	37
	ロカルトロール	1
	デノタス	53
ビスフォスフォネート製剤	アクトネル	81
	ベネット	1
	ボノテオ	113
	ボナロン (ゼリー含)	13
	ボンビバ	12
SERM	エビスタ	19
	ビビアント	11
PTH 製剤	テリボン	0
	フォルテオ (投与中)	5
	フォルテオ (延べ数)	76
抗 RANKL 抗体	プラリア (投与中)	62
	プラリア (延べ数)	67
その他	グラケー	1

# 脊椎外科

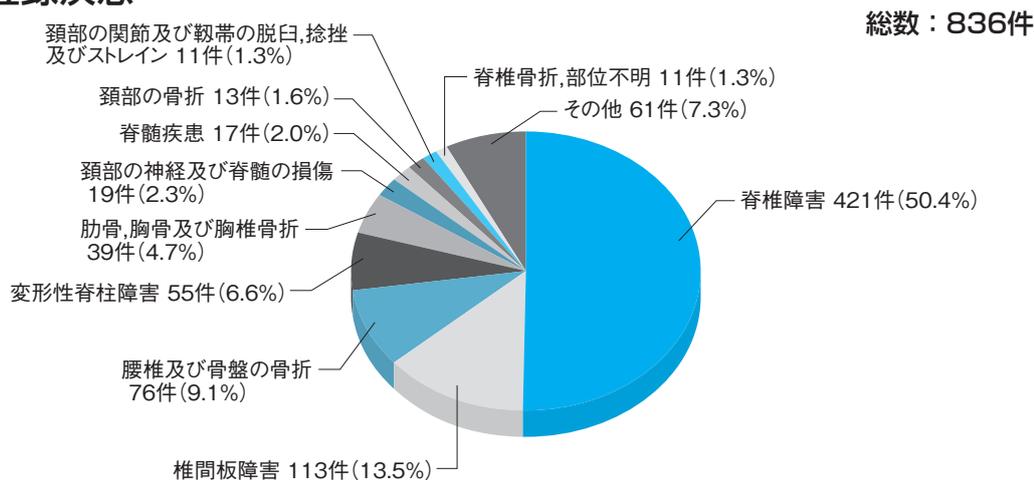
## 1. 概要

脊椎外科は2005年4月1日より院内標榜科として新設された。現在、脊椎外科医は吉原永武（部長）、宮入祐一2名であり、整形外科スタッフの協力を得ながら診療を行っている。年間200件ほどの手術治療を行っているが、頸髄症、脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニアが脊椎外科における3大疾患であり、手術例のほとんどを占める。稀な疾患においては、名古屋大学整形外科脊椎グループと連携をとりながら、できるだけ当院内で高いレベルでの治療が行えるよう対処している。また、2014年から手術室にO-arm CTとナビゲーション機器を導入し、より安全性を向上させた手術が可能となっている。

脊椎疾患の治療には、保存的治療と手術的治療を病態に応じて選択し、的確に実施していくことが重要である。保存的治療もさることながら、とりわけ手術的治療が必要な方に対する十分な治療の提供が当院の使命と考えている。当院での治療成績より得られた貴重な医学的知見について、脊椎外科の発展に寄与すべく国内外の学会及び医学雑誌上での発表も行っている。

（部長 吉原 永武）

## 2. 新規登録疾患



疾患名	主となるICD-10病名	件数(件)	ICD-10
脊椎障害	脊柱管狭窄(症)	136	M4806
	その他の脊椎症	102	M4782
椎間板障害	その他の明示された椎間板ヘルニア	88	M512
	その他の頸部椎間板ヘルニア	23	M502
腰椎及び骨盤の骨折	腰椎骨折	76	S3200
変形性脊柱障害	脊椎すべり症	25	M4316
	脊椎分離症	8	M4306
肋骨、胸骨及び胸椎骨折	胸椎骨折	39	S2200
頸部の神経及び脊髄の損傷	頸髄のその他及び詳細不明の損傷	19	S141
脊髄疾患	脊髄疾患、詳細不明	17	G959
頸部の骨折	頸部の骨折、部位不明	11	S1290
頸部の関節及び靭帯の脱臼、捻挫及びストレイン	頸椎の捻挫及びストレイン	11	S134
脊椎骨折、部位不明	脊椎骨折、部位不明	11	T08-0

### 3. 活動報告

#### (1) 主な対象疾患

腰椎椎間板ヘルニア 腰部脊柱管狭窄症 頸椎症性頸髄症 腰椎迂り症・分離症 頸椎椎間板ヘルニア 後縦靭帯骨化症・黄色靭帯骨化症・黄色靭帯石灰化症 リウマチ脊椎 透析脊椎 脊髄腫瘍・脊椎腫瘍 脊椎感染症 脊椎外傷 その他

#### (2) 手術実績

術式	件数(件)
頸椎椎弓形成術	35
頸椎椎間孔拡大術	3
頸椎前方除圧固定	6
頸椎後方固定術	11
胸椎除圧固定	2
胸椎椎弓切除	11
椎間板ヘルニア摘出	34
椎弓切除(腰椎除圧術)	67
脊椎固定術	31
胸腰椎前方固定	4
胸腰椎後方固定	16
胸腰椎前方後方同時固定	5
脊椎脊髄腫瘍	5
その他	20
計	250

# 脳神経外科

## 1. 概要

当科では各専門領域の医師を配置し、新生児から超高齢者まで脳神経外科疾患のほぼ全ての領域を対象として、可能な限り当院にて治療が完結できるよう努めている。具体的には下記の脳神経外科全般の治療を速やかに行っている。

- ① 悪性脳腫瘍・転移性脳腫瘍の手術及び化学放射線療法
- ② 良性脳腫瘍の摘出
- ③ くも膜下出血に対するクリッピング手術
- ④ 脳動静脈奇形の摘出
- ⑤ 脳出血に対する血腫除去
- ⑥ 脳梗塞を生じた、若しくは生じうる頸動脈狭窄症に対する血腫内膜摘出術
- ⑦ 脳虚血症状を生じた、若しくは脳出血を生じたもやもや病に対する血行再建術
- ⑧ 頭部外傷によって生じた頭蓋内血腫の除去
- ⑨ 正常圧水頭症に対するシャント手術
- ⑩ 顔面けいれん・三叉神経痛に対する神経血管減圧術
- ⑪ 小児の先天奇形水頭症の手術
- ⑫ 脊髄腫瘍の摘出術及び脊髄空洞症の根治術
- ⑬ 脊椎変性疾患の手術
- ⑭ 脳梗塞等後の急性脳腫脹に対する減圧術等

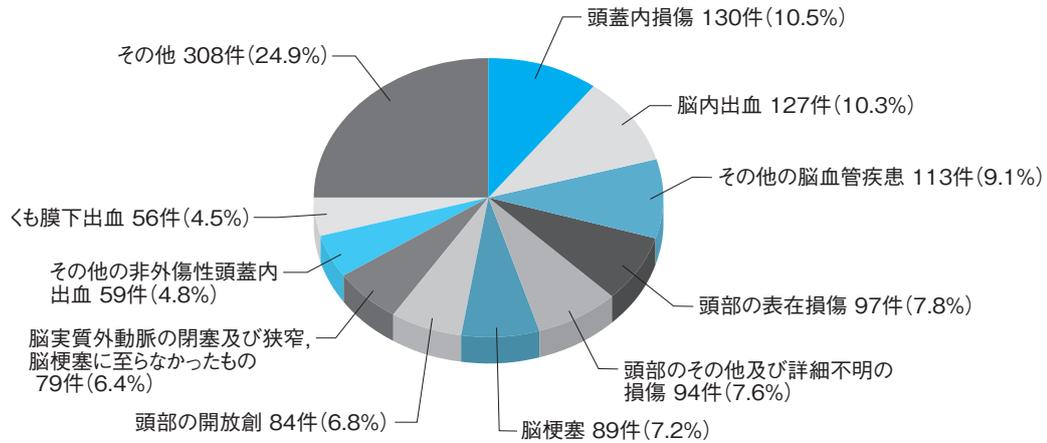
近年の低侵襲手術への傾向を踏まえ、血管内治療（脳動脈瘤コイル塞栓術、頸動脈狭窄ステント拡張術など）や神経内視鏡手術（脳内血腫除去術、経鼻下垂体腫瘍摘出術、水頭症手術など）などの低侵襲かつ最先端の治療の導入も進んでいる。特に最近では、急性期脳梗塞におけるカテーテル血栓除去術を積極的に行い、従来の治療では救えなかった症例に対して良好な成績を築きつつある。また、Navigation システムや電気生理学的モニター（体性感覚誘発電位、運動誘発電位、聴性脳幹反応、顔面神経刺激装置など）を駆使して、術後の神経障害の出現を可能な限り抑えることにも取り組んでいる。

今後の高齢化医療に対しては、「穂の国脳卒中地域連携パス」をさらに発展させて、この地域の円滑な医療連携の向上に努めていきたい。

（第一部長 雄山 博文）

## 2. 新規登録疾患

総数：1,236件



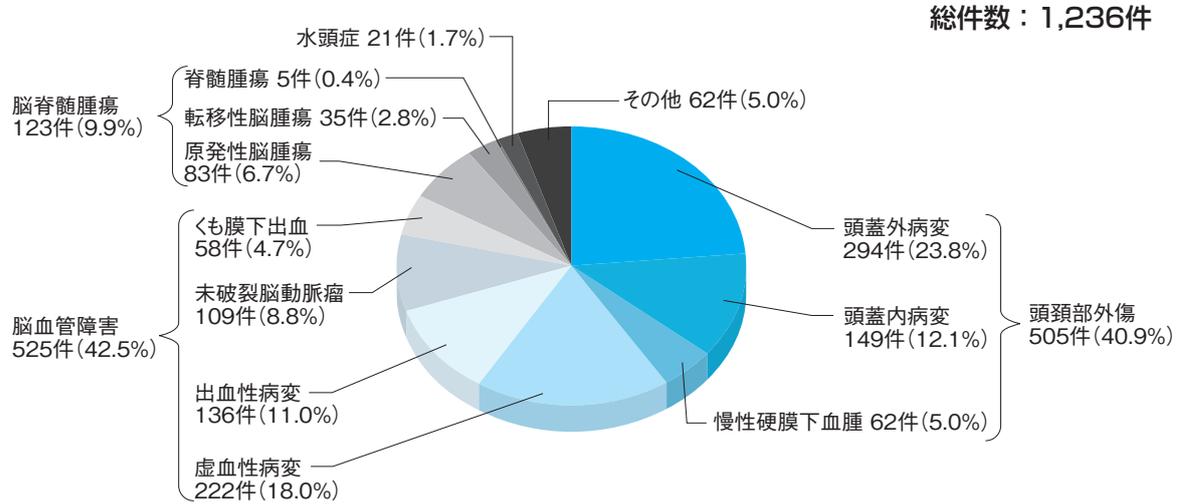
疾患名	主となるICD-10病名	件数(件)	ICD-10
頭蓋内損傷	びまん性脳損傷	26	S062
	外傷性硬膜下出血	18	S065
脳内出血	(大脳)半球の脳内出血, 皮質下	81	I610
	脳内出血, 詳細不明	22	I619
その他の脳血管疾患	脳動脈瘤, 非破裂性	83	I671
	脳血管疾患, 詳細不明	18	I679
頭部の表在損傷	頭皮の表在損傷	97	S000
頭部のその他及び詳細不明の損傷	頭部の詳細不明の損傷	94	S099
脳梗塞	脳梗塞, 詳細不明	40	I639
	脳動脈の血栓症による脳梗塞	22	I633
頭部の開放創	頭皮の開放創	80	S010
脳実質外動脈の閉塞及び狭窄, 脳梗塞に至らなかったもの	頸動脈の閉塞及び狭窄	75	I652
その他の非外傷性頭蓋内出血	硬膜下出血(急性)(非外傷性)	59	I620
くも膜下出血	くも膜下出血, 詳細不明	14	I609
	前交通動脈からのくも膜下出血	12	I602

### 3. 活動報告

#### (1) 患者状況

年間外来患者数	11,605人	年間外来新患者数	1,983人
年間入院患者数	12,233人	年間入院新患者数	654人

#### (2) 疾患群別に見た症例数



#### (3) 血管内手術件数

術式	件数(件)
急性期再開通療法	24
脳動脈瘤塞栓術	15
経皮的血管形成術	9
脳動静脈奇形塞栓術	5
硬膜静脈瘻塞栓術	4
その他血管内手術	2
計	59

# 小児科

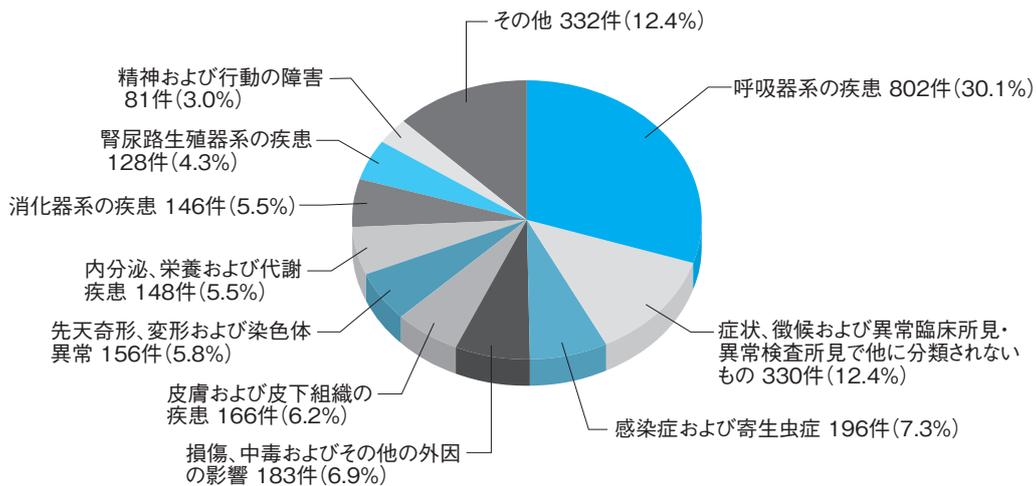
## 1. 概要

当小児科病棟スタッフは皆、東三河地域の最後の砦を担うという誇りと緊張感を持って日夜対応している。サブスペシャリティとしてはアレルギー疾患、神経疾患、循環器疾患、腎疾患、内分泌疾患、血液腫瘍疾患をカバーし、高度特殊医療を除けば各分野ともに専門施設と比べても引けを取らない医療レベルを提供できている。また、患者には最善の医療を提供すべく、各分野で対応困難な症例については惜しみなく専門施設との連携をとって対応している。このような体制を維持する意義は、極力地域で医療が完結することが患者家族への最高のサービスの一つとなることにある。特に長期入院を必要とする場合、月に何度も専門外来にかかる必要がある場合には切実な問題である。一方で、周囲の一次医療、二次医療、休日夜間診療所の業務、健診医療の充実に支えられてこそ当院が二次、三次医療に集中することが可能であるということも忘れてはならない。

(第二部長 伊藤 剛)

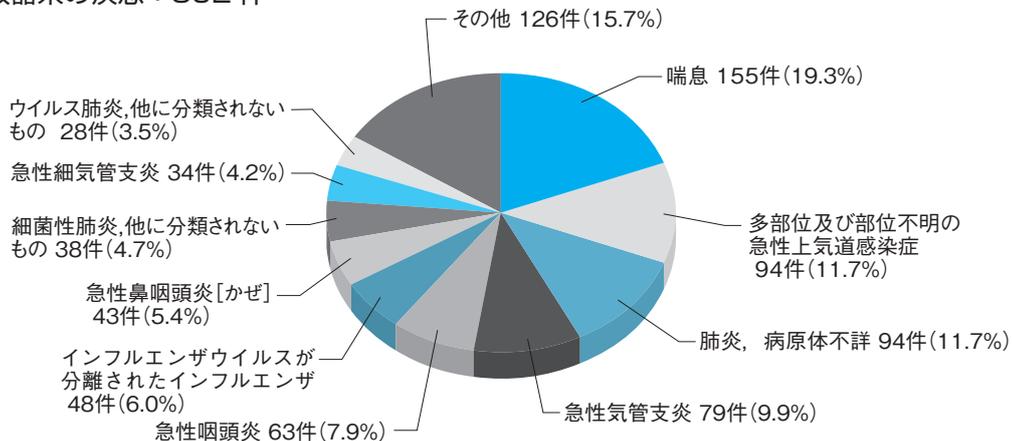
## 2. 新規登録疾患

総件数：2,668件

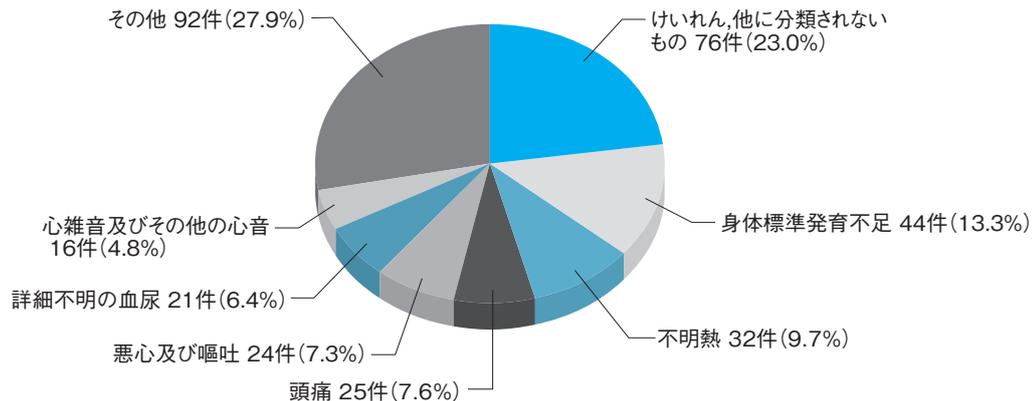


### 上位3位の詳細

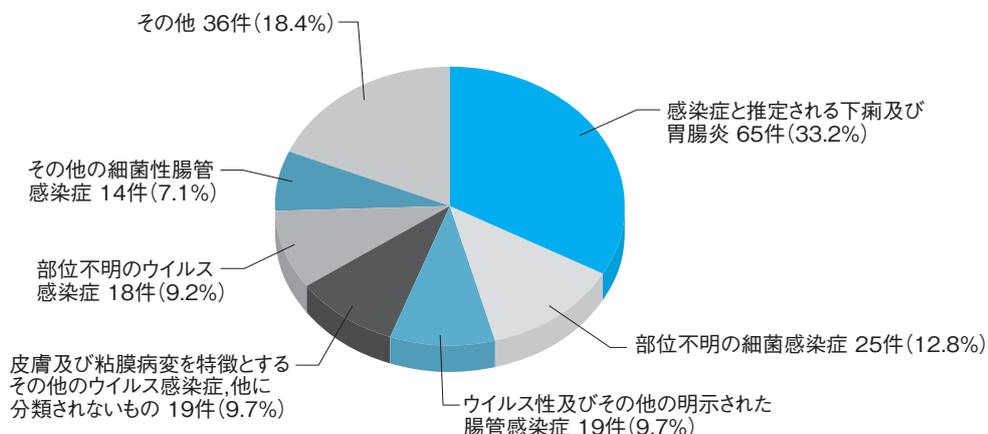
#### (1) 呼吸器系の疾患：802件



(2) 症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの：330件



(3) 感染症および寄生虫症：196件



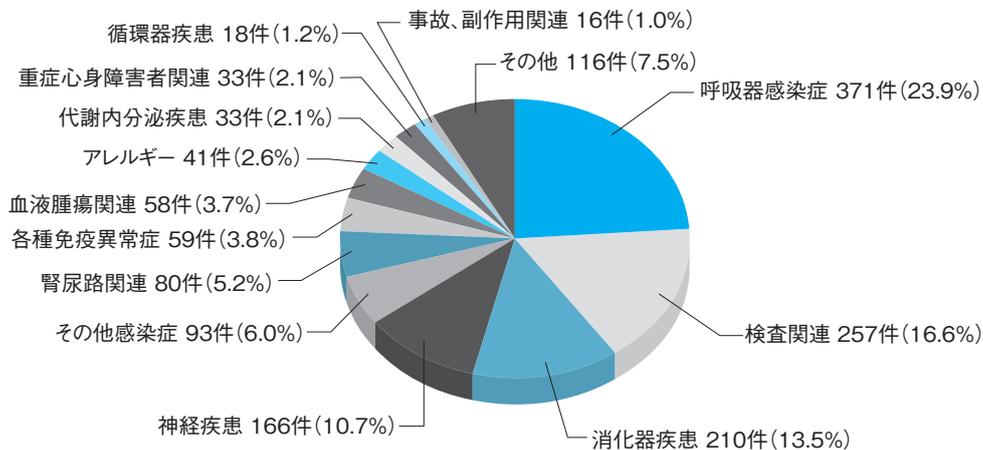
### 3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数	30,341人	年間外来新患者数	2,859人
年間入院患者数	20,498人	年間入院新患者数	1,895人

(2) 入院患者疾患別頻度

総件数：1,551件



# 小児科（新生児）

## 1. 概要

当院新生児医療センターは、東三河地区唯一の総合周産期母子医療センターに指定されている。

2016年の入院数は476例で内350例は院内出生であった。126例の院外出生例においては医師が救急車に同乗して搬送しており、診察依頼があったすべての新生児に24時間体制で高度な医療を迅速に提供している。一部の外科的治療が必要な例は他施設への搬送を要する例もあるが、その場合も医師が同乗し責任をもって搬送に当たっている。2016年の死亡例は1名のみと過去最少であり、最先端の医療技術と共に、東三河地区の新生児救命率の向上に貢献している。新生児期の医療面のみではなく、患児発達支援や、両親の心のサポートを医師、看護師、理学療法士、臨床心理士が共同して提供している。

当センターは周産期（新生児）専門医の基幹研修施設に指定されており、若手医師の教育、専門医の育成にも尽力している。

（第二部長 幸脇 正典）

## 2. 活動報告

### (1) 入院患者の出生状況

#### ①出生体重

出生体重(g)	症例数(件)
～499	2
500～749	4
750～999	15
1000～1249	9
1250～1499	19
1500～1999	59
2000～2499	140
2500～	228
計	476

#### ②出生在胎

出生在胎週数(週)	症例数(件)
22～23	3
24～26	8
27～29	15
30～32	34
33～36	155
37～41	261
42～	0
計	476

#### ③出生場所

出生院	症例数(件)
豊橋市民病院	350
小石マタニティークリニック	36
パークベルクリニック	24
マミーローズクリニック	15
中岡レディースクリニック	18
豊川市民病院	8
渡辺マタニティークリニック	5
オレンジベルクリニック	4
愛知厚生連 渥美病院	4
ジュンレディースクリニック豊橋	2
蒲郡市民病院	2
今泉産婦人科医院	2
ふたば助産院	1
名古屋大学医学部附属病院	1
県外産院	1
病院外出産	3
計	476

### (2) 死亡退院例

	在胎週数	出生体重	死亡日齢	死亡原因
1	24週1日	564g	14日	早発型感染症

## 産婦人科

### 1. 概要

総合周産期センター開設後約3年が経過した。手術決定から30分以内に見娩出が要求される超緊急帝王切開は年間19例であった。院内各所の協力により全例30分未満、平均15.3分で娩出できた。周産期死亡は4例で、ここ10年間で最低の水準となった。

婦人科悪性腫瘍のうち子宮体がんは保険収載後、腹腔鏡下手術が標準となった。未だ保険適応外ではあるが、子宮頸がんについても腹腔鏡下手術の症例が増加している。化学療法は外来中心に移行し、開腹手術から腹腔鏡手術への移行もあいまって入院期間短縮に寄与した。

子宮筋腫をはじめとした良性疾患はほぼ腹腔鏡下手術に移行した。術後など安定した患者については近医への逆紹介を推進し外来患者は減少、この効果により、入院や手術により力を入れられる体制へ移行した。手術待機期間はおおむね2から3ヵ月未満となった。

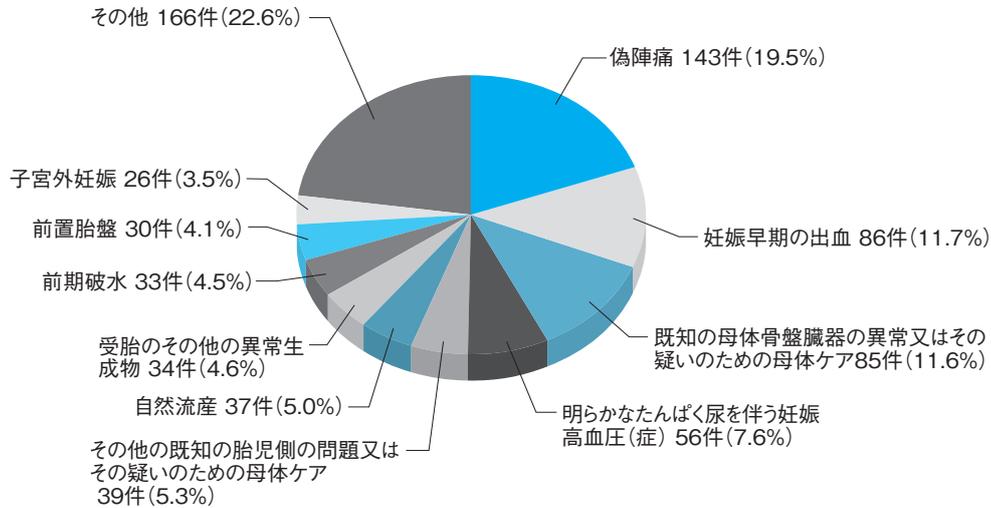
総合生殖センター、女性内視鏡外科を含め産婦人科医師は16名、2016年には3名の医師が産婦人科専門医試験に合格し専門医が11名と充実した。6名の医師は次のサブスペシャリティーの取得に向け研修を行っている。新専門医制度への移行に向けて当院では周産期、腫瘍、生殖、女性ヘルスケアと産婦人科4分野すべてにおいて研修可能な指導体制を整備している。

(第二部長 岡田 真由美)

## 2. 新規登録疾患

(1) 産科（分娩を除く）

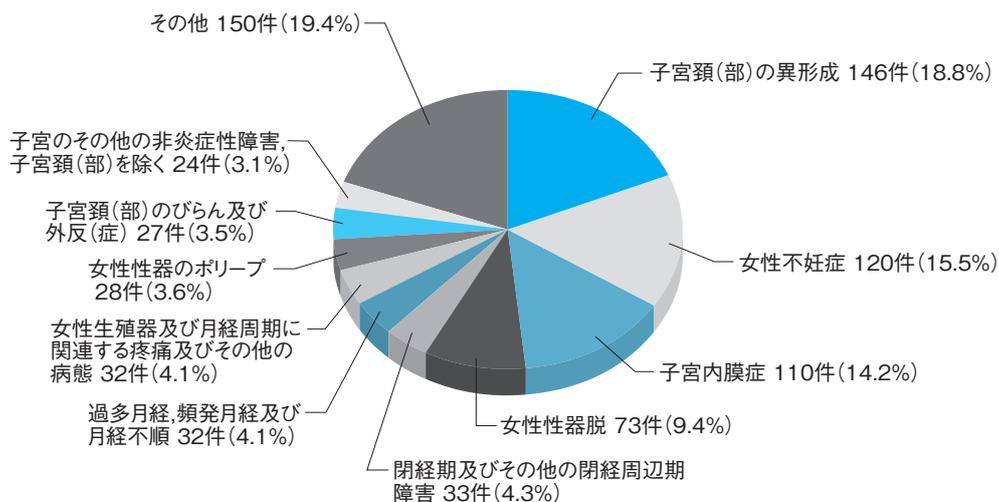
総数：735件



疾患名	主となるICD-10病名	件数(件)	ICD-10
偽陣痛	妊娠満37週未満の偽陣痛	143	O470
妊娠早期の出血	切迫流産	85	O200
既知の母体骨盤臓器の異常又はその疑いのための母体ケア	既往手術による子宮瘢痕による母体ケア	77	O342
明らかなたんぱく尿を伴う妊娠高血圧(症)	重症子かん前症	31	O141
	子かん前症, 詳細不明	25	O149
その他の既知の胎児側の問題又はその疑いのための母体ケア	その他の同種免疫のための母体ケア	27	O361
自然流産	自然流産, 完全流産又は詳細不明の流産, 合併症を伴わないもの	29	O039
受胎のその他の異常生成物	稽留流産	31	O021
前期破水	前期破水, 詳細不明	33	O429
前置胎盤	出血を伴う前置胎盤	30	O441
子宮外妊娠	卵管妊娠	15	O001

## (2) 婦人科

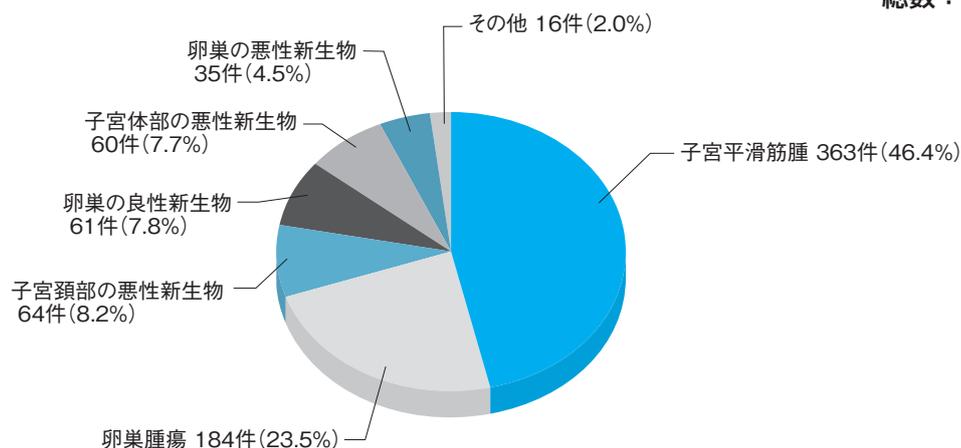
総数：775件



疾患名	主となるICD-10病名	件数(件)	ICD-10
子宮頸(部)の異形成	子宮頸(部)の異形成, 詳細不明	100	N879
	高度子宮頸(部)の異形成,他に分類されないもの	30	N872
女性不妊症	女性不妊症, 詳細不明	120	N979
子宮内膜症	子宮の子宮内膜症	44	N800
	子宮内膜症, 詳細不明	40	N809
女性性器脱	子宮隆脱, 詳細不明	36	N814
	膀胱瘤	14	N811
閉経期及びその他の閉経周辺期障害	閉経期及び女性更年期状態	23	N951
	閉経後萎縮性膣炎	10	N952
過多月経, 頻発月経及び月経不順	不規則周期を伴う過多月経及び頻発月経	13	N921
	規則的周期を伴う過多月経及び頻発月経	12	N920
女性生殖器及び月経周期に関連する疼痛及びその他の病態	月経困難症, 詳細不明	28	N946
女性性器のポリープ	子宮頸(部)ポリープ	18	N841
子宮頸(部)のびらん及び外反(症)	子宮頸(部)のびらん及び外反(症)	27	N86
子宮のその他の非炎症性障害, 子宮頸(部)を除く	子宮内膜腺様のう胞性増殖症	12	N850

### (3) 新生物

総数：783件



疾患名	主となるICD-10病名	件数(件)	ICD-10
子宮平滑筋腫	子宮平滑筋腫， 部位不明	359	D259
卵巣腫瘍	女性生殖器の性状不詳又は不明の新生物， 卵巣	184	D391
子宮頸部の悪性新生物	子宮頸部の悪性新生物， 子宮頸（部）， 部位不明	64	C539
卵巣の良性新生物	卵巣の良性新生物	61	D27
子宮体部の悪性新生物	子宮体部の悪性新生物， 子宮体部， 部位不明	52	C549
卵巣の悪性新生物	卵巣の悪性新生物	35	C56

## 3. 活動報告

### (1) 患者状況

年間外来患者数	41,615人	年間外来新患者数	2,544人
年間入院患者数	19,364人	年間入院新患者数	2,408人

(2) 実績

分娩統計(件)	
正常	421
パースセンター正常	2
選択的帝王切開	219
緊急帝王切開	153
超緊急帝王切開	18
緊急帝王切開 + 子宮摘出	1
鉗子分娩	5
吸引分娩	47
死産	3
未受診正常	2
未受診緊急帝王切開	3
双胎選択帝王切開	30
双胎緊急帝王切開	20
双胎一児死産超緊急帝王切開	1
品胎選択帝王切開	1
計	926
中期中絶	12
中期流産	11
中期中絶帝王切開	1
双胎中期流産	1
計	25
母体搬送	242

産婦人科悪性腫瘍治療症例数(件)	
◎子宮頸部CIN2	計12
円錐切除	11
レーザー蒸散	1
◎子宮頸部CIN3	計58
円錐切除	48
TAH	1
TLH	9
◎子宮頸癌	計62
①子宮頸癌 I A1期円錐切除のみ	1
②子宮頸癌初回手術	32
I A期	6
I A1期	2
I B1期	21
I B2期	1
II A1期	2
③化学療法後手術	3
I B1期	2
II A1期	1
④CCRT後手術	4
II B期	4
⑤CCRT (同時化学放射線療法 放射線科と共同治療)	14
I B2期	1
II A2期	1
II B期	8
III A期	2
IV B期	2
⑥放射線療法 (主に放射線科で治療)	8
I B1期	2
II B期	3
IV A期	3
◎子宮体癌 (癌肉腫含む)	計54
①子宮体癌初回手術	
I A期	35
I B期	9
II 期	1

ⅢA期	3
ⅢB期	1
ⅢC1期	1
ⅣB期	2
②放射線療法（主に放射線科で治療）	2
◎子宮内膜異型増殖症手術	計6
◎卵巣癌	計28
I A期	5
I C1期	6
I C2期	1
I C3期	3
II B期	5
ⅢA期	1
ⅢB期	3
ⅢC期	3
ⅣA期	1
◎卵巣境界悪性腫瘍	計8
I A期	4
I C1期	3
II B期	1
◎子宮平滑筋肉腫 I B期	計2
◎STUMP	計1
◎卵管癌 I A期	計1
◎外陰癌 I A期	計1
◎腹膜癌	計2
◎Krukenberg腫瘍	計3
◎Benign multicystic mesothelioma	計1

#### 化学療法

卵巣癌	57人	のべ337コース
子宮体癌	51人	のべ180コース
子宮頸癌	35人	のべ140コース
腹膜癌	6人	のべ 27コース
卵管癌	2人	のべ 13コース
子宮肉腫	2人	のべ 12コース
陰癌	1人	のべ 3コース

計 154人に対してのべ712コース施行

#### 産婦人科当直帯救急患者数（夜間休日）（件）

経陰分娩	360
緊急帝王切開（超緊急帝王切開含む）	82
その他手術	41

#### 救急外来患者数再診

8:30～17:00（休日のみ）	145
17:00～0:00	187
0:00～8:30	92
計	424

#### 救急外来患者初診

（カッコ内は本来他の施設で診察すべき患者数）

8:30～17:00（休日のみ）	66	(6)
17:00～0:00	166	(14)
0:00～8:30	103	(13)
計	335	(33)

救急外来患者総数 759

---

手術総件数(件)

---

産科

帝王切開術	424
前置胎盤を伴う帝王切開術	22
分娩後子宮全摘術	6
会陰部裂傷縫合・膣壁血腫除去術	5
子宮頸管縫縮術	7

開腹術（良性）

単純子宮全摘出術（膣上部含む）	70
筋腫核出術	15
子宮付属器切除術	58
その他	8

開腹術（悪性）

子宮悪性腫瘍手術	18
うち広汎子宮全摘術	4
うち拡大子宮全摘術	4
子宮付属器悪性腫瘍手術	33
その他（試験開腹術含む）	10

経膣的・外陰部手術

膣式子宮全摘術（前後会陰形成術含む）	4
子宮筋腫核出術	22
円錐切除術（蒸散含む）	69
子宮内膜全面搔把術	20
子宮内容除去術（流産手術）	19
子宮内容除去術（人工妊娠中絶術）	8
胞状奇胎娩出術	9
その他	11

内視鏡手術

子宮鏡手術	6
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術	56
うち子宮頸癌	7
うち子宮体癌	32
うち広汎子宮全摘術	12
うち拡大子宮全摘術	13
腹腔鏡下子宮全摘術	132
腹腔鏡下子宮筋腫核出術	20
腹腔鏡下子宮付属器手術	135
腹腔鏡下仙骨膣固定術	26
腹腔鏡下手術その他	1
ロボット支援下手術	7
計	1,201

## 産婦人科（生殖医療）

### 1. 概要

世界に先駆けて全受精卵への臨床応用を開始したタイムラプス胚培養も10年目となり、多胎防止を含む生殖補助医療の質的維持を今年も達成できた。国内外の学会での新知見発表には聴衆も多く集まり、若手産婦人科医師や臨床検査技師のモチベーションを高めている。甲木医師が、日本不妊カウンセリング学会で当院4年連続となる優秀賞を受賞した。

2016年は、生殖医療で思うような結果が出ない事の背景としての肥満・痩せへの着目を更に高め、健康な体作りは安全妊娠への必要条件であることの患者向け教育を徹底した。難治性の患者が当院に集中するという理想的な傾向は続いている。このような患者が繰り返し治療を行い、見かけ上の数値を低く抑えているが、他院での不成功例がすんなり成功するなど、スタッフが技術の高さを確認できる機会も多かった。頻回不成功例に肥満や痩せが多いことにも着目し、妊娠分娩の安全性や生涯の健康増進にもつながる健康な体作りを推進できた1年でもあった。

（部長 安藤 寿夫）

### 2. 活動報告

#### (1) 生殖補助医療

2016年	刺激周期数	体外受精数	うち、顕微授精	新鮮胚移植	妊娠	融解胚移植	妊娠
1月	27	22	14	17	1	9	0
2月	20	19	11	11	4	8	3
3月	20	17	11	9	4	6	2
4月	20	20	14	11	1	7	2
5月	29	22	17	15	3	6	4
6月	31	27	18	11	3	4	1
7月	28	26	13	11	1	6	2
8月	28	19	9	7	2	8	2
9月	27	23	16	12	2	4	0
10月	30	28	16	15	6	19	4
11月	22	17	8	9	2	10	3
12月	27	24	15	12	2	9	6
計	309	264	162	140	31	96	29
妊娠率					22.1%		30.2%

多胎は1例（単胚移植後）。異所性妊娠0例。

(2) 不妊症妊娠例（カッコ内は多胎妊娠例）

区分	件数(件)
体外受精 - 新鮮胚移植	30(1)
融解胚移植	27(0)
排卵誘発	8(0)
人工授精	7(0)
習慣流産	1(0)
タイミング法・その他	26(0)
計（重複例を除く）	90(1)

生殖医療の成績データは、症例背景など医療機関により異なる要素が多いことから、他の医療機関との単純な比較をすべきではないと付記することが、米国では義務付けられています。

## 女性内視鏡外科

### 1. 概要

産婦人科の中で、主に腹腔鏡下手術と子宮鏡下手術全般に関わる手術を担当している。東三河においては、婦人科手術に関して以前より開腹術が中心であったが、良性疾患のほとんどで腹腔鏡下手術への移行が可能となった。この手術は傷も小さく、早期退院、社会復帰が可能な手術で患者にとって負担が少なくなる。2013年に着任して以来、順調に手術件数を伸ばし、2015年度には腹腔鏡下と子宮鏡下手術合わせて400件を超え、愛知県内でも有数の内視鏡下手術件数を誇るまでになった。入院期間は腹腔鏡下手術で5日前後、子宮鏡下手術では3日間である。子宮悪性腫瘍疾患に対しても積極的に本術式を導入し、2013年度には子宮体癌に対する腹腔鏡下手術が可能となり、2014年度には愛知県下で初めて子宮頸癌に対する腹腔鏡下広汎子宮全摘術の先進医療施設として認定された。全国的にも子宮悪性腫瘍に対する腹腔鏡下手術を導入している施設は少ないが、今後は他の地域での啓蒙活動にも力を入れ、さらなる低侵襲化手術の普及を進める。

(部長 梅村 康太)

# 耳鼻いんこう科

## 1. 概要

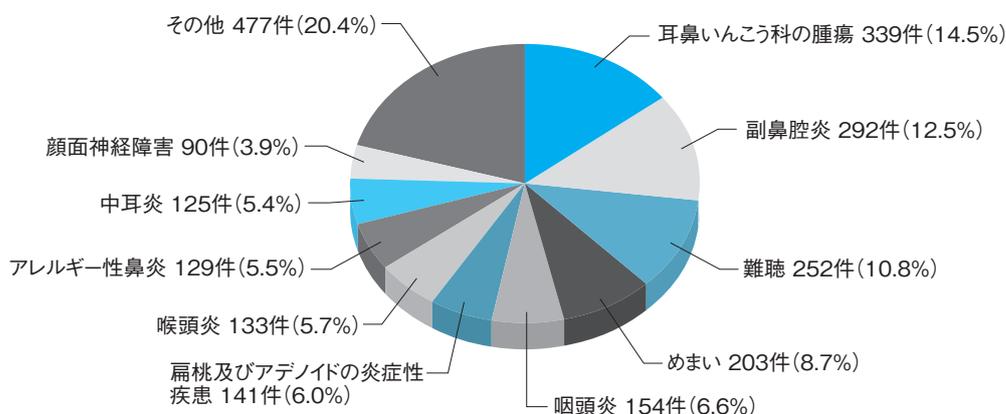
1日の外来受診患者数は約100から110人であった。年間の入院患者数は659人であった。手術室を使用した手術療法は年間398件であった。

中耳炎、めまい、難聴、顔面神経麻痺に対して投薬治療を行い、改善を認めない場合は当院にて外科的治療を行った。また、耳鳴り専門外来を新設し、専門的な治療を開始した。アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎、鼻中隔湾曲症に対して、患者さまの病態や希望にあった治療（手術療法や投薬治療）を行った。慢性扁桃炎や睡眠時無呼吸症候群に対して、口蓋扁桃摘出術、アデノイド切除術を行った。また鼻出血、急性扁桃炎、喉頭蓋炎などの救急疾患については、重症度に合わせて入院治療を行った。咽頭・喉頭・甲状腺・唾液腺などの良性腫瘍に対しては、適応を定めて手術療法を行った。悪性腫瘍に対しては、それぞれの患者の状況に合わせて、根治と機能温存のバランスを取り、手術療法、化学療法、放射線療法の3者を組み合わせて治療を行った。再建を必要とする様な症例も積極的に当院で行った。

(部長 小澤 泰次郎)

## 2. 新規登録疾患

総数：2,335件



疾患名	主となるICD-10病名	件数(件)	ICD-10
耳鼻いんこう科の腫瘍	口腔及び消化器の性状不詳又は不明の新生物,口唇,口腔及び咽頭	103	D370
	中耳,呼吸器及び胸腔内臓器の性状不詳又は不明の新生物,喉頭	53	D380
副鼻腔炎	慢性副鼻腔炎, 詳細不明	233	J329
	急性副鼻腔炎, 詳細不明	44	J019
難聴	感音難聴, 詳細不明	125	H905
	難聴, 詳細不明	58	H919
めまい	その他の末梢性めまい	150	H813
	メニエール病	44	H810
咽頭炎	急性喉頭咽頭炎	131	J060
	急性咽頭炎, 詳細不明	22	J029
扁桃及びアデノイドの炎症性疾患	扁桃肥大	73	J351
	急性扁桃炎, 詳細不明	36	J039
喉頭炎	慢性喉頭炎	133	J370
アレルギー性鼻炎	アレルギー性鼻炎, 詳細不明	129	J304
中耳炎	非化膿性中耳炎, 詳細不明	69	H659
	中耳炎, 詳細不明	52	H669
顔面神経障害	ベル麻痺	89	G510

### 3. 活動報告

#### (1) 患者状況

年間外来患者数	24,889人	年間外来新患者数	3,307人
年間入院患者数	7,524人	年間入院新患者数	642人

#### (2) 入院患者の状況

##### ①主な救急疾患（入院加療を要した）

疾患名	件数(件)
急性扁桃炎・扁桃周囲の腫瘍	35
急性喉頭蓋炎・喉頭炎	30
めまい	21
顔面神経麻痺	15
鼻出血	12
突発性難聴	7

##### ②主な手術療法（手術室使用）

術式	件数(件)
口蓋扁桃摘出術、アデノイド切除術	182
内視鏡下副鼻腔手術	63
甲状腺腫瘍手術	37
リンパ節摘出術	36
耳下腺腫瘍手術	28
頸部郭清術	27
気管切開術	21
鼓膜チューブ留置術	20
喉頭微細手術	20
咽頭悪性腫瘍手術	14
顎下腺摘出術	8
喉頭全摘術	5

# 眼科

## 1. 概要

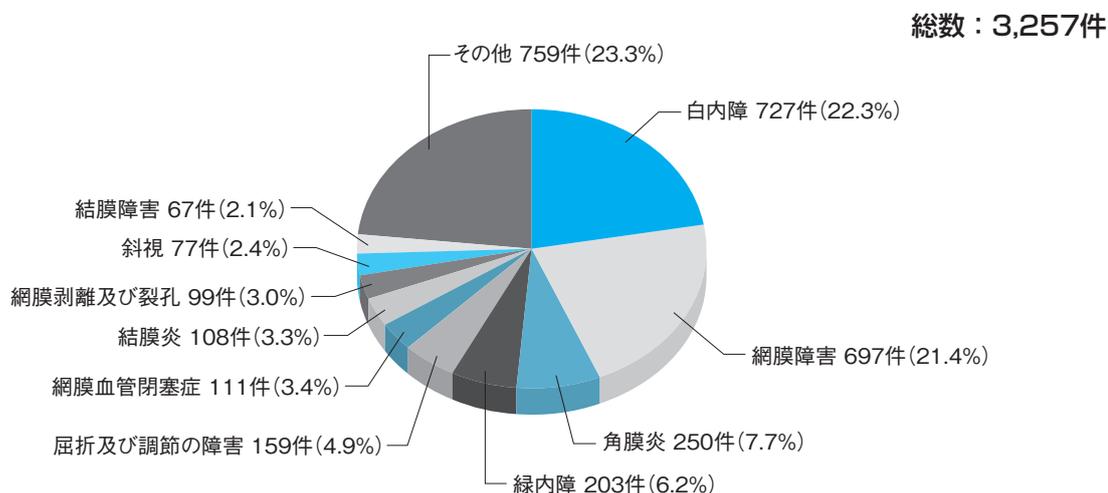
2016年4月より、白内障手術が術前日入院、術翌日退院の2泊3日で可能となった。今後、さらに白内障手術の入院期間の短縮、また、日帰り白内障手術も検討される。また、硝子体手術に対してもクリニカルパス使用可能となった。今後、緑内障、斜視手術等、他疾患にもクリニカルパスの適応が検討される。

2016年6月より、視能訓練士（非常勤）1名が配置された。検査待ち時間等短縮が期待される。

また、加齢黄斑変性等に対する硝子体注射前後の診察等において、地域の医療機関との病診連携も進んだ。

（副部長 榊原 由美子）

## 2. 新規登録疾患



疾患名	主となるICD-10病名	件数(件)	ICD-10
白内障	老人性白内障, 詳細不明	642	H259
	後発白内障	53	H264
網膜障害	詳細不明の糖尿病, 眼合併症を伴うもの	349	E143
	黄斑及び後極の変性	218	H353
角膜炎	その他の角膜炎	149	H168
	角膜潰瘍	48	H160
緑内障	緑内障, 詳細不明	132	H409
	緑内障の疑い	24	H400
屈折及び調節の障害	乱視	135	H522
網膜血管閉塞症	その他の網膜血管閉塞症	94	H348
	その他の網膜動脈閉塞症	13	H342
結膜炎	結膜炎, 詳細不明	53	H109
	急性アトピー性結膜炎	46	H101
網膜剥離及び裂孔	網膜剥離, 網膜裂孔を伴うもの	59	H330
	網膜裂孔, 剥離を伴わないもの	34	H333
斜視	間欠性斜視	26	H503
	共同性内斜視	22	H500
結膜障害	結膜出血	30	H113
	翼状片	22	H110

### 3. 活動報告

#### (1) 患者状況

年間外来患者数	26,265人	年間外来新患者数	2,432人
年間入院患者数	4,953人	年間入院新患者数	915人

#### (2) 入院時の疾患内訳

疾患名	人数(人)	疾患名	人数(人)
白内障	617	内反症	3
網膜剥離	54	網膜下出血	3
黄斑前膜	53	角膜穿孔	2
緑内障	46	硝子体脱出	2
糖尿病網膜症	39	水晶体偏位	2
硝子体出血・混濁	32	眼窩腫瘍	1
黄斑円孔	21	眼窩蜂窩織炎	1
硝子体黄斑牽引症候群	8	眼筋炎	1
増殖硝子体網膜症	6	眼内炎	1
外傷・眼球破裂	5	急性網膜壊死	1
視神経症	4	網膜細動脈瘤	1
眼内異物	3	網膜裂孔	1
眼内レンズ脱臼	3	計	913
斜視	3		

### (3) 手術・検査数

#### ①外来手術数

術式	件数(件)
硝子体注射・テノン嚢下注射	528
網膜光凝固術(PHC)	326
レーザー後発白内障切開術(YAG)	98
レーザー虹彩切開術(LI)	37
涙点プラグ挿入	18
レーザー線維柱帯形成術(LTP/SLT)	10
霰粒腫摘出術	1
計	1,018

#### ②外来特殊検査件数

検査名	件数(件)
光干渉断層撮影(OCT)	8,286
動的量的視野検査	843
静的量的視野検査	740
蛍光眼底撮影	1,291
眼鏡処方	294
計	11,454

#### ③手術センター手術数

術式	件数(件)
白内障手術	751
硝子体茎頭微鏡下離断術	194
流出路再建術	22
眼瞼下垂症手術	21
縫着レンズ挿入	19
翼状片手術	19
濾過胞再建術	19
網膜復位術	13
内反症手術	10
斜視手術	8
角膜・強膜縫合術	6
霰粒腫摘出術	6
硝子体注入・吸引術	6
硝子体切除術	4
結膜下異物除去術	3
眼瞼腫瘤切除術	2
眼窩内腫瘍摘出術	1
結膜肉芽腫摘除術	1
結膜嚢形成手術	1
瞼縁縫合術	1
前房、虹彩内異物除去術	1
増殖性硝子体網膜症手術	1
計	1,109

# 皮膚科

## 1. 概要

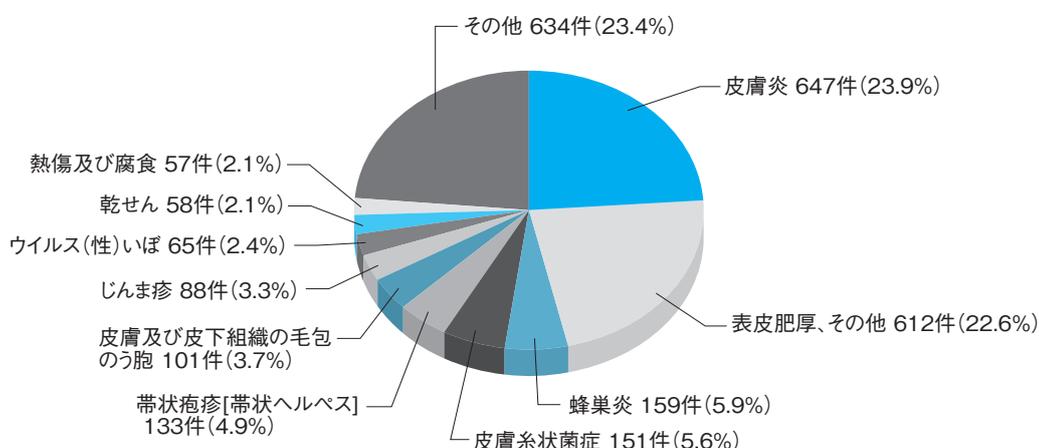
2016年の皮膚科は山田、鈴木、藤城、芳川、森の5人体制である。外来患者数は、前年より多少減少した。逆に入院患者数は、前年より多少増加した。外来では、切除不能な悪性黒色腫に対する免疫チェックポイント阻害剤の投与が増加した印象である。入院に関しては、広範囲の重症熱傷が例年に比べ多かった。

(部長 山田 元人)

## 2. 新規登録疾患

### (1) 悪性新生物以外

総数：2,705件



疾患名	主となるICD-10病名	件数(件)	ICD-10
皮膚炎	皮膚炎, 詳細不明	302	L309
	薬物及び薬剤による全身の発疹	70	L270
表皮肥厚、その他	皮膚乾燥症	293	L853
	皮膚の慢性潰瘍, 他に分類されないもの	89	L984
蜂巣炎	蜂巣炎, 詳細不明	109	L039
	(四)肢のその他の部位の蜂巣炎	32	L031
皮膚糸状菌症	爪白せん	61	B351
	足白せん	58	B353
帯状疱疹 [帯状ヘルペス]	帯状疱疹, 合併症を伴わないもの	112	B029
	帯状疱疹, その他の神経系合併症を伴うもの	20	B022
皮膚及び皮下組織の毛包のう胞	表皮のう胞	101	L720
じんま疹	じんま疹, 詳細不明	77	L509
	その他のじんま疹	11	L508
ウイルス(性)いぼ	ウイルス(性)いぼ	65	B07
乾せん	尋常性乾せん	40	L400
	掌蹠膿疱症	14	L403
熱傷及び腐食	部位不明の熱傷, 程度不明	53	T300

### 3. 活動報告

#### (1) 患者状況

年間外来患者数	26,099人	年間外来新患者数	3,424人
年間入院患者数	4,904人	年間入院新患者数	267人

#### (2) 悪性新生物

	疾患名	件数(件)		疾患名	件数(件)
1	基底細胞癌	61	5	皮膚腫瘍	6
2	有棘細胞癌	45	6	その他	23
3	悪性黒色腫	16		計	158
4	パジェット病	7			

#### (3) 良性腫瘍、熱傷、膠原病

	疾患名	件数(件)		疾患名	件数(件)
1	良性腫瘍	1,048	5	全身性エリテマトーデス	10
2	熱傷	96	6	皮膚筋炎	6
3	血管炎	47		計	1,219
4	全身性強皮症	12			

# 泌尿器科

## 1. 概要

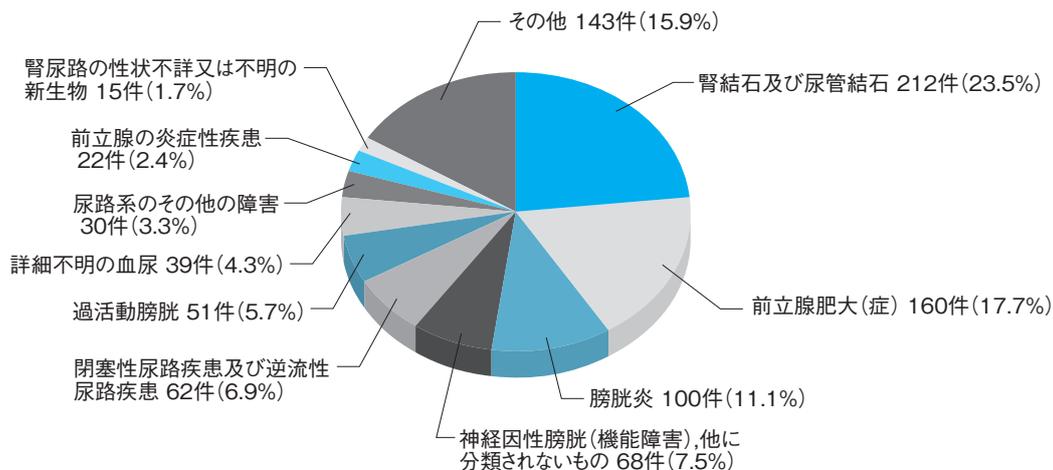
2016年は、当科の体制には大きな変更はなかった。しかしながら、東三河地区における当院への一極集中状況には改善の兆しは見られず、繁忙の程度は増すばかりである。当科の柱である泌尿器悪性腫瘍に対する小切開手術は長井、田中両部長を中心に高水準を維持し、小嶋、寺島両副部長を中心に行っている腹腔鏡手術も増加している。また、ロボット支援手術は前立腺悪性腫瘍手術のスタンダードな手術の地位を占めるに至り、腎癌に対する腎部分切除も開始されるなど、当科における日常的な手術の一つとなった。一方、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害剤等の新規薬剤を含むがん化学療法の症例も増加の一途をたどり、この分野においてもトップランナーを伺える状況になりつつある。良性疾患に対しても、排尿ケアチームが立ち上がり、病院全体の排泄管理の向上に向けた活動が始まるなど、日常診療の中でさらなる高水準の医療を提供し続けるため精進の日々が続いた1年であった。

(第一部長 長井 辰哉)

## 2. 新規登録疾患

### (1) 悪性新生物以外

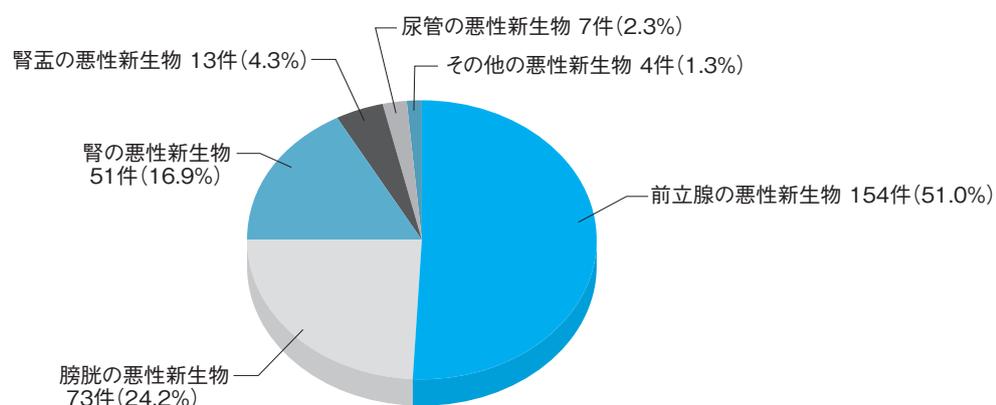
総数：902件



疾患名	主となるICD-10病名	件数(件)	ICD-10
腎結石及び尿管結石	尿管結石	166	N201
	腎結石	39	N200
前立腺肥大(症)	前立腺肥大(症)	160	N40
膀胱炎	膀胱炎, 詳細不明	41	N309
	その他の慢性膀胱炎	32	N302
神経因性膀胱(機能障害), 他に分類されないもの	神経因性膀胱(機能障害), 詳細不明	68	N319
閉塞性尿路疾患及び逆流性尿路疾患	その他及び詳細不明の水腎症	23	N133
	腎結石性及び尿管結石性閉塞を伴う水腎症	18	N132
過活動膀胱	その他の明示された膀胱障害	51	N328
詳細不明の血尿	詳細不明の血尿	39	R31
尿路系のその他の障害	尿路感染症, 部位不明	23	N390
前立腺の炎症性疾患	慢性前立腺炎	10	N411
腎尿路の性状不詳又は不明の新生物	腎尿路の性状不詳又は不明の新生物, 腎	11	D410

(2) 悪性新生物

総件数：302件



疾患名	主となるICD-10病名	件数(件)	ICD-10
前立腺の悪性新生物	前立腺の悪性新生物	154	C61
膀胱の悪性新生物	膀胱の悪性新生物, 膀胱, 部位不明	72	C679
腎の悪性新生物	腎盂を除く腎の悪性新生物	51	C64
腎盂の悪性新生物	腎盂の悪性新生物	13	C65
尿管の悪性新生物	尿管の悪性新生物	7	C66

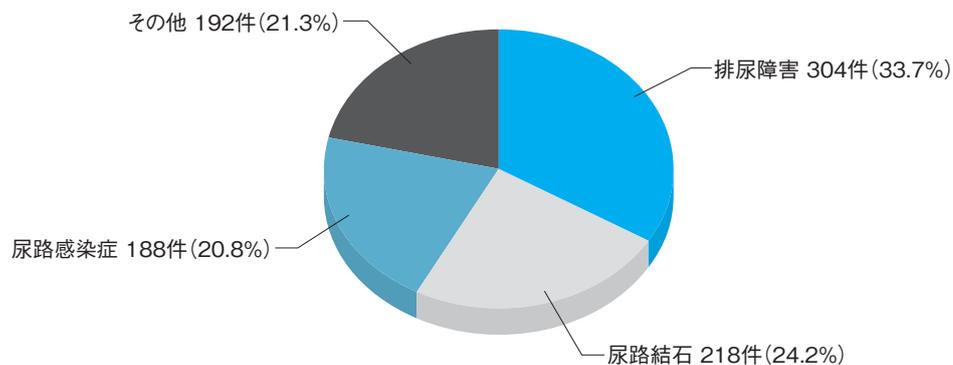
### 3. 活動報告

#### (1) 患者状況

年間外来患者数	26,068人	年間外来新患者数	1,859人
年間入院患者数	12,206人	年間入院新患者数	1,045人

#### (2) 悪性新生物以外の疾患別頻度

総件数：902件



疾患名	主となるICD-10病名	件数(件)	ICD-10
排尿障害	前立腺肥大(症)	160	N40
	神経因性膀胱(機能障害), 詳細不明	68	N319
尿路結石	尿管結石	166	N201
	腎結石	39	N200
尿路感染症	膀胱炎, 詳細不明	41	N309
	その他の慢性膀胱炎	32	N302

# 放射線科

## 1. 概要

2016年1月には石原部長、高田副部長、中道医員の3人であったが、4月より石口医員の赴任があり、2016年12月には石原、高田、中道、石口の4人で診療している。

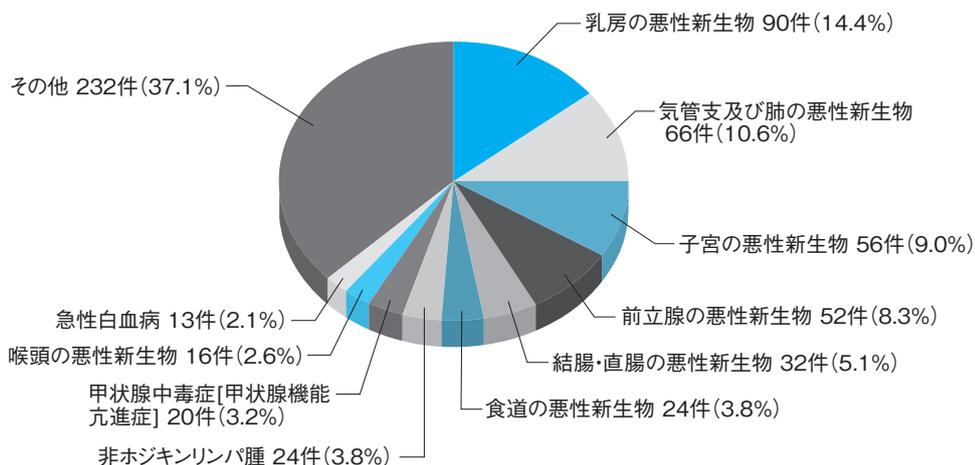
この1年の最大のイベントは高度放射線棟の稼働であり、PET-CT、腔内照射装置の使用を開始した。放射線治療装置については2017年2から3月の使用開始を目指し、準備を行っている。

この1年間の業務実績は、読影が29,706件（CT 20,989件、MRI 7,393件、アイソトープ 1,189件、PET-CT 135件）であった。その他、血管造影・IVR 101件、甲状腺機能亢進症に対するヨード内用療法14件、骨転移に対するストロンチウム治療2件、放射線治療の新患418件であった。

（部長 石原 俊一）

## 2. 新規登録疾患

総数：625件



疾患名	主となるICD-10病名	件数(件)	ICD-10
乳房の悪性新生物	乳房の悪性新生物, 乳房, 部位不明	81	C509
気管支及び肺の悪性新生物	気管支及び肺の悪性新生物, 気管支又は肺, 部位不明	62	C349
子宮の悪性新生物	子宮頸部の悪性新生物, 子宮頸(部), 部位不明	51	C539
前立腺の悪性新生物	前立腺の悪性新生物	52	C61
結腸・直腸の悪性新生物	直腸の悪性新生物	19	C20
	結腸の悪性新生物, S状結腸	6	C187
食道の悪性新生物	食道の悪性新生物, 胸部食道	19	C151
非ホジキンリンパ腫	非ホジキンリンパ腫, 型不明	11	C859
	大細胞型(びまん性)	9	C833
甲状腺中毒症[甲状腺機能亢進症]	甲状腺中毒症, 詳細不明	13	E059
喉頭の悪性新生物	喉頭の悪性新生物, 声門	10	C320
	喉頭の悪性新生物, 声門上部	5	C321
急性白血病	急性骨髄性白血病	9	C920
	急性リンパ芽球性白血病	2	C910

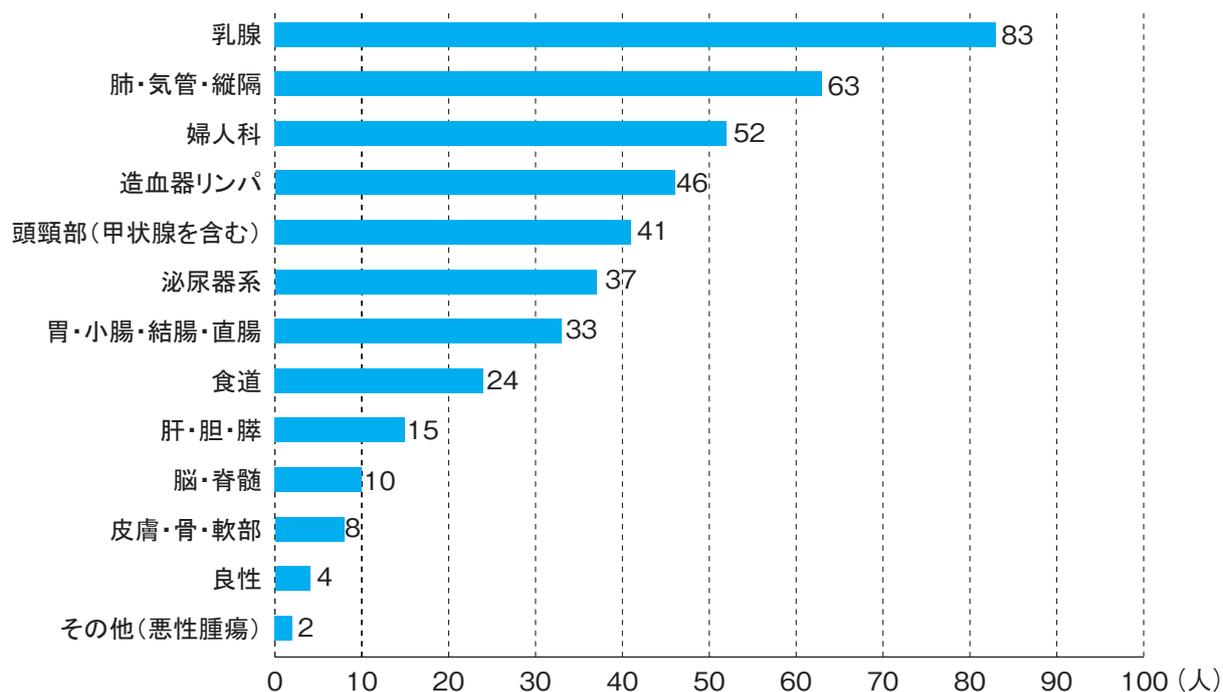
### 3. 活動報告

#### (1) 患者状況

年間外来患者数	12,520人	年間外来新患者数	662人
年間入院患者数	0人	年間入院新患者数	0人

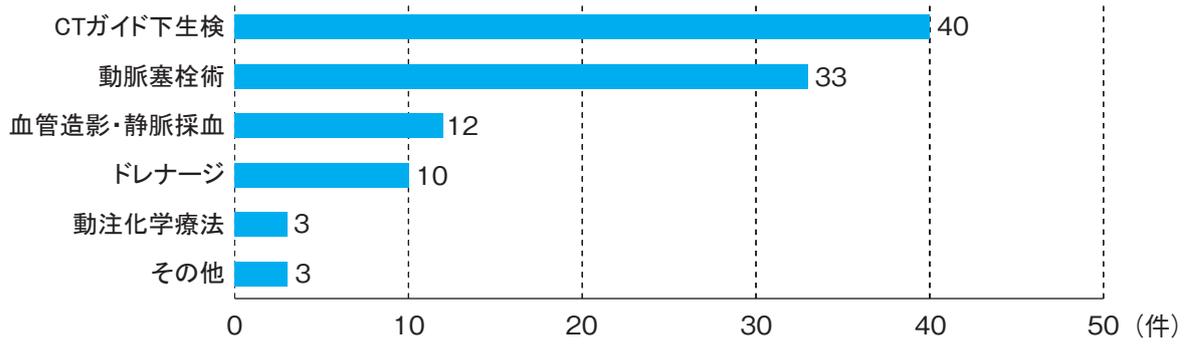
#### (2) 放射線治療原発部位別患者数

総患者数：418人



(3) 血管造影・IVR 手技別件数

総件数：101件



# 麻酔科（ペインクリニック）

## 1. 概要

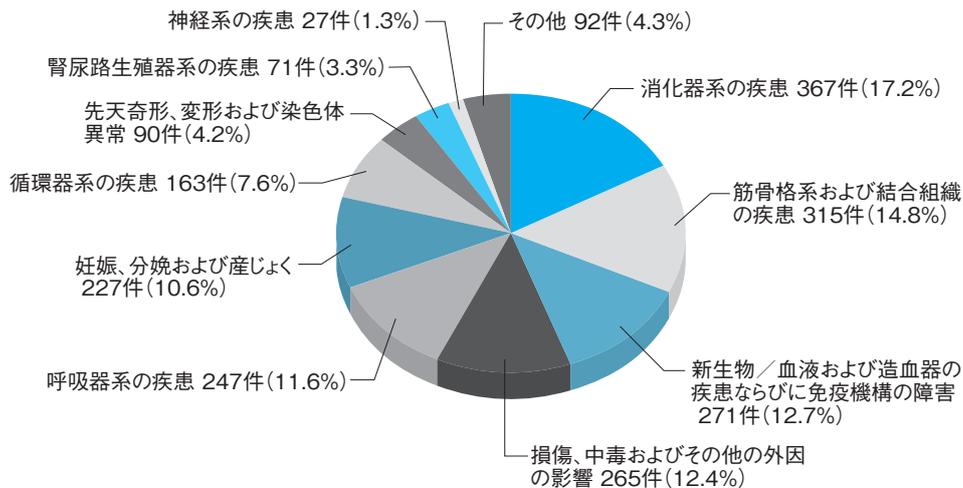
2016年は当院研修医からの入局が1名あったが他院への異動が2名あったため、麻酔科医は11名、歯科麻酔科医1名に減少した。年間の総手術件数は7,908件であり、全身麻酔件数は3,717件であった。麻酔科管理症例は2,640件であり、そのうち麻酔科管理の全身麻酔は2,411件であった。麻酔科管理の緊急症例は479件あった。麻酔科医の人数が減ったが産休育休取得者がいなかったため、麻酔科管理症例数の変動はなかった。新型超音波診断装置を追加購入することにより、神経ブロックの精度を上げることができた。McGRATH MACも14台に増やして全部屋に完備でき、挿管困難対策が増々充実した。デスフルラン気化器が10台に増えた。新しい麻酔関連機器や薬剤を整備でき、全国的にも誇れる麻酔環境が整った。2017年には他院への異動が1名と当院への帰局が1名で人数は変わらないが、短時間勤務者が2名になるため麻酔科担当症例は減少すると推測される。

（第一部長 寺本 友三）

## 2. 新規登録疾患

### (1) 悪性新生物以外

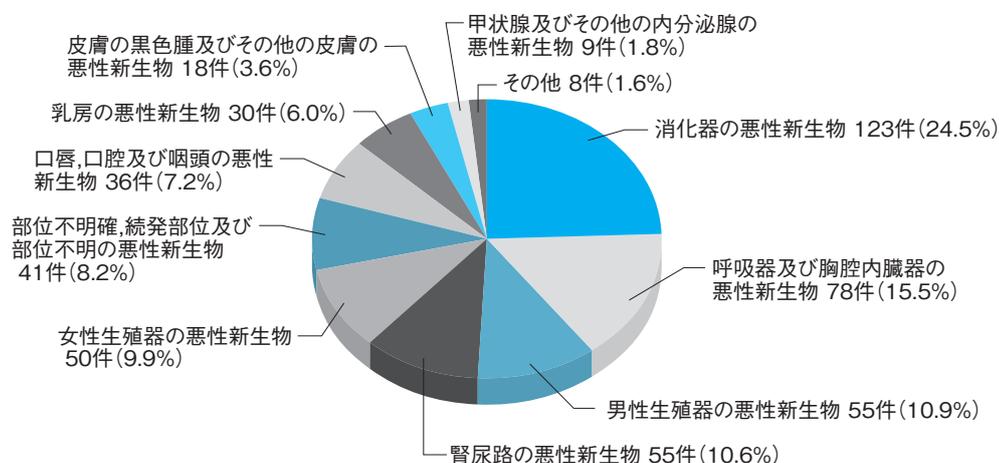
総数：2,135件



疾患名	主となるICD-10病名	件数(件)	ICD-10
消化器系の疾患	口腔、唾液腺及び顎の疾患	99	K00-K14
	ヘルニア	90	K40-K46
筋骨格系および結合組織の疾患	関節症	107	M15-M19
	脊椎障害	87	M45-M49
新生物／血液および造血器の疾患 ならびに免疫機構の障害	性状不詳又は不明の新生物	137	D37-D48
	良性新生物	133	D10-D36
損傷、中毒およびその他の外因の 影響	頭部損傷	54	S00-S09
	肩及び上腕の損傷	45	S40-S49
呼吸器系の疾患	上気道のその他の疾患	167	J30-J39
	胸膜のその他の疾患	48	J90-J94
妊娠、分娩および産じょく	胎児及び羊膜腔に関連する母体ケア並びに 予想される分娩の諸問題	105	O30-O48
	分娩	45	O80-O84
循環器系の疾患	脳血管疾患	57	I60-I69
	静脈、リンパ管及びリンパ節の疾患、他に 分類されないもの	55	I80-I89
先天奇形、変形および染色体異常	唇裂及び口蓋裂	22	Q35-Q37
	循環器系の先天奇形	20	Q20-Q28
腎尿路生殖器系の疾患	女性生殖器の非炎症性障害	37	N80-N98
	腎不全	13	N17-N19
神経系の疾患	神経系のその他の障害	15	G90-G99

(2) 悪性新生物

総数：503件



疾患名	主となるICD-10病名	件数(件)	ICD-10
消化器の悪性新生物	直腸の悪性新生物	25	C20
	結腸の悪性新生物, S状結腸	16	C187
呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物	気管支及び肺の悪性新生物, 上葉, 気管支又は肺	33	C341
	気管支及び肺の悪性新生物, 下葉, 気管支又は肺	33	C343
男性生殖器の悪性新生物	前立腺の悪性新生物	54	C61
腎尿路の悪性新生物	腎盂を除く腎の悪性新生物	25	C64
	膀胱の悪性新生物, 膀胱側壁	8	C672
女性生殖器の悪性新生物	子宮体部の悪性新生物, 子宮内膜	21	C541
	卵巣の悪性新生物	17	C56
部位不明確, 続発部位及び部位不明の悪性新生物	肺の続発性悪性新生物	17	C780
	骨及び骨髄の続発性悪性新生物	8	C795
口唇, 口腔及び咽頭の悪性新生物	中咽頭の悪性新生物, 中咽頭, 部位不明	9	C109
	舌のその他及び部位不明の悪性新生物, 舌, 部位不明	6	C029
乳房の悪性新生物	乳房の悪性新生物, 乳房上外側4分の1	15	C504
	乳房の悪性新生物, 乳房の境界部病巣	6	C508
皮膚の黒色腫及びその他の皮膚の悪性新生物	下肢の悪性黒色腫, 股関節部を含む	3	C437
甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物	甲状腺の悪性新生物	9	C73

### 3. 活動報告

#### (1) 主要備品 (2017年分も含む)

##### ① 患者監視装置

- (ア) Philips 社製 セントラルモニタ IntelliVue インフォメーションセンタ 1 式 (2 画面)
- (イ) Philips 社製 IntelliVueMP 50、70、90 (8 台)、MX700 (7 台)、MX800 (1 台)

##### ② 手術部門システム

Philips 社製 ORSYS-TETRA、電子カルテと連動

術前術後診察機能、同意書作成機能、血中濃度シミュレーター付、縦型 19 インチタッチパネルモニタ 14 台、看護端末 14 台とデータ連係、ステータスマニタ 5 台、管理端末 6 台、Web 機能によりすべての電子カルテ端末より参照可

##### ③ 超音波診断装置

- (ア) 心臓麻酔用 GE 社製 VividS70 1 台、Vivid i 1 台
- (イ) 中心静脈穿刺用 GE 社製 Venue40 Anesthesia 1 台
- (ウ) 神経ブロック用ソノサイト社製 S-Nerve 1 台
- (エ) 神経ブロック用 GE 社製 LOGIQ e Premium 1 台

##### ④ 静脈麻酔システム

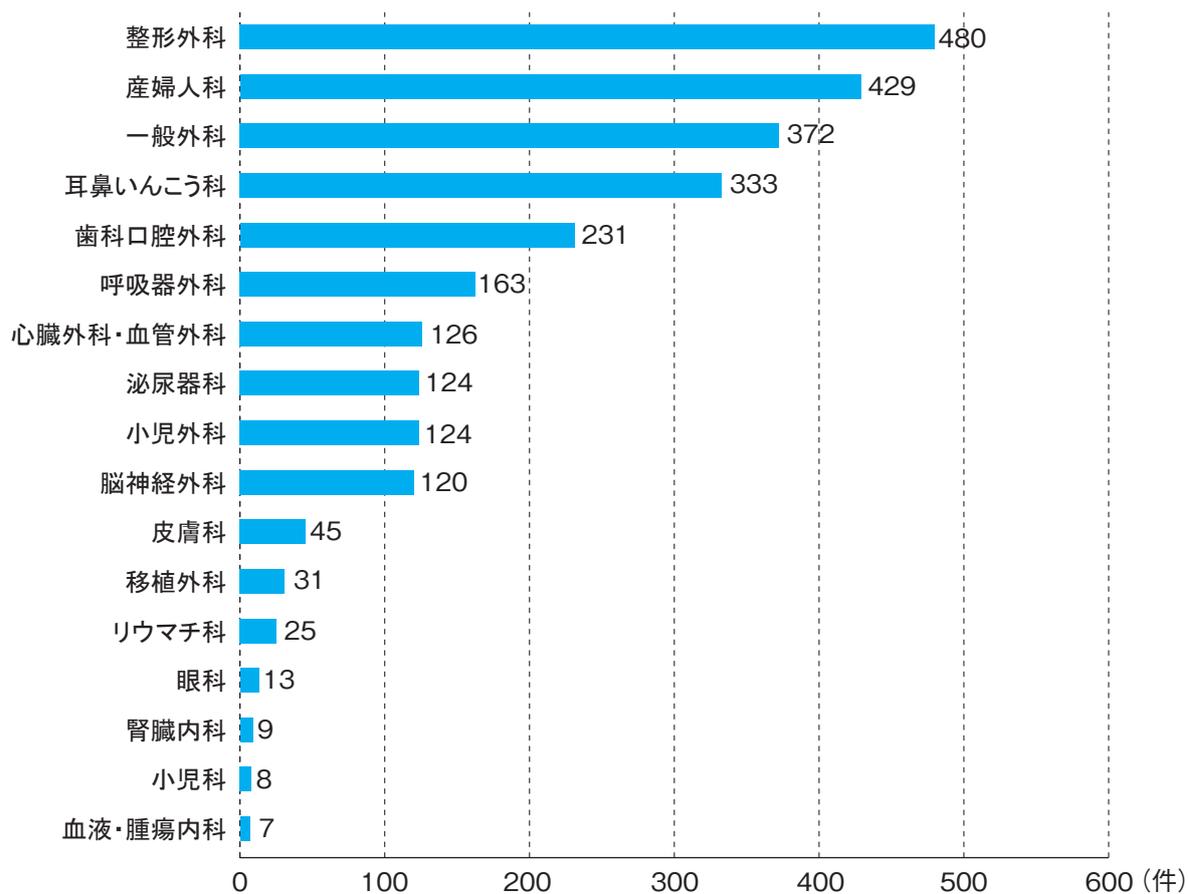
- (ア) テルモ社製ディプリバン専用 TCI ポンプ 16 台
- (イ) テルモ社製シリンジポンプ 80 台 (架台 14 式)

##### ⑤ 挿管支援器具

- (ア) ペンタックス社製 エアウェイスコープ 10 台
- (イ) McGRATH MAC 32 台 (手術室以外の主要部署にも配置)

(2) 科別麻酔科管理症例数

総数：2,640件



# リハビリテーション科

## 1. 概要

リハビリテーション科の診療はリハビリテーションセンターと、院内各病棟のベッドサイドで行っている。

外来診療は、市内の病院・医院では行っていない小児の運動・言語発達遅滞及び神経難病を中心として行う。また、当院入院中のリハビリを外来で継続する場合もある。

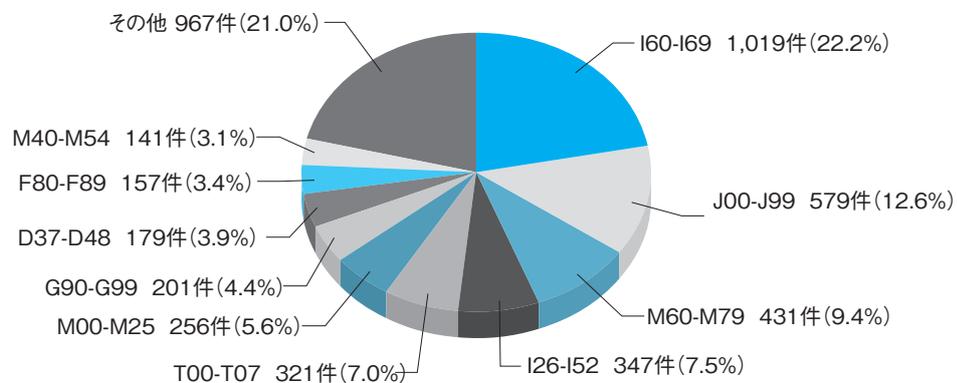
入院診療は、脳卒中、頭部外傷、脳神経や脊髄神経の疾患の脳血管リハビリ、骨・関節の外傷や疾患への運動器リハビリ、心筋梗塞・狭心症や心不全の心大血管リハビリ、肺炎や慢性閉塞性肺疾患などの呼吸器リハビリ、また嚥下障害に対する嚥下リハビリを行っている。当院では、急性期リハビリが中心であり、地域連携パスを通じて回復期リハビリ病棟を持つ病院に転院できるシステムが整えられている。

2016年には、がん治療目的に入院されている方への個別療法であるがん患者リハビリに対応可能なスタッフを増員した。また、入院患者の日常生活動作を維持・向上するためのリハビリ体制構築を準備している。

(部長 石川 知志)

## 2. 新規登録疾患

総数：4,598件



ICD-10 中間分類項目
I60-I69：脳血管疾患
J00-J99：呼吸器系の疾患
M60-M79：軟部組織障害
I26-I52：循環器系の疾患
T00-T07：多部位の損傷
M00-M25：関節障害
G90-G99：神経系のその他の障害
D37-D48：性状不詳または不明の新生物
F80-F89：心理的発達の障害
M40-M54：脊柱障害

### 3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数 5,010人

## 病理診断科

### 1. 概要

病理診断科は生検や手術検体の病理組織診断、術中迅速診断、細胞診検査、病理解剖を行っている。また、病理診断科を選択した研修医の実習・教育及び臨床各科から依頼された学術報告への協力、院内カンファレンスへの参加も同時に行っている。これらの業務を常勤病理医1名と非常勤病理医5名で行った。非常勤病理医は浜松医大から1名、名古屋大学から3名、藤田保健衛生大学から1名派遣された。

2016年の病理組織検査の依頼件数は12,299件で、そのうち術中迅速診断は520件であった。病理解剖は23件で、定期的にCPCを開催し、臨床各科を交えて、症例の診断・治療、病態・死因についての詳細な検討を行った。CPCは研修医の教育の場としても重要で、研修医が一例以上を担当し、症例の発表・報告を行った。提示症例は貴重例が多く教育的効果は大きいものがあった。さらに剖検診断結果は日本病理学会が刊行している日本病理剖検輯報に掲載され、広く医学に貢献している。

(部長 前多 松喜)

# 臨床検査科

## 1. 概要

2012年より臨床検査科が開設された。以来、検体検査管理加算（Ⅰ）・（Ⅳ）算定の許可を受けている。2014年度に日本臨床検査医学会臨床検査管理医を取得している。

高度医療に対応するため、臨床検査の正確度の維持向上を目的とし、内部精度管理、外部精度管理の充実を目標としている。外部精度管理として日本医師会・日本臨床衛生検査技師会・愛知県臨床検査技師会の精度管理調査に参加しており、2016年度も優秀な成績をおさめている。

検体検査に基づいたパニック値や重大な結果等は直ちに臨床側に報告され、迅速な対応に協力している。場合により、個別に追加対応を担当医師に相談し、適切な診療に役立てていただいている。2016年より尿沈渣検査が24時間可能となった。

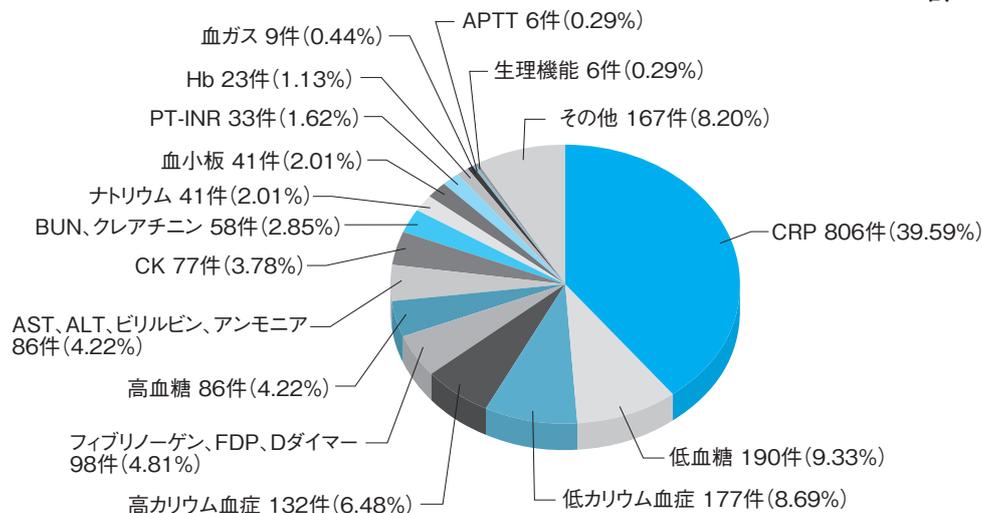
また、症例検討を含む勉強会を定期的に行い、中央臨床検査室の臨床的知識・能力の向上のため尽力している。豊橋市立看護専門学校の講義に参加している。

(副部長 出井 里佳)

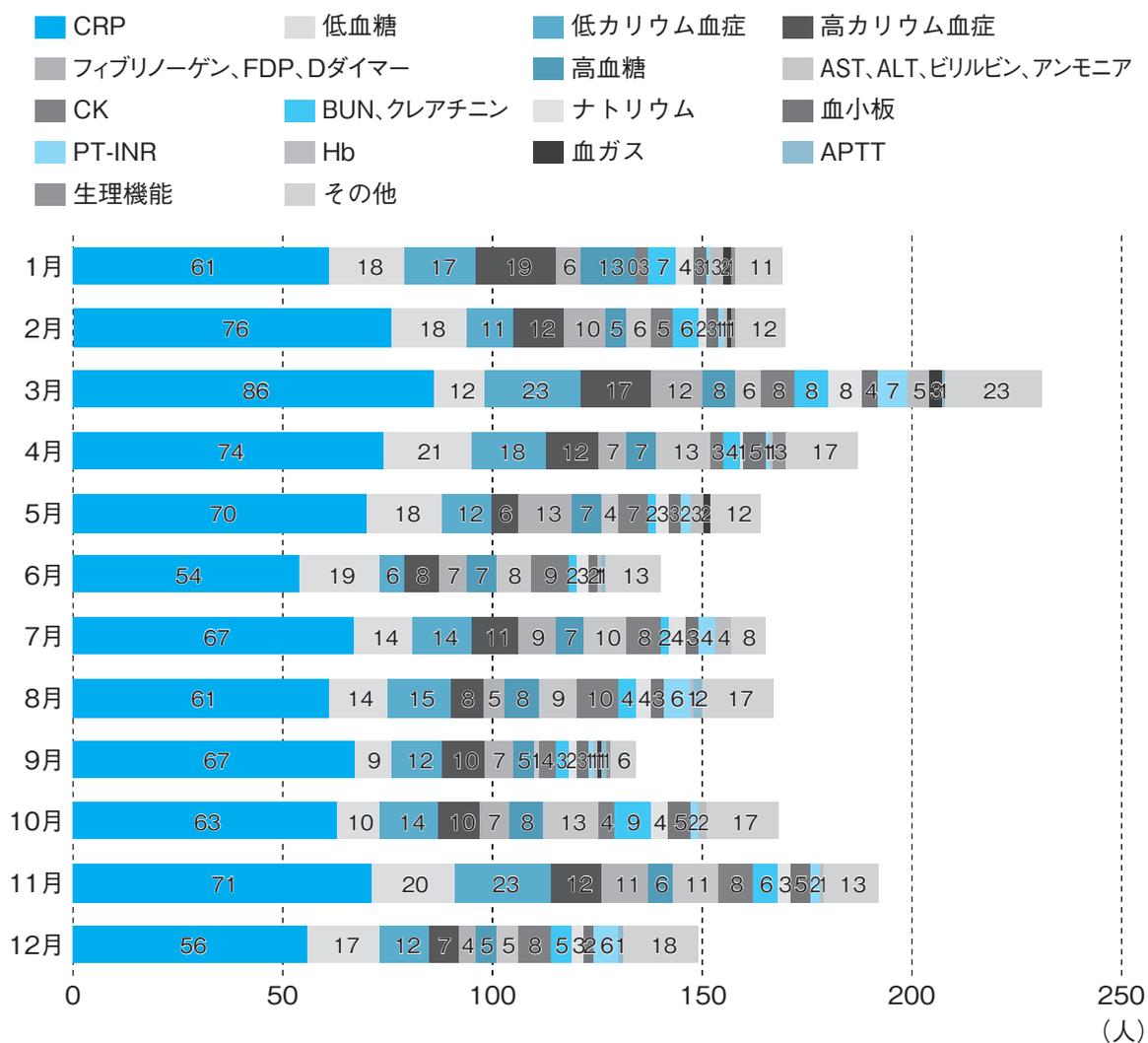
## 2. 活動報告

### (1) パニック値頻度

計：2,036件



(2) 月別パニック値報告



(3) 中央臨床検査室勉強会

開催月	議 題
1月	高CRP血症
2月	高CRP血症
5月	高クレアチニン血症
6月	高クレアチニン血症
7月	高AST、ALT血症
8月	高AST、ALT血症
10月	高アルカリフォスファターゼ血症
11月	高アルカリフォスファターゼ血症
12月	高カリウム血症

# 歯科口腔外科

## 1. 概要

外来初診症例においては昨年度よりも増して豊橋市内外の医科や歯科から多くの紹介をいただき、全体として増加を認めた。口腔外科的疾患の各分野においてほぼ例年通りの安定した患者数を維持している。特に、外傷はここ数年で増加傾向にある。可及的早期対応・早期治療・質の高い医療の提供を目指し、今後も関連各科との密な連携を進めてゆく予定である。また、歯科的分野においては昨年に比べて院内患者の周術期口腔管理の依頼件数が増加している。DPCの導入により今後もさらなる増加が見込まれると予想され、周術期における口腔の合併症予防のためにも院内医科との連携を密に取りつつ今後も継続してゆく予定である。

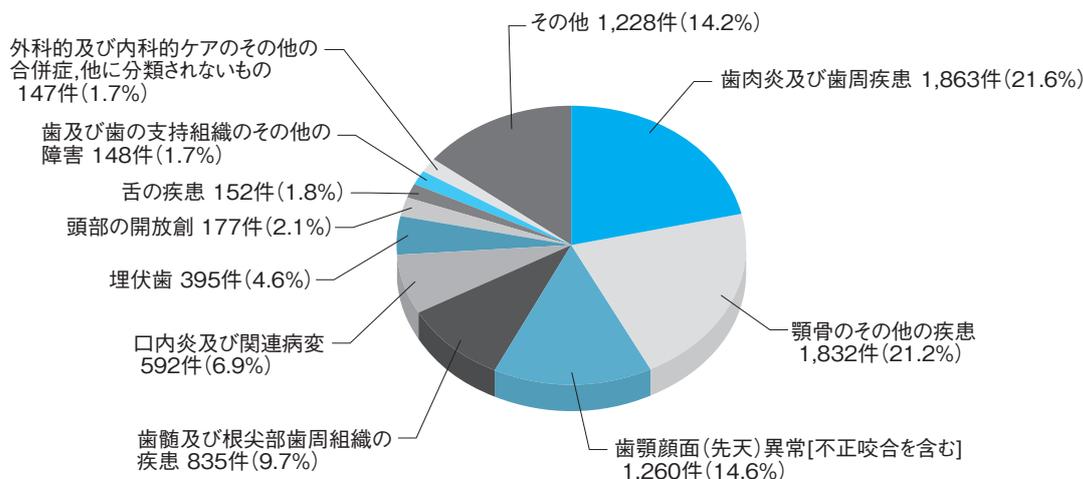
入院症例では、各疾患分野において多少の増減はあるが全体としてはやや減少した。これには外来通院下での比較的軽度な手術症例が昨年度に比べて多かったためと思われる。

(部長 嘉悦 淳男)

(文責 副部長 寺沢 史誉)

## 2. 新規登録疾患

総数：8,629件



疾患名	主となるICD-10病名	件数(件)	ICD-10
歯肉炎及び歯周疾患	慢性歯周炎	1,840	K053
	急性歯周炎	13	K052
顎骨のその他の疾患	炎症性顎骨病態	1,815	K102
	顎骨の発育性障害	12	K100
歯顎顔面(先天)異常[不正咬合を含む]	歯の位置異常	1,003	K073
	顎関節障害	244	K076
歯髄及び根尖部歯周組織の疾患	慢性根尖性歯周炎	748	K045
	歯根のう胞	55	K048
口内炎及び関連病変	その他の型の口内炎	566	K121
	口腔の蜂巣炎及び膿瘍	15	K122
埋伏歯	埋伏歯	381	K011
頭部の開放創	口唇及び口腔の開放創	176	S015
舌の疾患	舌痛	137	K146
	舌炎	10	K140
歯及び歯の支持組織のその他の障害	事故,抜歯又は局所の歯周疾患による歯の喪失	96	K081
	歯及び歯の支持組織のその他の明示された障害	25	K088
外科的及び内科的ケアのその他の合併症,他に分類されないもの	外科的及び内科的ケアのその他の明示された合併症,他に分類されないもの	147	T888

### 3. 活動報告

#### (1) 患者状況

年間外来患者数	14,761人	年間外来新患者数	3,111人
年間入院患者数	2,320人	年間入院新患者数	408人

#### (2) 外来・入院症例数

##### ①外来初診

疾患名	件数(件)
口腔管理	1,101
口腔歯の形態異常	1,091
一般歯科疾患	622
外傷	402
粘膜疾患	181
炎症感染症	175
顎関節疾患	144
嚢胞	111
良性腫瘍	99
神経疾患	58
唾液腺疾患	58
顎顔面の形態異常	52
悪性腫瘍	19
口腔機能疾患	16
唇顎口蓋裂	15
その他	5
計	4,149

##### ②入院

疾患名	件数(件)
智歯関連	139
嚢胞	35
悪性腫瘍	32
一般歯科疾患	28
炎症	22
良性腫瘍	22
外傷	21
唇顎口蓋裂	14
顎顔面の形態異常	10
歯口腔の形態異常	8
唾液腺疾患	5
顎関節疾患	1
粘膜疾患	1
神経疾患	1
その他	9
計	348

# 医療安全管理室

## 1. 概要

医療安全管理室は、2005年4月、医療安全の推進を図るため院長直属の専門部署として設置された。医療の基本条件・最優先課題とされる「患者の安全を確保すること」の実現に向け、副院長を室長として、5名の専従職員と4名の兼務職員による10名で組織されている。

患者さんが安心して安全で質の高い医療を受けられる環境を整備することを目標として、医療事故の発生原因を発見し、不断に改善することによって発生を未然に防ぐ取り組みを行っている。

目標の達成に向け、インシデント・アクシデント報告の内容を検討・分析し医療安全対策に反映させ、かつ、職員の意識啓発のため「医療安全管理たより」を全職員に配信し周知している。また、院内安全ラウンドを実施し、安全な環境が確保できているか確認している。さらに、医療事故発生防止のための講習会を年7回開催している。一方、発生した医療事故については、原因究明・解決のため「事例検討会」を開催し、患者・家族への説明を行うほか、医療訴訟事案への対応などの業務を行っている。

(室長 大野 修)

## 2. 活動報告

### (1) 医療安全管理たより (13通配信)

配信日	タイトル
4月15日	使用済みのシリンジは再使用できないように処理すること！
	食事トレイの下膳に注意
4月20日	深部静脈血栓予防を確実に
5月11日	脂肪乳化剤に他の薬剤を混合しない
	ポンプ使用時の注意
7月26日	点滴使用時の注意
10月4日	内部監査を実施しました
10月17日	口腔ケアの際には注意しましょう！
11月29日	埋込み型ペースメーカーおよび埋込み型除細動装置装着患者とCTについて (NO.1)
1月5日	埋込み型ペースメーカーおよび埋込み型除細動装置装着患者とCTについて (NO.2)
2月10日	手術・検査前の中止薬について
2月14日	胸水に対する胸腔穿刺について
3月7日	膀胱留置カテーテルを固定する前には尿の流出を確認すること！

(2) 院内安全ラウンド（18回実施）

回	日付	訪問病棟
1	5月17日	東西2階・東西3階
2	6月7日	東西4階・東西5階
3	6月21日	東西6階・東西7階
4	7月5日	東西8階・東西9階
5	7月19日	手術センター・NMC・救急外来センター・画像検査室
6	8月2日	薬局・リハビリセンター・南病棟
7	8月16日	放射線検査室・外来1階・外来治療センター・放射線外来
8	9月6日	中央臨床検査室・外来2階・血液浄化センター・予防医療センター
9	9月20日	内部監査
10	10月4日	東西2階・東西3階
11	10月18日	東西4階・東西5階
12	11月1日	東西6階・東西7階
13	11月15日	東西8階・東西9階
14	12月6日	手術センター・NMC・救急外来センター・画像検査室
15	12月20日	薬局・リハビリセンター・南病棟
16	1月17日	放射線検査室・外来1階・外来治療センター・放射線外来
17	2月7日	中央臨床検査室・外来2階・血液浄化センター・予防医療センター
18	2月21日	内部監査フォローアップ

# 卒後臨床研修センター

## 1. 概要

今年度は、多くの改革を実施。指導体制では、研修委員会3回と外部委員を招いた管理委員会を年3回開催。指導医体制では、メンター指導医制度および専任指導医制度を導入。研修内容では、10月にセミナー室3室とスキルスラボ2室からなるシミュレーション研修センターが完成した。外来研修の充実にも取り組んだ。本年度初めて2年次に「基本的臨床能力評価試験」を受験させて優れた成績を得た。評価システムでは、研修委員会、管理委員会ごとに到達目標の達成率を算出して報告するとともに研修医へフィードバックした。研修記録では、研修医が自ら到達目標を確認し進捗管理できるように、「私の初期研修記録」ファイルを作成し各自管理とした。

研修医確保のため、臨床研修病院合同説明会への参加、医学生向け院内病院説明会、高校生を対象とした1日医師体験などを開催し積極的に情報発信を行った。その結果、マッチングリスト上位の学生で定員を満たすことができた。

平成29年度は、初期臨床研修センターと後期臨床研究センターに分けるとともに、新たにシミュレーション教育センターにセンター長と副センター長を任命する。また、卒後臨床研修評価機構の2回目の更新を受審する。

(センター長 杉浦 勇)

## 2. 活動報告

### (1) 定期委員会

平成28年7月～平成29年3月	研修管理委員会	*全3回
平成28年5月～平成29年2月	研修委員会	*全3回
平成28年6月～平成29年1月	研修医ミーティング	*全5回

### (2) 行事

平成28年4月1日～8日	初期臨床研修医オリエンテーション
平成28年4月1日	初期臨床研修医歓迎会
平成28年4月～9月	救急医学講座 *全21講座
平成28年5月5日	東海北陸地区臨床研修病院合同説明会(レジナビ) *当院ブース来場者 147人
平成28年7月9日	医学生向け 病院説明会(院内) *参加者 28人
平成28年8月24日	高校生1日医師体験 *参加者 12人
平成28年8月25日	平成29年度採用初期臨床研修医採用試験 *受験者数 医科35人 歯科2人 *マッチング数 医科17人 (フルマッチ) 歯科1人 (フルマッチ)
平成28年9月25日	シミュレーション研修センター開設 (スキルスラボ2室、セミナー室3室)
平成29年2月3日	基本的臨床能力評価試験 受験 受験者数 9人 総合順位 26位(380病院中)

平成 29 年 3 月 13 日  
平成 29 年 3 月 31 日

心臓診察シミュレータ イチローⅡ 勉強会開催  
平成 27 年卒初期臨床研修修了  
\* 進路 院内 医科 13 人、歯科 1 人  
院外 医科 4 人

# 救急外来センター

## 1. 概要

当院の救命救急センターは、東三河地区唯一の救命救急センターとして、1次から3次までのあらゆる救急患者に対応している。救命救急センターは、主に救急外来センターと重症例が入院する救急入院センター・集中治療センターに分かれ、24時間体制をとっている。またヘリポートを併設しているため、東三河全域より、ドクターヘリまたは防災ヘリにて重症救急患者を受け入れているのが特徴である。

救急外来センターでは、医学生、研修医、地域の救急救命士等に対して毎朝カンファレンスを行い、また月例のICLSコース（突然の心停止に対して直ちに行う処置）を開催しており、院内医療スタッフ、地域救急隊ともに、質の向上を目指している。

（センター長 鈴木 伸行）

## 2. 活動報告

### (1) 年齢区分別救急外来受診患者数

診療科	15歳未満		15歳以上 65歳未満		65歳以上		計
	患者数(人)	構成比率(%)	患者数(人)	構成比率(%)	患者数(人)	構成比率(%)	
総合内科	22	1.2	1,247	66.3	611	32.5	1,880
呼吸器内科	4	0.2	867	46.6	988	53.2	1,859
消化器内科	15	0.5	1,576	55.2	1,267	44.3	2,858
循環器内科	1	0.1	312	28.4	784	71.5	1,097
腎臓内科	0	0.0	91	45.5	109	54.5	200
糖尿病・内分泌内科	0	0.0	87	46.0	102	54.0	189
神経内科	3	0.2	582	42.2	795	57.6	1,380
血液・腫瘍内科	0	0.0	45	31.0	100	69.0	145
一般外科	65	6.2	459	44.0	519	49.8	1,043
小児外科	5	100.0	0	0.0	0	0.0	5
肛門外科	0	0.0	2	66.7	1	33.3	3
呼吸器外科	2	1.1	103	54.8	83	44.1	188
心臓外科・血管外科	0	0.0	21	33.9	41	66.1	62
移植外科	0	0.0	16	88.9	2	11.1	18
整形外科	439	14.1	1,707	55.0	960	30.9	3,106
リウマチ科	0	0.0	5	41.7	7	58.3	12
形成外科	1	12.5	5	62.5	2	25.0	8
脳神経外科	568	32.4	571	32.6	612	35.0	1,751
小児科	4,218	97.9	90	2.1	0	0.0	4,308
産婦人科	8	0.8	907	93.5	55	5.7	970
耳鼻いんこう科	292	19.5	815	54.3	393	26.2	1,500
眼科	106	20.6	300	58.4	108	21.0	514
皮膚科	262	18.2	833	57.7	348	24.1	1,443
泌尿器科	27	2.6	537	51.6	477	45.8	1,041
歯科口腔外科	102	31.2	151	46.2	74	22.6	327
こころのケア科	3	6.7	37	82.2	5	11.1	45
計	6,143	23.7	11,366	43.8	8,443	32.5	25,952

(2) ICLS 参加人数 (受講者数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(人)
ICLS回数	第123回		第124回	第125回	第126回	第127回	第128回	第129回	第130回	第131回	第132回	第133回	
開催日	4月7日		6月9日	7月14日	8月18日	9月8日	10月13日	11月17日	12月6日	1月12日	2月9日	3月9日	
院内(人)	18		9	7	6	8	7	7	7	8	8	7	92
院外(人)	0		0	1	0	5	1	0	0	0	5	3	15
計(人)	18		9	8	6	13	8	7	7	8	13	10	107
スタッフ(人)	12		10	6	8	9	7	7	8	5	10	14	96

(3) 東三河外傷セミナー (JPTEC)

①第 60 回 三河外傷セミナー JPTEC プロバイダーコース

開催日 : 平成 28 年 6 月 4 日 (土) 8:30 ~ 18:20

場所 : 豊橋市立看護専門学校

責任者 : 豊橋市民病院 鈴木 伸行

受講数 : 研修医 18 人、看護師 5 人 受講・修了

②事前勉強会 (セミナー対策) 計 4 回

開催日 : 平成 28 年 5 月 13 日、18 日、23 日、6 月 1 日

(4) BLS (一次救命処置) 講習会

① AHA・BLS ヘルスケアプロバイダーコース

開催日 : 平成 28 年 6 月 18 日 (土) 10:00 ~ 17:00

受講数 : 研修医 18 人、看護師 4 人 受講・修了

# 救急入院センター

## 1. 概要

救急入院センターは2013年度より設置され、センター長 平松和洋（一般外科兼任）、副センター長 中島基晶（麻酔科兼任）、菅沼伸一（呼吸器内科兼任）で運営し、現在に至っている。当センターはICUに隣接し、ICU適応以外の夜間・休日の救急入院患者の受け皿として機能している。基本的に各科主治医が患者の診療を行い、センターメンバーは主に本センターの管理・運営を主体として活動している。実働病床は2013年以来、継続して12床で運営してきており、救命救急入院料算定件数においては、2013年度は2,713件、2014年度は1,950件、2015年度は1,591件、2016年度1,282件と開設以来3年連続減少傾向にある。2016年4月から2017年3月までの各月の推移は以下のグラフのごとくである。加算の多くは例年通り3日以内で、昨年の統計と比べると今年は7月、2月の真夏と真冬に2回のピークがあった。夏から秋にかけて減少する傾向は変わっていない。月ごとや加算内容に大きな変化はなく、減少は救急患者全体の減少によるものと考えられた。

例年通り本センターの当直体制はセンターのメンバーだけでなく各科部長等にも委託して行い、夜間入院患者の救急処置に当たってきたが、2016年度は特に大きな問題なく経過した。

（センター長 平松 和洋）

## 2. 活動報告

### (1) 年齢別受診患者数

診療科 区 分	内 科		外 科		心臓血管・ 呼吸器外科		脳神経外科		その他		計	
	延患者数 (人)	構成比 (%)	延患者数 (人)	構成比 (%)	延患者数 (人)	構成比 (%)	延患者数 (人)	構成比 (%)	延患者数 (人)	構成比 (%)	延患者数 (人)	構成比 (%)
80歳以上	679	34.1	166	23.2	78	11.3	130	13.8	95	16.8	1,148	23.4
70～79歳	496	24.9	207	28.9	252	36.4	256	27.3	100	17.6	1,311	26.7
60～69歳	368	18.4	135	18.9	168	24.3	234	24.9	133	23.5	1,038	21.2
50～59歳	195	9.8	93	13.0	53	7.7	124	13.2	50	8.8	515	10.5
40～49歳	111	5.6	28	3.9	55	7.9	79	8.4	29	5.1	302	6.2
30～39歳	106	5.3	34	4.7	80	11.6	23	2.4	49	8.6	292	5.9
20～29歳	34	1.7	35	4.9	3	0.4	30	3.2	35	6.2	137	2.8
10～19歳	4	0.2	17	2.4	3	0.4	54	5.8	27	4.8	105	2.1
0～9歳	0	0.0	1	0.1	0	0.0	9	1.0	49	8.6	59	1.2
計	1,993	100	716	100	692	100	939	100	567	100	4,907	100

\*集中治療センターも含む

(2) 救命救急入院料算定件数

点数名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
救命救急入院料 (3日以内)	100	73	81	110	80	79	79	75	85	97	90	93	1,042
救命救急入院料 (4日以上7日以内)	3	16	19	15	11	4	11	8	7	9	23	15	141
救命救急入院料 (8日以上14日以内)	4	11	11	0	19	11	7	14	1	2	18	1	99
計	107	100	111	125	110	94	97	97	93	108	131	109	1,282

# 集中治療センター

## 1. 概要

当院は、東三河地域の急性期病院として位置付けられている。その中でも、集中治療センターは最重症患者を診ることのできる設備を有しており、地域における「最後の砦」といっても過言ではない場所である。そこでの診療には、常に正確な知識と技術が要求される。また、その要求に応えることは、そこで働く者にとって義務といえる。そして、それを実現する原動力は、何より患者に対する真摯な気持ちであり、このことをスタッフ同士常に認識し日常の診療に努めたい。

(センター長 中山 雅人)

## 2. 活動報告

### (1) 入院患者の主病名分類

大 分 類	件数(件)
感染症および寄生虫症 (A00-B99)	22
新生物 (C00-D48)	443
血液および造血器の疾患ならびに免疫機構障害 (D50-D89)	0
内分泌、栄養および代謝疾患 (E00-E90)	14
精神および行動の障害 (F00-F99)	0
神経系の疾患 (G00-G99)	65
眼および付属器の疾患 (H00-H59)	0
耳および付属器の疾患 (H60-H95)	0
循環器系の疾患 (I00-I99)	481
呼吸器系の疾患 (J00-J99)	56
消化器系の疾患 (K00-K93)	124
皮膚および皮下組織の疾患 (L00-L99)	1
筋骨格系および結合組織の疾患 (M00-M99)	55
腎尿路生殖器系の疾患 (N00-N99)	10
妊娠、分娩および産褥 (O00-O99)	11
周産期に発生した病態 (P00-P96)	0
先天奇形、変形および染色体異常 (Q00-Q99)	15
症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの (R00-R99)	8
損傷、中毒およびその他の外因の影響 (S00-T98)	213
傷病および死亡の原因 (V01-Y98)	0
健康状態に影響をおよぼす要因および保険サービスの利用 (Z00-Z99)	0
計	1,518

## 周産期母子医療センター（母体・胎児部門）

### 1. 概要

愛知県より東三河初の総合周産期母子医療センターに指定されてから3年が経過した。東三河の周産期医療の基幹病院として多くの母体搬送や産褥搬送を受け、小児科医師とともに対応し治療を行っている。総合周産期母子医療センターに指定されると、産婦人科医師2名の当直が必要となるので、当直回数が倍に増え、医師の負担が増加した。また超緊急帝王切開は、帝王切開が必要と診断してから30分以内に児を娩出することが義務付けられており、これは24時間体制で行わねばならない。小児科医師、麻酔科医師、手術室看護師、産科病棟看護師の協力のもとで現在順調に症例数を伸ばしている。母体搬送応需率は高く、県内6つの総合周産期母子医療センターの中で最も高い応需率を達成している。今後も高度な周産期医療を提供できるように努力していきたい。

（センター長 河井 通泰）

### 2. 活動報告

#### (1) 主な症例数

	平成28年1月～3月	平成28年度
超緊急帝王切開	2件	20件
うち30分以内児娩出	2件	20件
うち他施設からの搬送	1件	8件
母体死亡	0件	0件
母体搬送受け入れ	55件	209件
母体搬送応需不可	0件	1件
母体搬送応需率	100%	99.5%

## 周産期母子医療センター（新生児部門）

### 1. 概要

当院新生児医療センターはNICU12床を擁し、愛知県から東三河唯一の総合周産期母子医療センター（新生児部門）に指定され、東三河新生児医療の中心的役割を担っている。重症な児を遠方に搬送することは児の予後に悪影響を及ぼすことから、入院依頼を受けた児は対応可能な疾患である限り断らないことをポリシーとし、最後の砦としての役割を果たしている。また、地域の新生児医療のレベルアップを図ることも重要な役割と考え、地域で周産期医療に携わる医師、助産師、救急隊員などを対象に、新生児蘇生法講習会を開催した。センター長（新生児部門）の小山典久は愛知県周産期医療協議会会長として、県の周産期医療体制整備や計画立案にも参画している。厚生労働省は出生1,000人に対して2.5から3床のNICUが必要と公表している。これを受け愛知県では2015年度末までに県内のNICUを180床以上（210床程度まで）に増床する整備計画を立てていたが未達成である。東三河に必要なNICUは15から18床と試算されており、今後の整備が期待される。

（センター長 小山 典久）

## 総合生殖医療センター

### 1. 概要

当院で体外受精などの生殖補助医療（ART）がスタートしたのは1996年であり、2016年に20周年を迎えた。当院でのARTにより少なくとも2015年までに933人の赤ちゃんが誕生したが、最近では数値的な実績だけでなく、タイムラプスインキュベーターの世界初全例導入をはじめ、「最先端の生殖医療を東三河に」を合言葉に、健全な家族形成を地域での医療で完結するという生殖周産期医療の理想を旗印として、関連する医師やコ・メディカルスタッフが集結して、生まれてくる子どものことを第一に考えた基本軸のしっかりした医療を实践すべく、難しいケースにも的確に対応できるよう日々研鑽を重ねている。

（センター長 安藤 寿夫）

# リハビリテーションセンター

## 1. 概要

リハビリテーションセンターは診療部門、理学療法部門、作業療法部門、言語聴覚療法部門で構成されている。診療部門は、診察、リハビリ処方を行う。理学療法部門は、起居動作・移動動作など基本的動作能力回復目的の運動療法や呼吸器疾患、心疾患における合併症・術後の二次的障害予防・機能回復を目指した特殊な運動療法を行う。また筋電図、重心動揺検査、筋力測定、心肺運動負荷試験など身体機能を評価する。作業療法部門は、生活における動作の獲得、家事動作や職業への復帰目的の訓練・援助を行う。上肢の機能評価、記憶障害・注意障害・遂行機能障害など高次脳機能障害の評価、知能検査にも対応する。言語聴覚療法部門は、脳血管疾患や脳の外傷、あるいは発声器官の障害により失語症や構音障害を生じた患者、言語発達の遅れや口唇口蓋裂の小児に対する言語訓練を行う。また、摂食・嚥下障害の機能回復目的の訓練・指導をしている。

(センター長 石川 知志)

## 2. 活動報告

### (1) 利用状況

区 分	平成28年度	平成27年度	平成26年度
延患者数(人)	97,411	93,731	92,919
1日平均(人)	400.9	385.7	380.8
外来開院日数	243日	243日	244日

※病院事業収支及び活動状況（報告）より抜粋

## 血液浄化センター

### 1. 概要

当センターの診療内容は、一般的な透析業務（末期腎不全の透析導入、入院患者の維持透析、急性腎不全の血液浄化）のみではない。血漿交換・免疫吸着等も病態に応じて行っている。最近では、腎不全以外の膠原病・HUS/TTP・ギランバレー症候群・炎症性腸疾患等で、院内の多くの科から血液浄化の依頼が増えている。

当然、少人数の腎臓内科医だけでは業務を遂行できず、移植外科から多大な支援を受けている。また、臨床工学技士や看護師（血液浄化センターのみならず、外来やICUを始めとする病棟も）等のコミューナルの協力なくしては、当センターの運営が成り立たない事は言うまでもない。

入院透析患者は外来維持透析患者に比し、膨大な医療資源を費やすことから、現状では受け入れに限界があることは認めざるを得ないが、基幹病院としてその責務を果たすべく、今後もスタッフ一同最善を尽くす所存である。

（センター長 山川 大志）

# 予防医療センター

## 1. 概要

予防医療センターでは、主に、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、眼科、歯科口腔外科など各科の専門医のもと、一般的な人間ドック（二日ドック、日帰りドック）を高い精度をもって行い、糖尿病・脂質異常症などの生活習慣病やがんなどの悪性腫瘍の早期発見・早期介入に努めている。脳ドック、女性ドック（乳がん・子宮がん）、肺がん検診は、それぞれ脳神経外科、外科、産婦人科、呼吸器内科、放射線科の専門医と連携して行っている。

また、就職・進学・海外留学・海外出張・免許取得・施設入所時などの健康診断、被爆者健診、企業の定期健康診断、有機溶剤等健康診断、当院職員の院内健診など様々な健康診断を各科と連携しながら行っている。

さらに、予防医療として、インフルエンザワクチン、B型肝炎ワクチン、破傷風ワクチンをはじめとする各種ワクチンの接種を実施している。

一方、健康診断事業の一環として、当院の患者をはじめとする広く一般の方々の健康管理意識の高揚と健康の増進に寄与することを目的に「健康教室」を年2回開催している。

（センター長 鳥居 俊男）

## 2. 活動報告

### (1) コース別受診者数

コース名	受診者数（人）
二日ドック	82
日帰り人間ドック	2,799
脳ドック	447
肺がん検診	30
女性の健康ドック	69
個人健康診断	558
全国健康保険協会生活習慣病予防健診 （旧 政府管掌生活習慣病予防健診）	1,648
原爆被爆者健診	66
企業団体健診（注1）	905

注1：企業団体契約、その他を含む。

(2) 受診対象者の内訳

①二日ドック

検査項目	対象者数(人)	要精密検査対象者数(人)	精密検査受診者数(人)	要治療者数(人)
眼 底	82	10	5	0
胸 部 X 線	82	5	3	0
胃 部 X 線	20	1	1	0
胃 カ メ ラ	62	8	4	4
腹 部 エ コ ー	82	6	1	0
安静時心電図	80	3	2	0
負 荷 心 電 図	77	5	2	0
便 潜 血	80	2	1	0

②日帰りドック

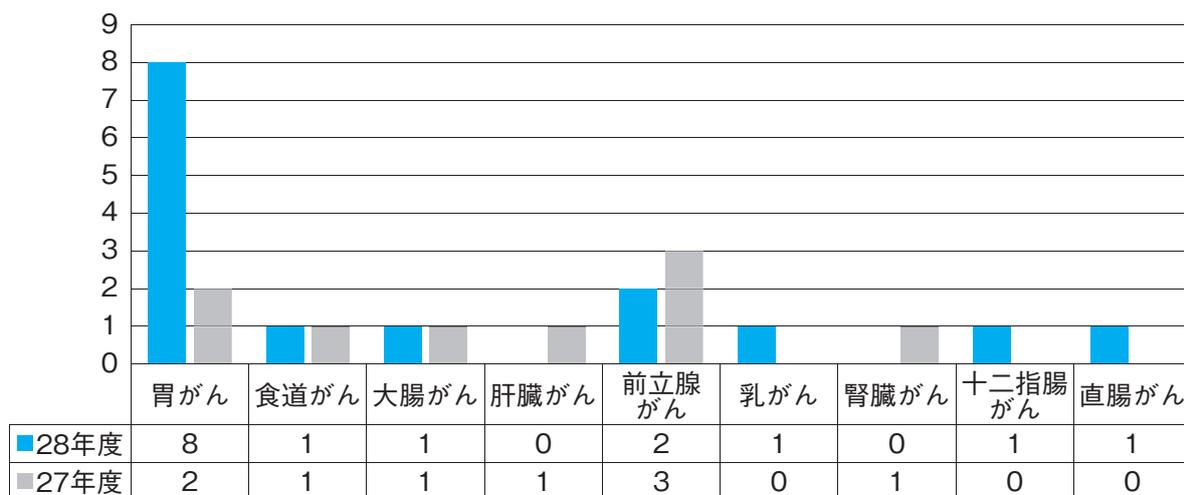
検査項目	対象者数(人)	要精密検査対象者数(人)	精密検査受診者数(人)	要治療者数(人)
眼 底	2,788	175	71	6
胸 部 X 線	2,787	80	44	0
胃 部 X 線	1,903	202	102	28
胃 カ メ ラ	797	75	31	26
腹 部 エ コ ー	2,573	98	58	3
安静時心電図	2,798	114	46	9
便 潜 血	2,732	114	61	16

③生活習慣病予防健診

検査項目	対象者数(人)	要精密検査対象者数(人)	精密検査受診者数(人)	要治療者数(人)
眼 底	78	5	2	0
胸 部 X 線	1,581	44	21	1
胃 部 X 線	1,384	187	89	20
胃 カ メ ラ	105	10	4	2
腹 部 エ コ ー	68	5	4	0
安静時心電図	1,591	77	21	2
便 潜 血	1,544	80	32	11

(3) 悪性新生物発見数

(人)



(4) メタボリック判定実施者

(人)

区 分	平成28年度	平成27年度
①基準該当	768	727
②予備軍該当	614	752
③非該当	3,073	4,617

# 輸血・細胞治療センター

## 1. 概要

輸血・細胞治療センターは、院内の輸血療法が適切に運用されるよう管理している。センターの業務には輸血関連検査業務、血液製剤およびアルブミン製剤の管理業務、輸血療法委員会の開催、院内監査の実施等が挙げられる。2015年にはI&A施設認定を取得し、規約等の整備を行った。

本年は、手術室、救命救急センター等で使用する血液製剤の廃棄率削減のため、自記温度記録装置を搭載した血液製剤搬送装置を2台購入した。また、2018年1月に更新される電子カルテ、輸血部門システムでは、現行の内容の充実を図るとともに、超緊急時の輸血体制の強化、造血幹細胞等の処理およびその保存管理、血液製剤の分割に対応可能な運用管理業務等を加えた。

(センター長 杉浦 勇)

## 2. 活動報告

### (1) 定期委員会

輸血療法委員会開催 (2か月毎予定) \* 6回実施

### (2) センター業務実績

#### ①輸血関連検査件数

平成 28 年度	件数(件)
血液型	17,637
不規則抗体スクリーニング	13,329
交差適合試験	5,533

#### ②血液製剤使用状況

平成 28 年度	総単位数(単位)	前年比(%)
赤血球液 (RBC)	11,034	90
新鮮凍結血漿 (FFP)	3,782	84
濃厚血小板 (PC)	21,805	98

#### ③アルブミン (ALB) 製剤使用状況

平成 28 年度	総本数(本数)	前年比(%)
25% ALB	1,438	109
5% ALB	741	78

\*ALB 使用単位数：9,079 単位

\*ALB/RBC=0.82 管理料 I 算定基準：2 未満

\*FFP/RBC=0.30 管理料 I 算定基準：0.54 未満

④製剤廃棄率

平成 28 年度	廃棄率 (%)	前年比 (%)
赤血球液 (RBC)	45	0.75
新鮮凍結血漿 (FFP)	105	2.97
濃厚血小板 (PC)	32	0.53

⑤副作用集計報告

平成 28 年度	副作用報告件数(件)	実患者数(人)
赤血球 (RBC)	94	67
新鮮凍結血漿 (FFP)	29	10
濃厚血小板 (PC)	187	81

# 感染症管理センター

## 1. 概要

近年、薬剤耐性菌（以下：AMR）が国際社会で問題となっている。新たな AMR が増える一方で新しい抗菌薬の開発が減少しているのが理由である。2050 年には癌による死亡者を超え死因の第 1 位になると言われるようになってきた。この解決のために WHO は 2015 年 5 月に AMR グローバル・アクションプランを提唱し、加盟各国に 2 年以内の行動計画策定とその実行を求めた。厚生労働省は関係省庁と調整し、2016 年 4 月 5 日に我が国初となる『AMR 対策アクションプラン』を公表した。厚生労働省プランは医療機関内に抗菌薬適正使用チーム（以下：AST）を設置し、適切な抗菌薬の使用と使用量削減を促すものだった。

インфекション・コントロール・チーム（以下：ICT）の役割は病院内で発生する感染（医療関連感染）を防ぐことである。当然“AMR の制圧”も重要な役割となっている。厚生労働省プランを機に多くの医療機関で AST が動き始めている。2016 年の感染症管理センターは ICT に AST 機能を持たせるために奔走した。次年度から“カルバペネム系抗菌薬の適正使用…”等をはじめとした本格的な AST 活動を行うこととなる。

（センター長 浦野 文博）

（文責 高橋 一嘉）

## 2. 活動報告

### (1) 感染症発生動向調査

#### ① 全数報告

(件)

類型	疾患名	平成28年度	平成27年度	平成26年度
二類	結核	46	37	42
三類	細菌性赤痢	0	0	0
	腸管出血性大腸菌感染症	9	3	3
	パラチフス	0	0	0
四類	A 型肝炎	0	1	1
	つつが虫病	0	0	0
	デング熱	1	1	1
	マラリア	0	0	0
	レジオネラ症	2	8	3
五類	アメーバ赤痢	0	2	0
	ウイルス性肝炎（E 型肝炎及び A 型肝炎を除く）	0	0	1
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2	0	1
	急性脳炎	0	0	1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	1	0
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	0
	後天性免疫不全症候群	1	3	2
	侵襲性髄膜炎感染症	0	0	1
	侵襲性肺炎球菌感染症	3	0	4
	梅毒	1	0	1
	破傷風	0	0	0
	風しん	0	0	1
	麻しん	0	2	0

## ②小児科定点報告

(件)

	疾患名	平成28年度	平成27年度	平成26年度
週報	RS ウイルス	115	192	108
	咽頭結膜熱	0	0	1
	A 群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	85	26	20
	感染性胃腸炎	787	770	176
	水痘	12	8	13
	手足口病	1	15	2
	伝染性紅斑	0	10	0
	突発性発疹	5	11	2
	百日咳	2	12	2
	ヘルパンギーナ	8	23	18
	流行性耳下腺炎	54	48	2

## ③基幹定点報告

(件)

	疾患名	平成28年度	平成27年度	平成26年度
週報	細菌性髄膜炎	6	7	2
	無菌性髄膜炎	1	2	1
	マイコプラズマ肺炎	17	28	29
	クラミジア肺炎	1	0	0
	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	18	21	8
月報	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	137	182	195
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0	0	1
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	1	0

## ④インフルエンザ定点報告

(件)

	疾患名	平成28年度	平成27年度	平成26年度
週報	インフルエンザ	804	486	916

## ⑤インフルエンザによる入院患者報告

(件)

	疾患名	平成28年度	平成27年度	平成26年度
週報	インフルエンザ (入院患者)	116	77	115

## ⑥職員の感染曝露

(件)

	平成28年度	平成27年度	平成26年度
針刺し・切創 (EPI-Net A)	61	58	54
皮膚・粘膜汚染 (EPI-Net B)	11	5	6
院内結核曝露	1	4	3

## ⑦職員健康外来

(件)

	平成28年度	平成27年度	平成26年度
延べ受診者数	125	136	136

## 外来治療センター

### 1. 概要

当センターは2006年5月より運用を開始。患者の増加に伴い、2013年1月に開設時の20床から22床に増床し現在に至る。化学療法部会で承認された治療レジメンを使用し、担当医師がオーダーし、薬剤師による薬剤監査をする。そのうえで治療当日に担当医自身が各科外来で患者の診察を実施し検査結果、一般状態を確認し調剤依頼をする。患者は当センターに移動して最終チェックを受けたうえで治療が開始される。初回治療時には薬剤師、看護師からの指導を受ける。

2016年度は、業務については曜日によっては希望通りに治療ができない場合がある以外は、大きな支障は起きなかった。化学療法部会では上記システムの円滑な運営のためにオーダー入力の日間厳守、また、安全な化学療法の実施のために、化学療法前のB型肝炎ウイルス検査の徹底についてPDCAサイクルを用いて改善した。現在は既感染者のHBV DNA測定を次のサイクルにあげて改善を目指している。

2017年には、念願の外来治療センターの拡充工事が予定されており、環境がさらに整備される。

(センター長 吉原 基)

(文責 前センター長 杉浦 勇)

## 2. 活動報告

### (1)治療実績 月別集計表

項目	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	
平均年齢(才)		62.8	62.3	63.3	62.9	64.0	63.4	64.3	63.2	63.2	63.9	63.5	63.5		63.4	
男(人)		324	341	368	360	407	388	373	389	332	379	344	403	4,408	367.3	
女(人)		336	334	381	360	406	370	370	373	334	365	387	465	4,481	373.4	
がんに関する治療	内科	262	256	276	266	313	291	297	309	270	292	284	364	3,480	290.0	
	外科	217	223	284	244	284	266	256	247	206	247	236	257	2,967	247.3	
	泌尿器科	4	7	7	5	5	6	10	10	10	6	9	11	90	7.5	
	耳鼻いんこう科	6	7	13	13	16	19	18	13	14	12	11	13	155	12.9	
	婦人科	47	39	41	45	43	37	37	39	35	41	48	64	516	43.0	
	小児科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	
	その他	16	18	13	13	14	10	11	11	13	15	14	17	165	13.8	
	小計	552	550	634	586	675	629	629	629	548	613	602	726	7,373	614.4	
	初回	41	55	51	43	76	53	58	46	40	63	51	64	641	53.4	
	内訳	乳腺	107	119	145	118	132	121	117	108	80	89	92	111	1,339	111.6
		大腸	77	76	108	98	114	108	96	98	86	108	101	119	1,189	99.1
		血液	125	121	131	134	154	140	138	151	127	139	144	196	1,700	141.7
		肺	75	70	76	68	90	81	92	86	81	89	81	100	989	82.4
		胆膵	60	55	63	57	67	63	60	68	64	66	59	59	741	61.8
		胃	38	32	33	31	38	43	51	43	38	44	41	35	467	38.9
		前立腺	4	8	8	5	5	6	8	7	7	4	7	6	75	6.3
		その他	58	70	70	74	75	67	67	68	65	74	77	100	865	72.1
がん以外の治療	内科	31	41	34	43	36	41	27	42	33	42	30	42	442	36.8	
	整形外科	1	0	3	16	36	13	14	18	10	17	15	5	148	12.3	
	リウマチ科	67	81	73	72	57	71	66	69	68	69	75	90	858	71.5	
	皮膚科	9	3	5	3	8	3	6	4	6	2	8	4	61	5.1	
	その他	0	0	0	0	1	1	1	0	1	1	1	1	7	0.6	
	小計	108	125	115	134	138	129	114	133	118	131	129	142	1,516	126.3	
合計(人)		660	675	749	720	813	758	743	762	666	744	731	868	8,889	740.8	
1日平均(人)		33.0	35.5	34.1	36.0	37.0	37.9	37.2	38.1	35.0	39.1	36.5	39.4	439	36.6	

# 手術センター

## 1. 概要

手術センターは、一人一人の患者さんに最良の手術が行われるよう各診療科・麻酔科医・病棟及び手術センターの看護師が連携を図っている。当センターは、地域や患者のニーズに応えるべく以下の特徴及び設備を整えている。

- ① 高度先進医療の施行
  - a 内視鏡下手術：関節鏡、耳鼻科内視鏡、腹腔鏡、胸腔鏡、膀胱鏡、神経内視鏡
  - b 移植手術：腎移植、副甲状腺移植
  - c 顕微鏡下手術：脳神経外科、耳鼻いんこう科、眼科
  - d ロボット支援下手術（ダヴィンチ）：外科、産婦人科、泌尿器科
  - e 脳死臓器提供手術
  - f ナビゲーション支援下手術：脳神経外科、耳鼻いんこう科
  - g O-arm 透視下に行う脊椎等の整形外科手術
  - h 不妊症に対する産婦人科手術
- ② 総合周産期母子医療センターの要望に応じ、30分以内に開始する超緊急手術に対応
- ③ 心臓病、肺疾患、肝疾患、腎疾患等重い合併症を有するハイリスク患者手術に対応
- ④ 研修機関病院として、研修医、医学生、看護学生、救命救急士などの見学や実習
- ⑤ 手術診療科 18（内科、一般外科、小児外科、呼吸器外科、心臓外科・血管外科、移植外科、整形外科、リウマチ科、形成外科、脳神経外科、小児科、産婦人科、産婦人科（生殖医療）、耳鼻いんこう科、眼科、皮膚科、泌尿器科、歯科口腔外科）
- ⑥ 手術室 13（バイオクリーン・ルーム 1 室、採卵室 1 室）
- ⑦ 空気清浄度
  - a クラス 100（1 室）：整形外科で使用
  - b クラス 1000（1 室）：呼吸器外科、心臓外科・血管外科で使用
  - c クラス 10000（11 室）
- ⑧ スタッフ 看護師 48 名（2 交代制で、夜勤者 2 名、自宅待機 2 名体制）

2016 年度の主な実績としては、ロボット支援下手術（ダヴィンチ）を計 82 例施行した。また、超緊急枠を設け、全科の超緊急手術に対応できるようにしたことである。

2019 年度には血管撮影及び CT 撮影のできるハイブリット手術室（1 室）、内視鏡手術室（2 室）の増設を予定している。

（センター長 雄山 博文）

## 2. 活動報告

### (1) 手術件数

診療科	件数(件)
一般外科	1,478
呼吸器外科	153
心臓血管外科	152
小児外科	125
移植外科	33
整形外科	1,317
リウマチ科	45
形成外科	7
脳神経外科	309
産婦人科	1,216
耳鼻いんこう科	410
皮膚科	106
泌尿器科	498
眼科	956
歯科口腔外科	400
生殖医療	486
内科	86
小児科	8
その他	2
計	7,787

麻酔別	件数(件)
全身麻酔	3,664
静脈麻酔	212
腰椎麻酔	1,349
局所麻酔	1,713
伝達麻酔	390
無麻酔	455
その他	4
計	7,787
(うち緊急手術)	1,135
割合	14.57%

### (2) 腹腔鏡・胸腔鏡・関節鏡手術件数

診療科及び術式	件数(件)
一般外科	409
うちロボット支援下直腸腫瘍手術	11
うちロボット支援下胃悪性腫瘍手術	6
呼吸器外科	118
小児外科	82
整形外科	95
リウマチ科	0
産婦人科	426
うち腹腔鏡下子宮頸がん根治手術	0
うちロボットを用いた広汎子宮全摘術	5
うちロボット支援下子宮悪性腫瘍手術	2
うち腹腔鏡下広汎子宮全摘術	9
うち腹腔鏡下子宮がん手術	5
泌尿器科	118
うちロボット支援下前立腺全摘術	56
うちロボットを用いた腎悪性腫瘍手術	2
その他(移植外科)	7
計	1,255

# 口唇口蓋裂センター

## 1. 概要

当センターは唇顎口蓋裂を含む口腔先天性疾患、顎発育異常などに対する治療を担当している。豊橋市内外から多くの患者の紹介を頂いており、院内の産婦人科、小児科からの紹介も多い。

本疾患は長期の治療期間を要するため、出生してから成人するまでそれぞれの成長発育段階における様々な病態に合わせた治療を行っている。当センターでは出生直後より小児科、耳鼻いんこう科をはじめ、臨床他科の協力を仰ぎながら治療を行っている。また院内はもとより、市中の医科歯科関連の医療施設と密接に連携を保ちながら円滑に治療が進むよう当センターが中核となってその対応を行っている。一次症例だけでなく他院で治療を受けた二次症例でも積極的に対応しており、外来初診症例数や入院症例数は、ともにほぼ例年通りの安定した患者数を維持している。

(センター長 嘉悦 淳男)

(文責 歯科口腔外科副部長 寺沢 史誉)

## 2. 活動報告

### ①外来初診症例数

疾患名	件数(件)
唇(顎)裂	2
口蓋裂	4
唇顎口蓋裂	6
その他の唇顎口蓋裂	3
計	15

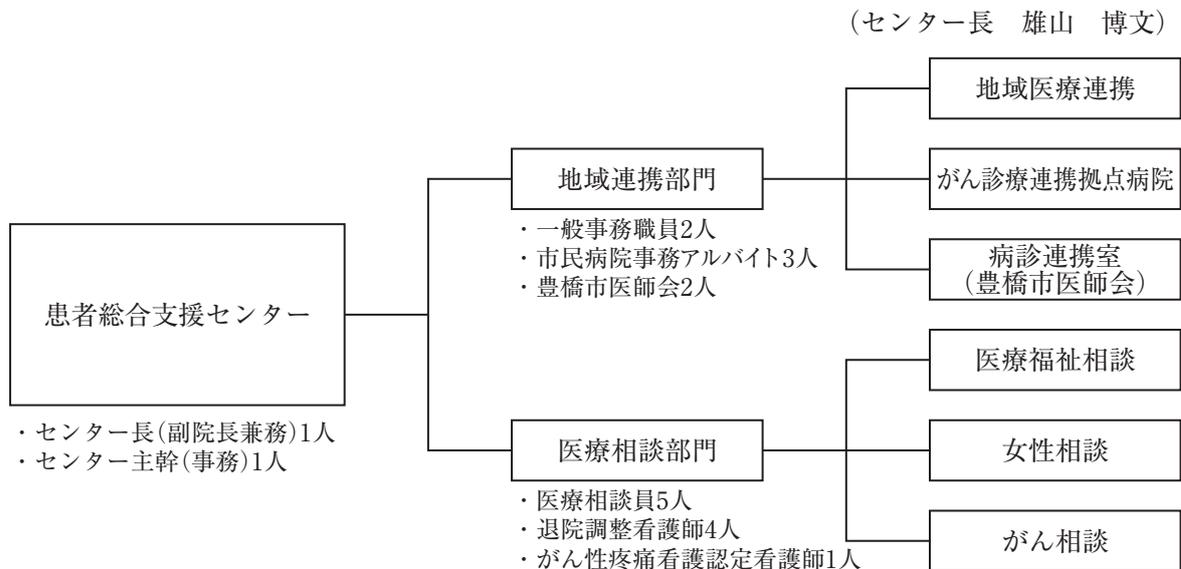
### ②入院症例数

疾患名	件数(件)
唇(顎)裂	3
口蓋裂	2
唇顎口蓋裂	8
その他の唇顎口蓋裂	1
計	14

# 患者総合支援センター

## 1. 概要

2010年4月1日、副院長をセンター長として開設した当センターは、地域の医療機関や介護事業者との相互連携を図り、患者に対して効率的で質のよい医療を提供する「地域連携部門」と、医療を通じて発生する種々の問題に対して、患者に安心して治療に当たってもらえることができるよう支援を行う「医療相談部門」で構成されている。



## 2. 活動報告

### (1) 地域連携部門

#### ① 地域医療支援委員会

委員 28人 (院外 17人、院内 11人)

第1回 平成28年5月12日開催

第2回 平成28年8月18日開催

第3回 平成28年11月17日開催

第4回 平成29年2月9日開催

#### ② 地域連携登録医登録者数

428人 (平成29年3月末現在)

#### ③ 豊橋市医師会・豊橋市民病院病診連携協議会

委員 11人 (豊橋市医師会 2人、豊橋市民病院 9人)

事務局 4人 (豊橋市医師会 1人、豊橋市民病院 3人)

#### (ア) 病診連携協議会

第81回病診連携協議会 平成28年5月10日開催

第82回病診連携協議会 平成28年10月11日開催

#### (イ) MCRフォーラム

第39回MCRフォーラム 平成28年5月25日開催

「神経変性疾患に対する治療法開発」 参加人数 45人

第40回MCRフォーラム 平成28年10月26日開催

「視床下部による水・エネルギーバランスの調節」 参加人数 64人

(ウ) 病院・転床施設連携懇談会

第21回病院・転床施設連携懇談会 平成29年3月10日開催 参加：24施設 44人

平成28年度の転床入院実績報告

④ 紹介・逆紹介実績

(ア) 紹介・逆紹介率

紹介率	逆紹介率
75.3%	87.0%

(イ) 病診連携室取扱実績

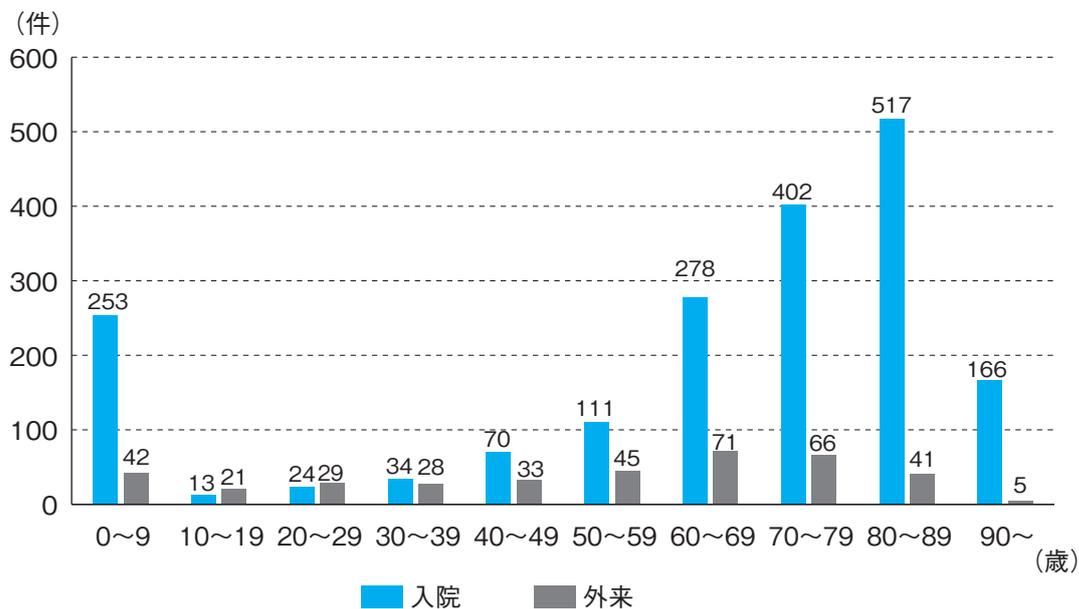
内 訳			件数(件)
病診連携室経由の受診予約数	医 科	市 内	10,344
		市 外	2,774
	歯 科	市 内	1,140
		市 外	176
	保 健 所 保 健 セ ン タ ー		308
	そ の 他		31
	キ ャ ン セ ル		△ 532
	計		14,241
時 間 外 ( 再 掲 )		976	
病診連携室経由の転院先状況	申 込 数		1,563
	内 訳	有 床 診 療 所	8
		病 院	1,241
		キ ャ ン セ ル	293
		転 院 予 約 中	21

(2) 医療相談部門

① 医療福祉相談件数（平成28年4月～平成29年3月）

(ア) 新規相談患者数 入院 1,868件 外来 381件 計 2,249件

年齢別新規相談件数



(イ) 延べ相談件数 入院 12,016件 外来 5,500件 計 17,516件

② 女性相談件数 面接 18件 電話 10件 計 28件

③ がん相談件数 面接 231件 電話 67件 計 298件

# 入院支援センター

## 1. 概要

入院支援センターは、2015年5月に開設された。2015年度は、一般外科・歯科口腔外科・眼科・耳鼻いんこう科の入院前説明を開始し2016年5月から呼吸器外科を開始し産婦人科・泌尿器科・整形外科へ現在説明をしている。

当センターの業務の目的は下記のとおりである。

- ①入院や手術に対して抱えている不安を少しでも軽減でき、安心して入院・手術が受けられるように援助する。
- ②リスクのある患者をスクリーニングして安全に手術が受けられるようにする。
- ③外来・病棟の入院に関する業務の軽減を行う。

クリニカルパスで予定入院する患者さんに対し、事務職員から入院前説明を行い、看護師は患者データベースの聴取や持参薬の中止説明・クリニカルパスの説明・転倒転落チェック・退院時支援スクリーニングの実施を行っている。必要時医療相談（MSW：医療ソーシャルワーカー）の介入依頼を行い安心して入院が出来るように支援している。

入院前説明時に持参薬の鑑別が出来ていない場合は、後日薬剤鑑定を行い安全に予定とおり手術が受けられるよう支援している。薬剤師はオンコール体制をとっている。

今後は、全科を目指し入院前説明の対象科を拡大していく予定でいる。

(センター長 浦野 文博)

(文責 師長 小林 雅子)

## 2. 活動報告

### (1) 業務内容

- ① 入院前オリエンテーション
- ② 入院日・手術日の説明
- ③ 手術同意書一式の署名の説明
- ④ 患者データベースの聴取
- ⑤ 栄養アセスメントの計測
- ⑥ 弾性ストッキングのふくらはぎ測定
- ⑦ リスク患者のチェック（転倒転落チェックリスト・退院支援スクリーニング）
- ⑧ クリニカルパスの説明
- ⑨ 持参薬の確認
- ⑩ 医療相談（MSW）の介入（必要時）

(2) 入院前説明患者数

①一般外科（平成 27 年 5 月 11 日開始）

術式	人数(人)
ヘルニア手術	149
胃手術	92
肝臓手術	28
結腸直腸手術	108
腹腔鏡下胆嚢手術	147
ダヴィンチ（腸）手術	4
乳房手術	105
乳房手術（部分切除）	10
甲状腺手術	33
虫垂切除	20
痔核・痔瘻手術	26
低侵襲手術	49
その他	96
計	867

②歯科口腔外科（平成 27 年 8 月 1 日開始）

術式	人数(人)
全身麻酔・局所麻酔すべて	320

③眼科（平成 27 年 9 月 1 日開始）

術式	人数(人)
白内障	414
硝子体	125
計	539

④耳鼻いんこう科（平成 28 年 9 月 1 日開始）

術式	人数(人)
扁桃切除術	31
ラリngo	13
フェンスコンホ	10
ESS	57
鼓膜・鼓室形成術（ティンパノ）	3
頸部小手術	39
頸部郭清術	13
甲状腺葉峡摘出術	14
甲状腺全摘術	5
計	185

⑤呼吸器外科（平成 28 年 5 月 17 日開始）

術式	人数(人)
肺癌	71
気胸・縦隔腫瘍・部分切除	18
計	89

⑥産婦人科（平成 28 年 7 月 1 日開始）

コース	人数(人)
婦人科 A コース	22
婦人科 B コース	97
婦人科 D コース	203
婦人科 E コース	43
計	365

⑦泌尿器科（平成 28 年 10 月 1 日開始）

検査・術式	人数(人)
前立腺生検	76
TUL	21
前立腺全摘除術	5
ロボット支援前立腺全摘術	18
TUR-BT	47
計	167

⑧整形外科（平成 29 年 3 月 1 日開始）

⑨医療相談（MSW）介入数 . . . . . 5 人

⑩後日薬剤鑑定患者数 . . . . . 165 人

## 診療技術局

### 1. 概要

診療技術局には、放射線技術室、中央臨床検査室、リハビリテーション技術室、臨床工学室、栄養管理室の5部門（7職種）があり、各部門では専門の知識や技術で医療に参画している。現在の医療では、「チーム医療」が必要不可欠となっており、患者さんを中心に医師、看護師、そして私たちを含む各職種の病院職員が一丸となって病態の改善に努めている。私たち診療技術局では、5部門が協力し合って勉強会を開催しており、それぞれの知識を互いに生かし、より良い医療が提供できるように切磋琢磨の精神を大切にしている。また、院内での業務の他にも東三河地域における役割として様々な勉強会や研修会を積極的に開催し、地域医療にも貢献している。また、未来のコ・メディカル育成を目指し高校生への職場見学会を開催している。

治療方法や医療技術は常に進歩し続けている。私達は、常に新しい知識や技術を習得し、地域基幹病院としての使命を果たすべく努力していくことが重要ととらえ、そのためには、各種の認定制度に積極的に取り組む必要があると考える。既に多数の認定を習得しているが更なる習得を目指している。

なおも、病院を取り巻く環境や医療制度は日々変化している。常にあるべき姿を模索、検証し、前進するため一層の努力をしていく所存である。

（局長 田中 規雄）

## 放射線技術室

### 1. 概要

積年の課題であった放射線治療装置の更新が、高度放射線棟の建築（9月竣工）をもって実現した。高度放射線棟には治療用に2台の最新鋭のリニアックと腔内照射装置が配置され、核医学装置も従来のガンマカメラの他にPET/CT、SPECT/CTが導入された。また、核医学施設を充実することによって、全身の骨転移に対する核医学治療も充実した。

PET/CTは10月より稼働しており、県内公立病院では初の導入となる。放射線治療も装置の基礎データの測定を年内に終り、3月には旧装置からの患者移行が完全に終了した。放射線治療を継続しながらの装置更新という難しい課題に一区切りがついた年であった。

一方、跡地では次の工事が始まっている。時代の求める医療変化に対応するため、豊橋市民病院が姿を変えているのだ。その様子を見るにつけ、我々もその渦中にあり、その変化に対応する必要性を感じさせられる日々であり、一層身の引き締まる思いである。

(室長 三浦 俊一)

#### 「在籍技師が取得している認定資格等」

資格	認定団体	資格	認定団体
放射線治療専門放射線技師	日本放射線治療専門放射線技師認定機構	放射線管理士	日本放射線技師会
放射線治療品質管理士	放射線治療品質管理機構	放射線機器管理士	日本放射線技師会
医学物理士	医学物理士認定機構	医療画像情報精度管理士	日本診療放射線技師会
医療情報技師	日本医療情報学会	第1種放射線取扱主任者	原子力安全技術センター・文部科学省
核医学専門技師	日本核医学専門技師認定機構	γ線透過写真撮影作業主任者	安全衛生技術試験協会・厚生労働省
核医学専門技術者	日本核医学技術学会	X線作業主任者	安全衛生技術試験協会・厚生労働省
超音波検査士（消化器）	日本超音波医学会	日本磁気共鳴専門技師	日本磁気共鳴専門技師者認定機構
超音波検査士（健診）	日本超音波医学会	血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師	血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師者認定機構
超音波検査士（体表臓器）	日本超音波医学会	臨床実習指導員	日本診療放射線技師会
乳腺甲状腺超音波診断委員会認定技師	日本乳腺甲状腺超音波診断会議	X線CT認定技師	日本X線CT専門技師認定機構
検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師	マンモグラフィ検診精度管理中央委員会	医療安全管理者	日本病院会
診療情報管理士	四病院団体協議会	検診マンモグラフィ撮影認定技師	日本乳がん検診制度管理中央機構

## 2. 活動報告

### (1) 放射線技術室実績

(件)

区分		平成28年度	平成27年度	平成26年度
一般撮影	頭部	10,240	9,908	9,769
	胸部	63,872	66,782	62,769
	腹部	14,921	13,506	14,085
	四肢	45,071	47,069	50,254
	その他（椎体）	20,660	22,389	22,547
	計	154,764	159,654	159,424
	内、ポータブル	38,713	38,814	29,563

(件)

血管撮影	頭頸部	136	129	181
	心臓・胸部	804	780	939
	腹部	294	273	266
	その他	85	79	126
	計	1,319	1,261	1,512

(件)

C T	頭頸部	10,462	10,185	9,553
	全身	29,056	28,614	27,545
	計	39,518	38,799	37,098

(件)

MR I	頭頸部	7,607	7,531	7,127
	全身	6,143	6,456	6,589
	計	13,750	13,987	13,716

(件)

X線TV	胃透視	3,726	4,037	4,064
	注腸透視	250	244	281
	その他	2,621	2,555	2,704
	計	6,597	6,836	7,049

(件)

放射線治療	リニアック	10,795	9,163	8,340
	集光照射	20	26	9
	体腔内照射	118	57	106

(件)

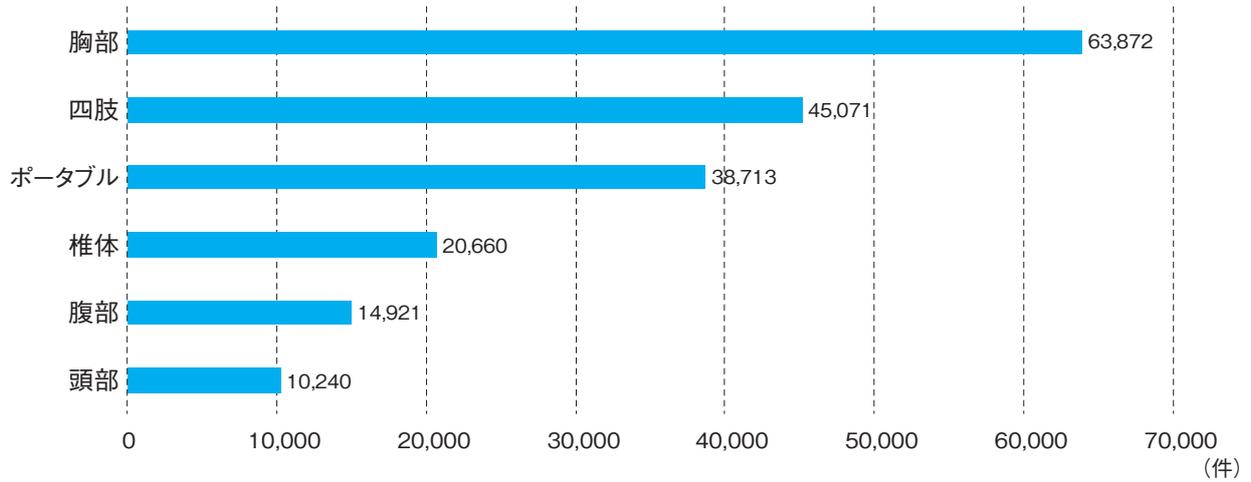
核医学（RI）	1,714	1,696	1,635
---------	-------	-------	-------

泌尿器検査（件）	888	939	996
骨塩量測定（件）	1,653	1,851	1,680
結石破碎（件）	37	67	100

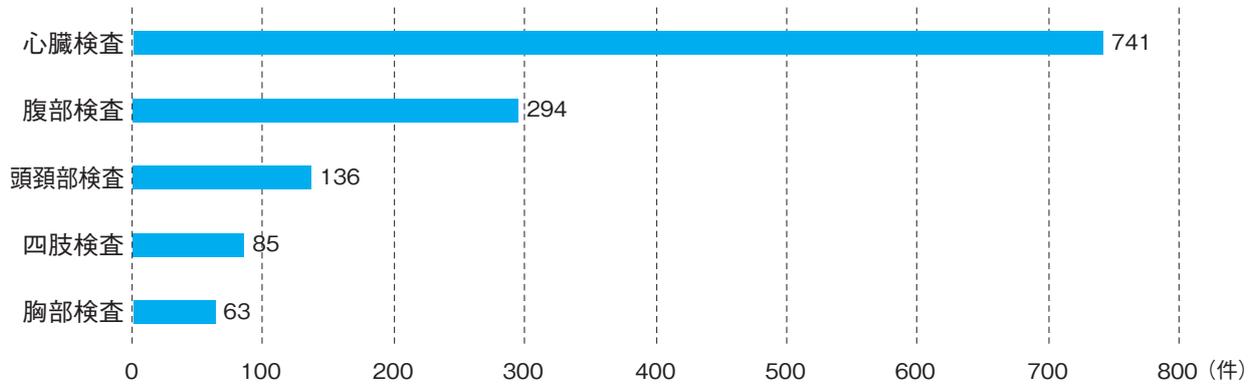
(件)

超音波診断検査 技術室担当	9,741	10,362	9,636
---------------	-------	--------	-------

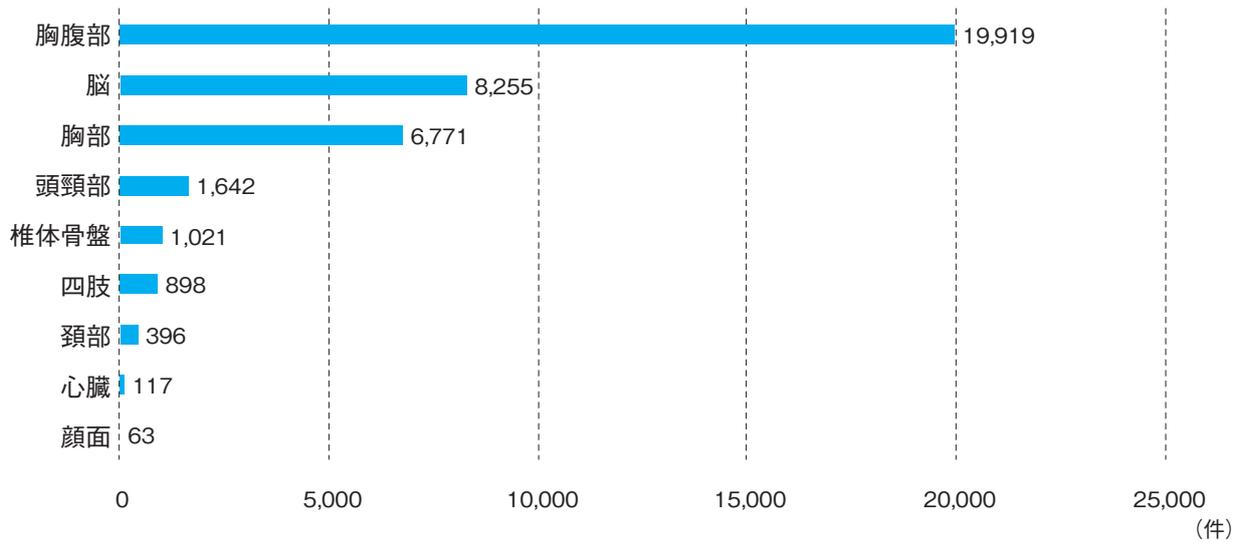
①一般撮影部門



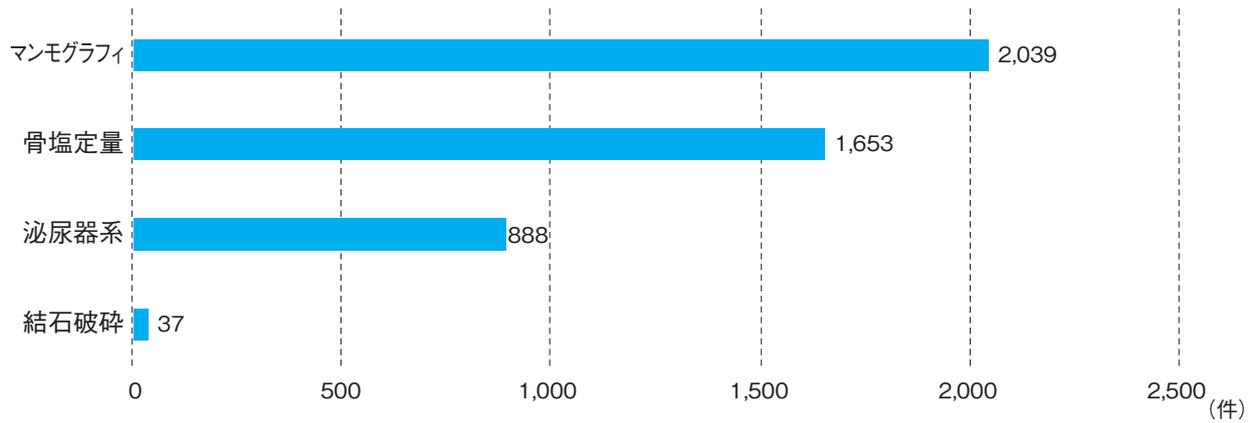
②血管撮影部門



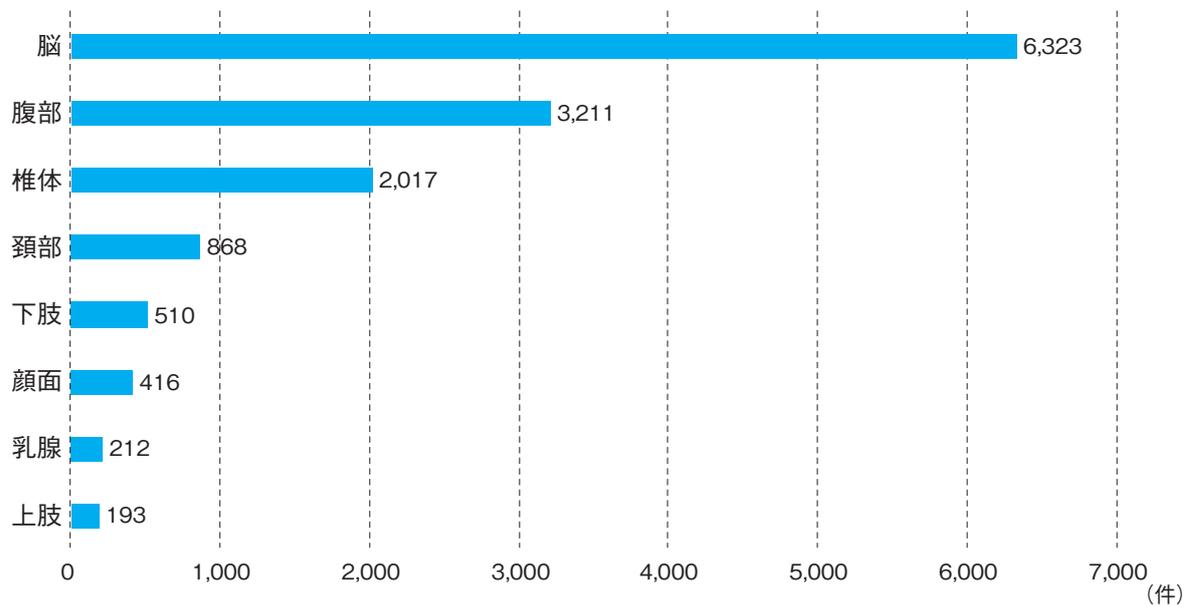
③CT部門



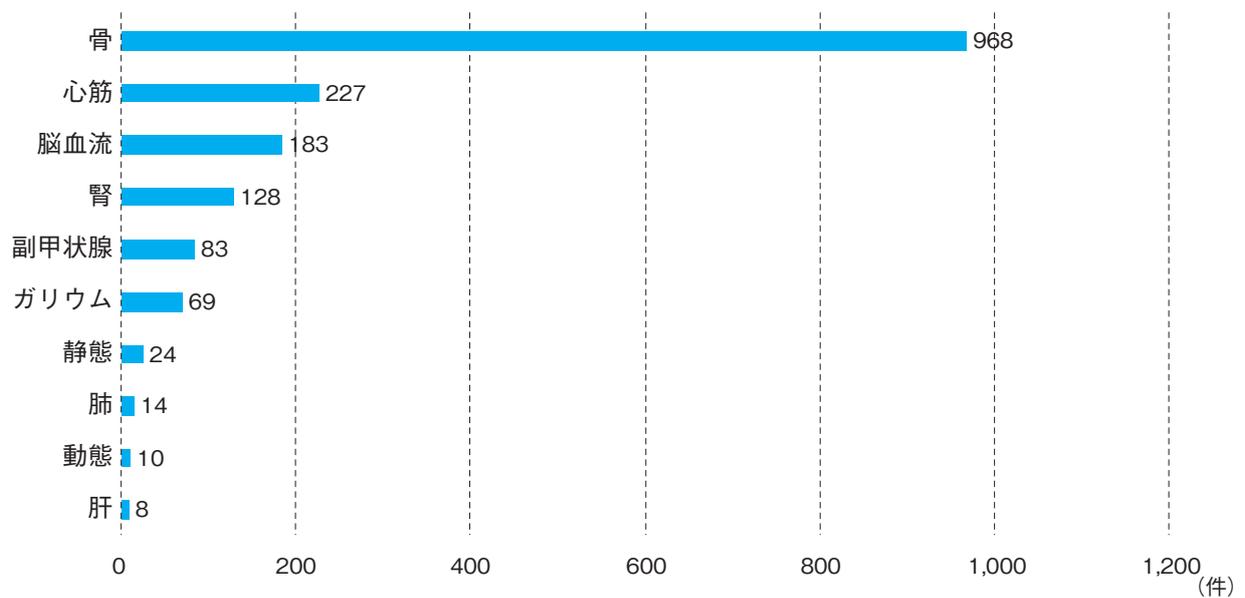
④その他



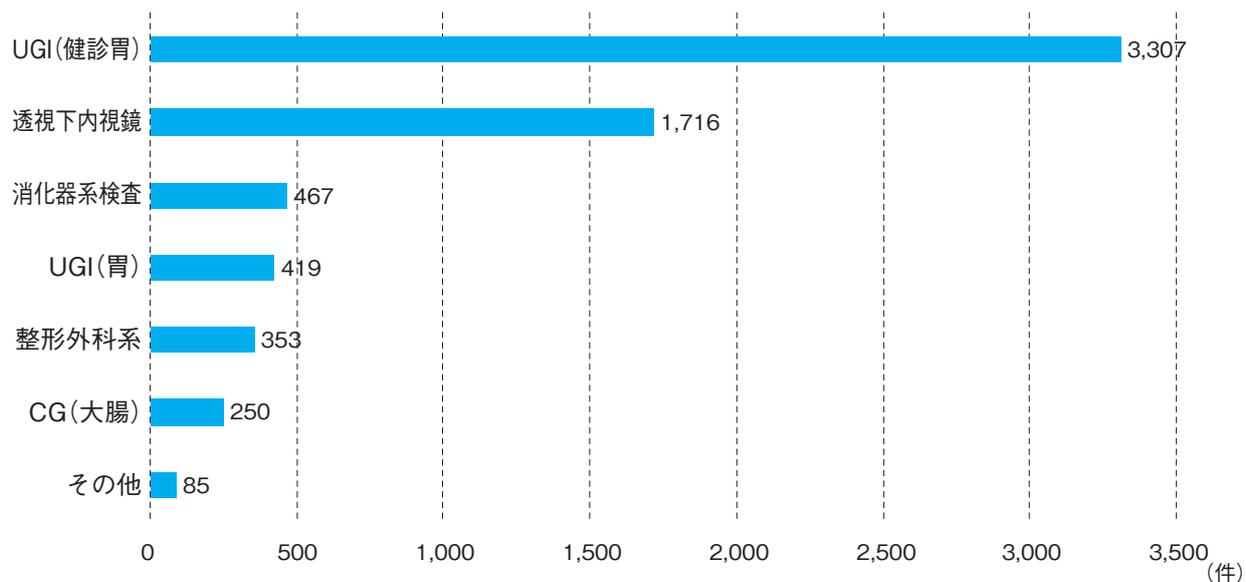
⑤MRI部門



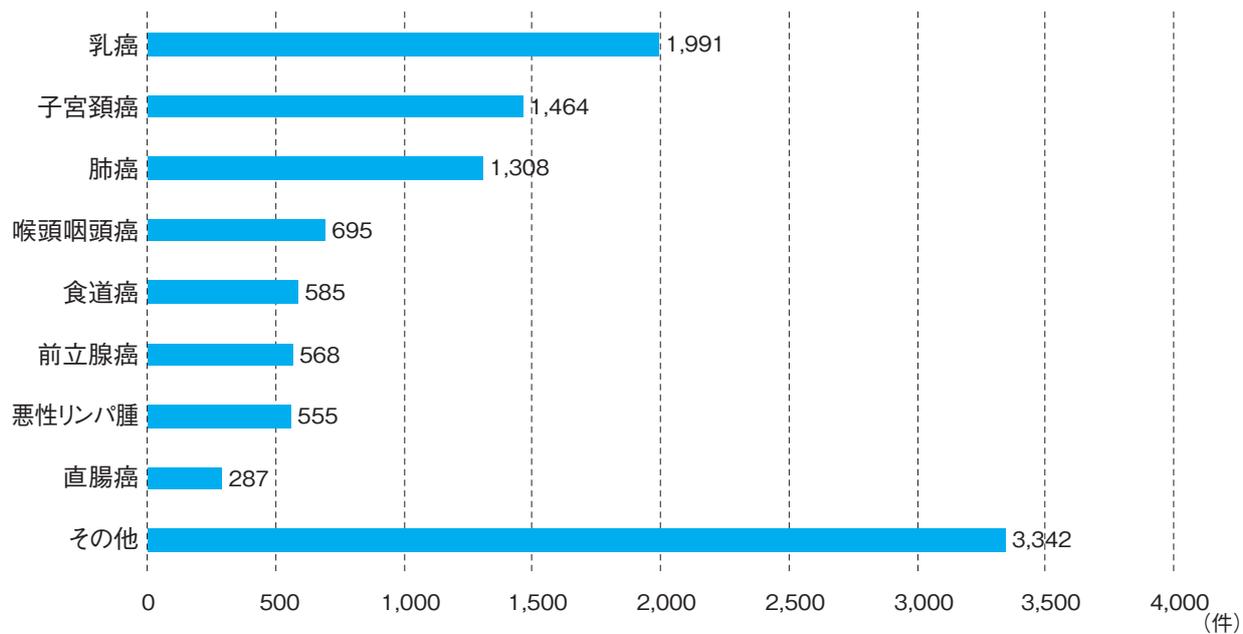
⑥アイソトープ部門



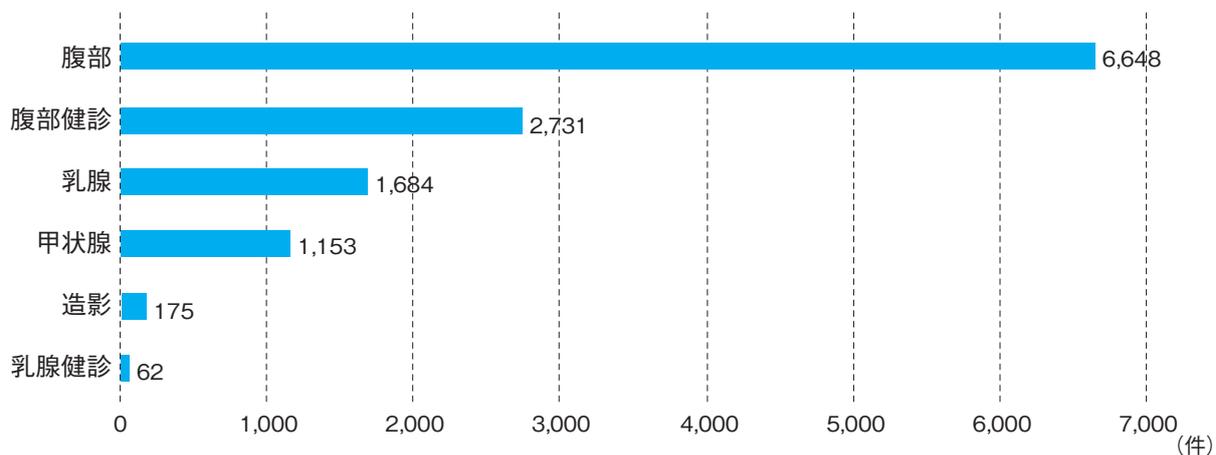
⑦X線TV部門



⑧リニアック外照射



⑨超音波検査



## (2) 豊橋市民病院放射線技術研修会

	演題名	演者名	年月日
第1回	放射線治療におけるQA・QC ～X線のエネルギー不変性試験～	島田 秀樹	平成28年5月27日
第2回	ガンマカメライメージングでのカウント測定	市川 肇	平成28年6月22日
第3回	放射線治療におけるQA・QC ～リニアックにおける軸外空中線量比の測定～	島田 秀樹	平成28年6月24日
第4回	動画を用いた胃透視基準撮影法の解説	澤根 康裕	平成28年6月30日
第5回	救急CTにおける読影補助（頭部領域について）	磯部 晃	平成28年7月8日
第6回	低被ばく施設認定に向けた一般撮影における患者臓器吸収線量の求め方	澤根 康裕	平成28年7月22日
第7回	放射線治療におけるQA・QC ～高エネルギー電子線におけるX線汚染度について～	島田 秀樹	平成28年7月22日
第8回	マンモエコーとマンモグラフィの対比	井上恵理子	平成28年7月29日
第9回	面積線量計の表示値と実測値の線量を比較してみよう	小寺 祐貴	平成28年8月3日
第10回	画像再構成のシミュレーション	畑井 博晶	平成28年8月12日
第11回	CTの線量測定について	磯部 晃	平成28年10月14日
第12回	腹部エコー検査 スクリーニングの流れ	安井 美和	平成28年11月30日
第13回	動画を用いた胃透視基準撮影法の解説	澤根 康裕	平成28年12月1日
第14回	救急CTにおける読影補助（頭部領域について）	磯部 晃	平成28年12月16日
第15回	腹部エコー検査 スクリーニングの流れ	井上恵理子	平成29年1月12日
第16回	低被ばく施設認定に向けた一般撮影における患者臓器吸収線量の求め方	伊藤 翔太	平成29年1月20日
第17回	腹部エコー検査 スクリーニングの流れ	安井 美和	平成29年1月26日
第18回	マンモエコーとマンモグラフィの対比	安井 美和	平成29年2月3日
第19回	腹部エコー検査 スクリーニングの流れ	畑井麻里子	平成29年2月2日
第20回	腹部エコー検査 スクリーニングの流れ	畑井麻里子	平成29年2月16日
第21回	面積線量計の表示値と実測値の線量を比較してみよう	澤根 康裕	平成29年2月17日
第22回	画像再構成のシミュレーション	畑井 博晶	平成29年3月3日
第23回	腹部エコー検査 スクリーニングの流れ	山田さやか	平成29年3月2日
第24回	腹部エコー検査 スクリーニングの流れ	佐野めぐみ	平成29年3月9日
第25回	ガンマカメライメージングでのカウント測定	市川 肇	平成29年3月17日
第26回	腹部エコー検査 スクリーニングの流れ	畑井麻里子	平成29年3月23日
第27回	腹部エコー検査 スクリーニングの流れ	佐野めぐみ	平成29年3月30日

## 中央臨床検査室

### 1. 概要

中央臨床検査室では、精確なデータを臨床に報告するために外部精度管理調査（日本医師会・日本臨床衛生検査技師会・愛知県臨床検査技師会）に参加し、良好な結果が得られた。

平成28年度ルーチン業務として尿沈渣の24時間対応を始めた。また、救命救急センター（外来）業務において、一部ではあるが鼻腔からの検体採取を実施している。さらに、はじめての試みとして、高校生対象の「医療技術職 職場見学会」を診療技術局の一部署として企画・運営し、参加者63名（内教職員3名）の好評を得た。月例勉強会では、入職3年以内と中堅技師には、各自で取り組んでいるテーマについて発表した。年度初頭に個人目標設定を行い、明確化した目標へ一定の成果を挙げた。

また、骨髄検査技師や認定サイトメトリー技術者などの新しい資格取得にも積極的に取り組み、現在多数の資格取得者が在籍（下表）しており、臨床に貢献していると考えられる。

（室長 山口 育男）

#### 「在籍技師が取得している認定資格」

資格	認定団体	資格	認定団体
認定血液検査技師	日本検査血液学会	超音波検査士 (体表臓器領域)	日本超音波医学会
骨髄検査技師	日本検査血液学会	認定心電検査技師	日本心電学会
認定臨床微生物検査技師	日本臨床微生物学会	緊急臨床検査士	日本臨床検査医学会
感染制御認定臨床微生物検査技師	日本臨床微生物学会	栄養サポートチーム専門療法士	日本静脈経腸栄養学会
細胞検査士	日本臨床細胞学会	遺伝子分析科学認定士	日本臨床検査医学会
認定病理検査技師	日本臨床衛生検査技師会	体外受精コーディネーター	日本不妊カウンセリング学会
超音波検査士 (循環器領域)	日本超音波医学会	認定臨床エンブリオロジスト	日本臨床エンブリオロジスト学会
超音波検査士 (健診領域)	日本超音波医学会	生殖補助医療胚培養士	日本哺乳動物卵子学会
超音波検査士 (消化器領域)	日本超音波医学会	糖尿病療養指導士	日本糖尿病療養指導士認定機構
超音波検査士 (血管領域)	日本超音波医学会	認定サイトメトリー技術者	日本サイトメトリー技術者認定協議会

## 2. 活動報告

### (1) 検査実施件数

(件)

区 分	平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度
院内検査実施件数	5,247,731	5,296,457	4,969,112
委託検査件数	118,759	119,123	111,255
検査判断料件数	405,306	414,525	393,050
輸血管理料 1	2,613	2,620	2,577
外来迅速検体検査加算件数	243,243	260,514	201,581
病理診断管理加算	14,954	15,141	14,557
検体検査管理料加算 I 件数	109,639	112,309	109,059
入院時初回加算件数	11,850	11,683	10,827
時間外緊急院内検査加算件数	12,365	12,022	12,356
採血加算件数	111,572	116,598	111,539

### (2) 検査判断料件数

(件)

区 分		平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度
尿・糞便等検査判断料	外来	17,765	18,220	16,660
	入院	3,602	3,811	3,484
血液学の検査判断料	外来	95,070	97,395	93,353
	入院	17,084	17,540	16,789
生化学の検査（Ⅰ）判断料	外来	94,479	96,179	91,983
	入院	17,088	17,448	16,807
生化学の検査（Ⅱ）判断料	外来	24,190	24,573	22,617
	入院	4,404	4,646	4,271
免疫学の検査判断料	外来	72,529	73,023	68,561
	入院	15,883	16,232	15,515
微生物学の検査判断料	外来	11,942	12,660	11,644
	入院	7,436	7,574	7,428
病理学の検査判断料	外来	1,916	2,415	2,530
	入院	20	23	41
呼吸機能検査等判断料	外来	3,535	3,641	3,286
	入院	594	618	714
脳波検査判断料	外来	1,088	987	1,081
	入院	1,324	1,379	1,278
神経・筋検査判断料	外来	404	473	409
	入院	237	189	147
組織診断料	外来	6,057	6,627	6,384
	入院	4,573	4,781	4,510
細胞診断料	外来	2,888	3,046	2,517
	入院	1,198	1,045	1,041

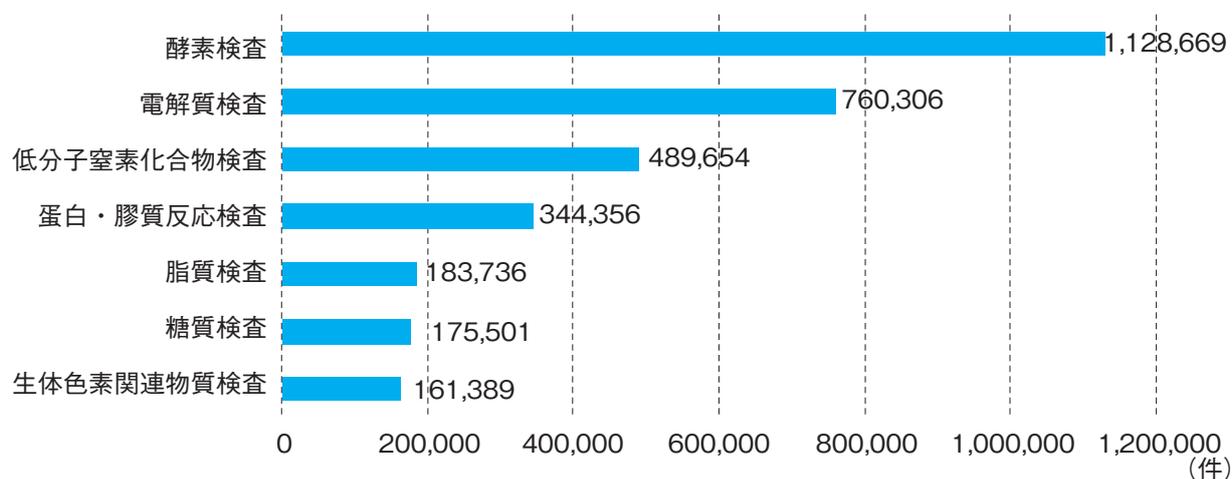
(3) 部門別実績

(件)

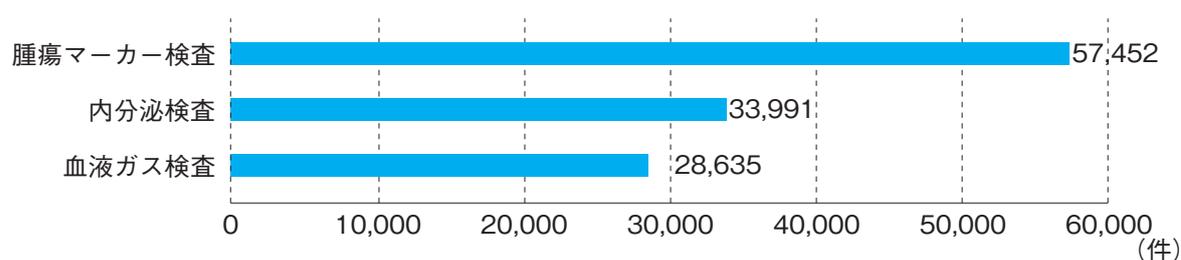
区 分	平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度
尿・糞便等検査	115,966	125,968	113,944
血液学的検査	728,383	665,711	624,352
生化学的検査	3,791,583	3,872,705	3,640,362
免疫学的検査	377,506	391,953	359,597
微生物学的検査	92,579	95,711	91,393
輸血関連検査	55,389	55,237	54,687
生理機能学的検査	61,866	63,522	60,545
病理学的検査	23,223	24,326	22,752
生殖医療学的検査	1,236	1,324	1,480

(4) 生物化学分析検査

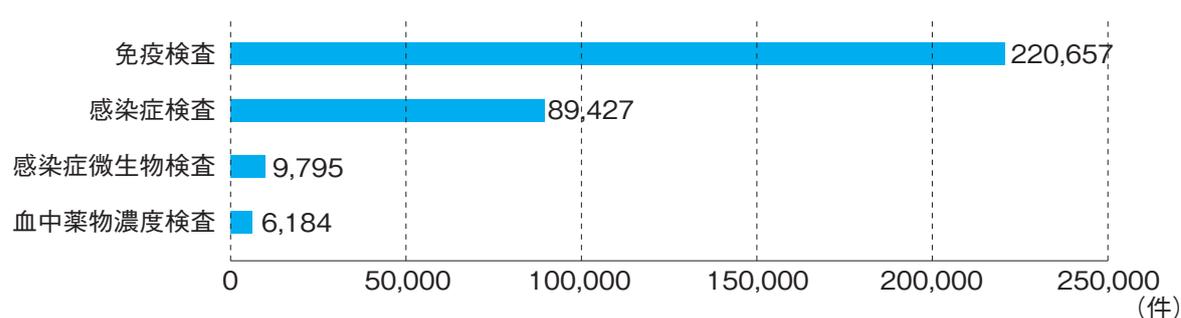
①生化学検査（Ⅰ）検査実績



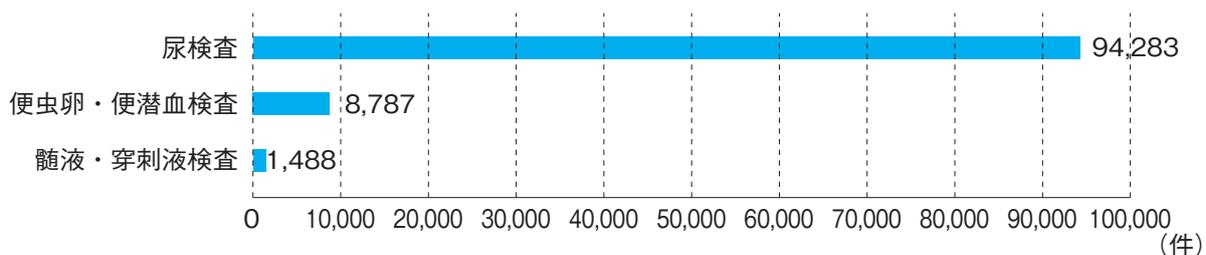
②生化学検査（Ⅱ）・血液ガス検査実績



③免疫学的・薬物検査実績



④一般検査 検査実績



⑤患者検査説明業務 実績

(件)

区 分	平成28年度	平成27年度	平成26年度
患者検査説明業務	1,087	1,002	1,018

患者説明業務とは、蓄尿、糖負荷検査（OGTT）、生理検査などの検査方法を患者に対して説明する業務である。

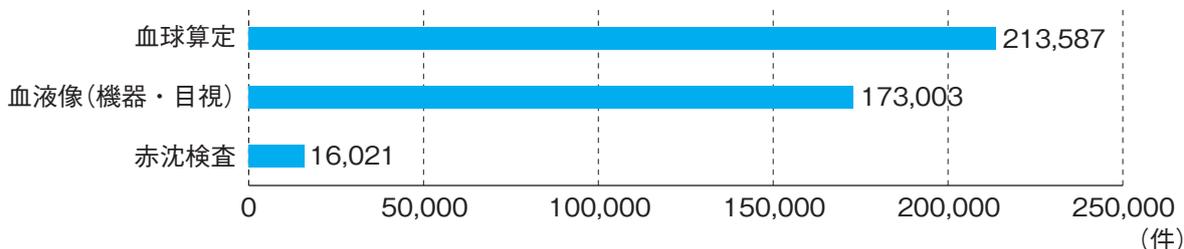
●説明検査項目

尿検査など：蓄尿・酸性蓄尿・糖負荷検査（OGTT）・クレアチニンクリアランス・早朝尿

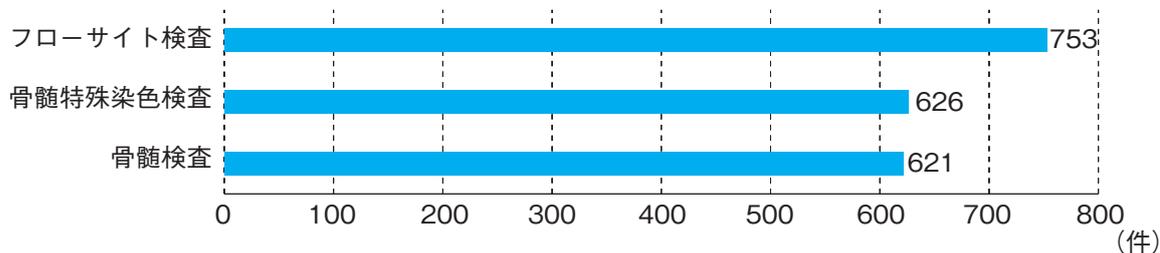
生理検査：超音波検査・ホルター心電図・トレッドミル・24時間血圧測定・負荷サーモグラフィー・吸入誘発試験・脳波・聴性脳幹反応・終夜睡眠ポリグラフィー

⑥血液学的検査 検査実績

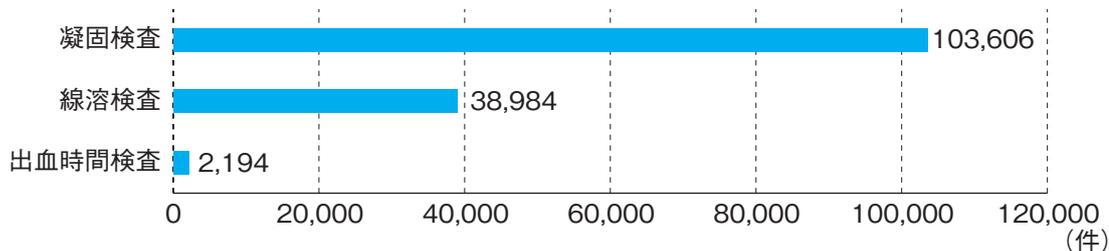
(ア)血液検査



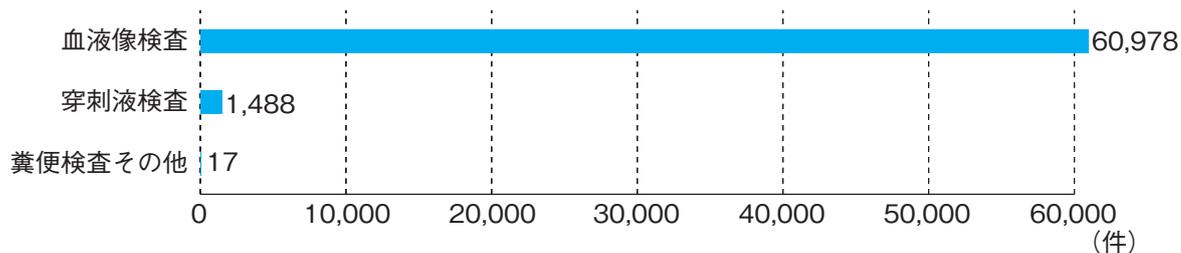
(イ)骨髄検査



(ウ)凝固・線溶検査



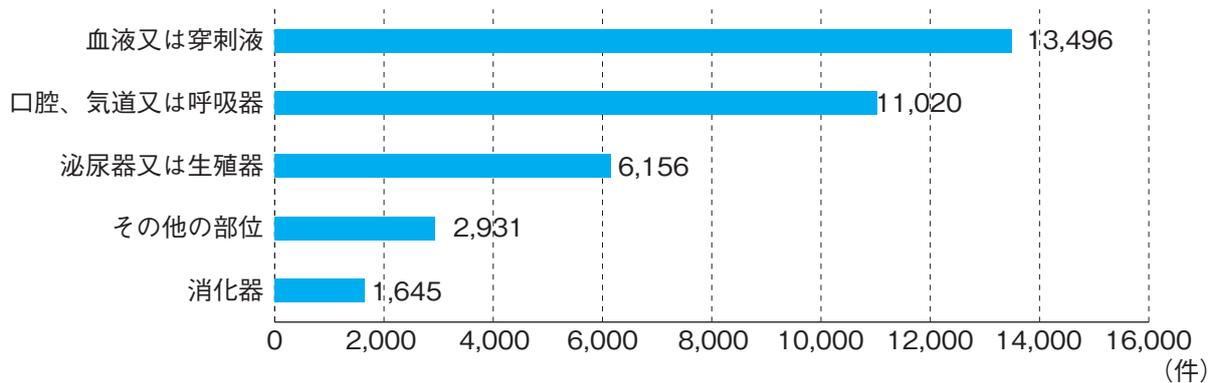
⑦顕微鏡検査 検査実績



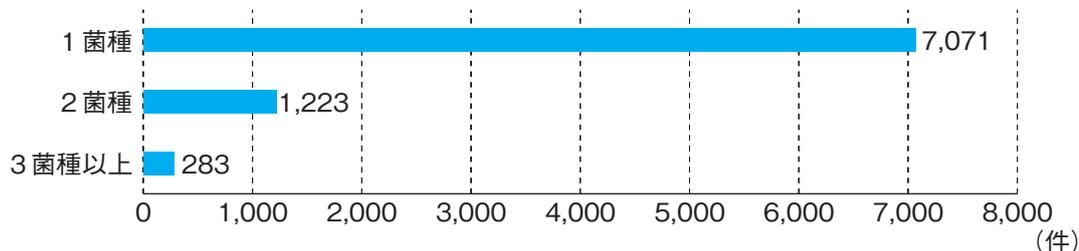
(5) 微生物・感染制御検査

①一般細菌

(ア)培養同定検査

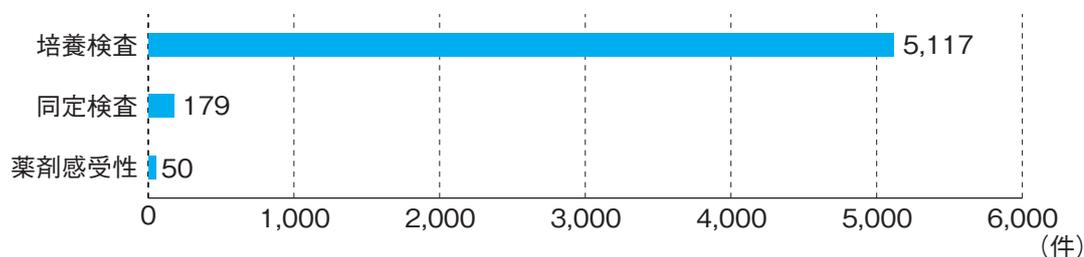


(イ)薬剤感受性検査

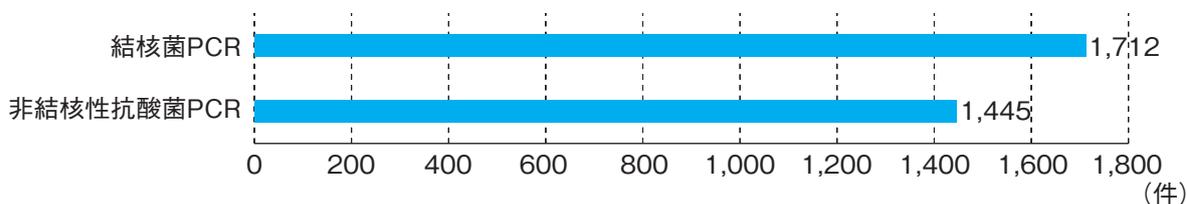


②抗酸菌

(ア)培養同定検査

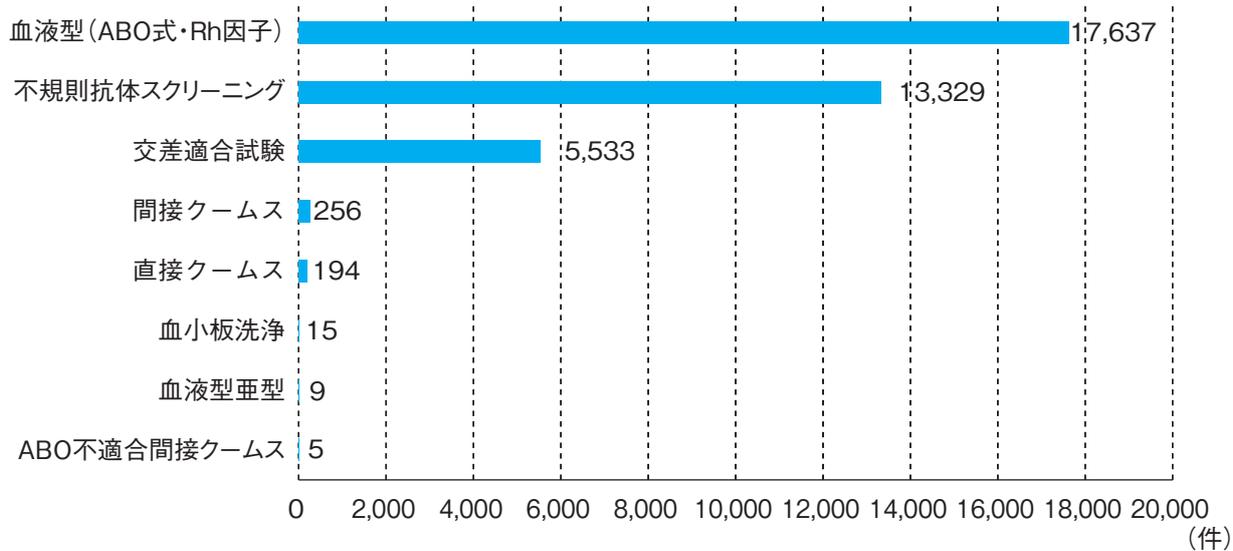


(イ)遺伝子検査(PCR)

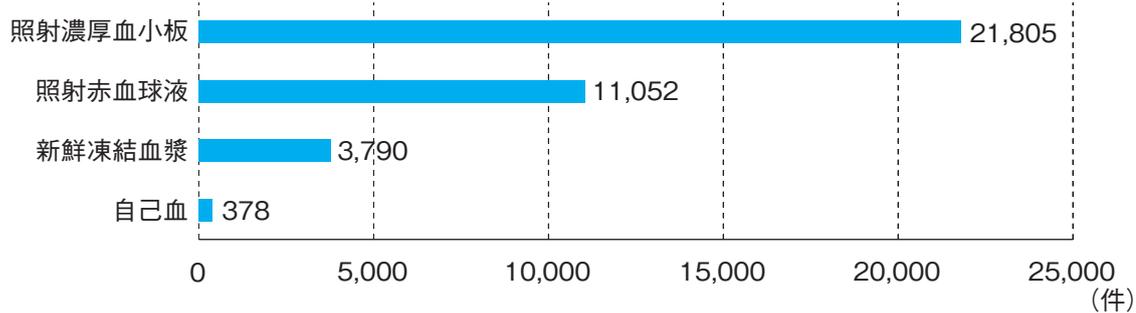


(6) 輸血移植・救命救急検査

①輸血関連検査



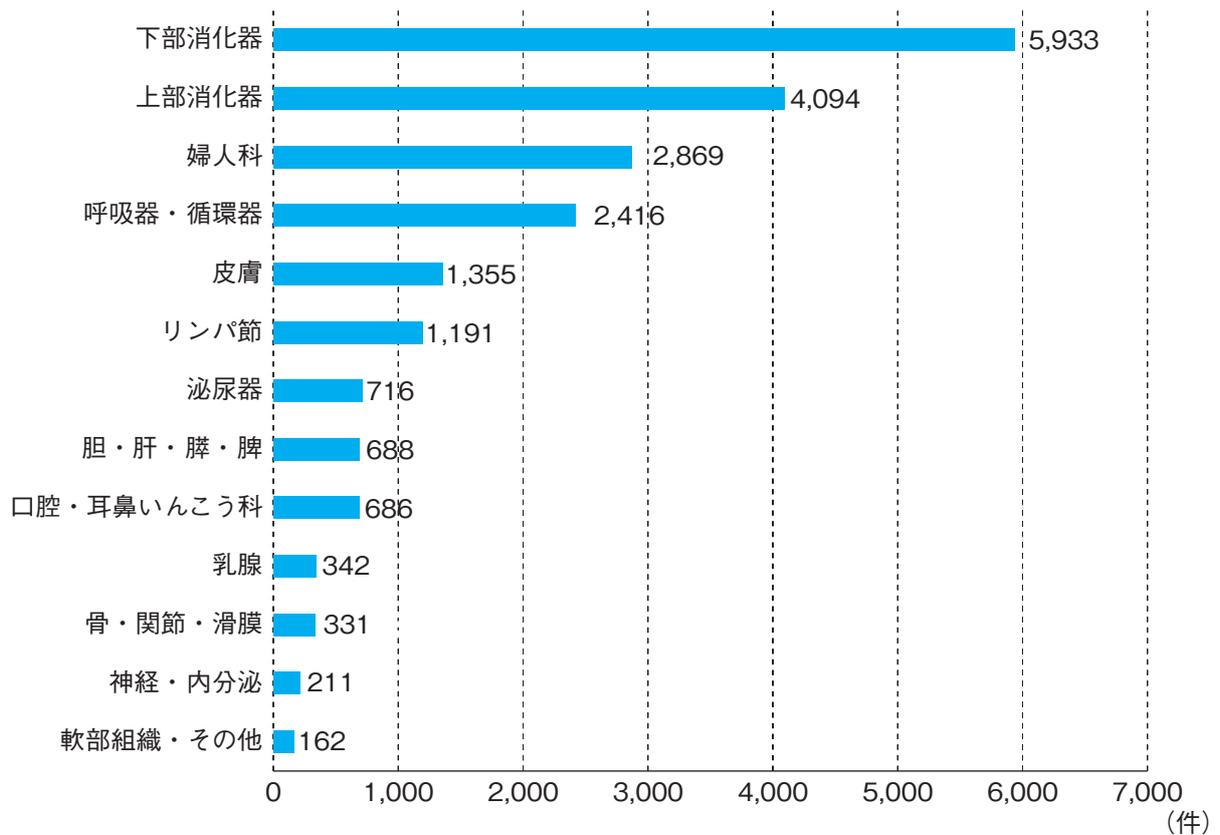
②血液製剤使用状況



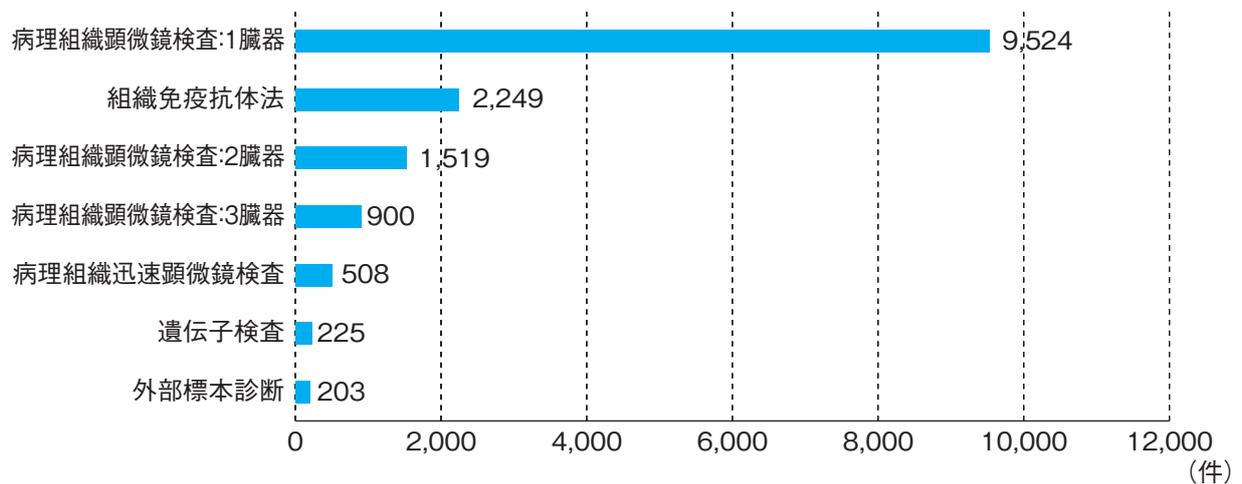
(7) 病理・細胞形態検査

① 病理学的・細胞診検査実績

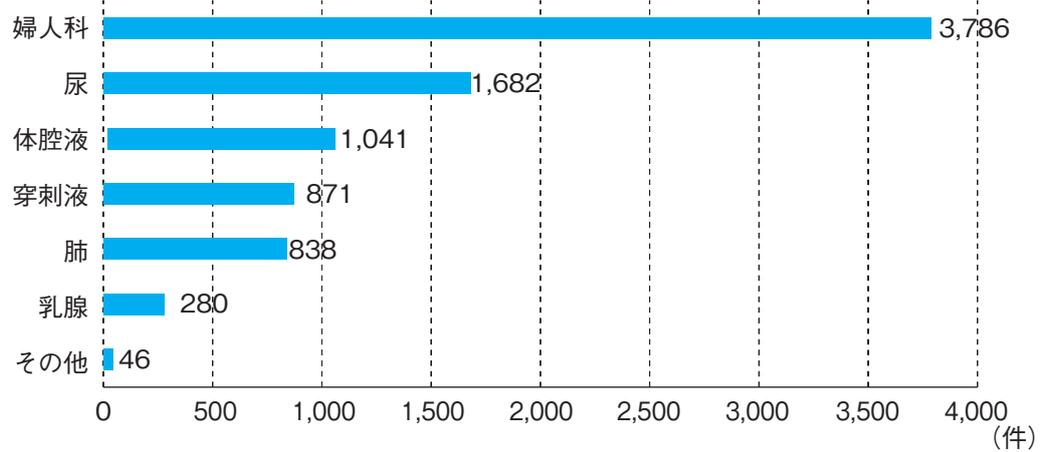
(ア) 病理組織検査材料別件数



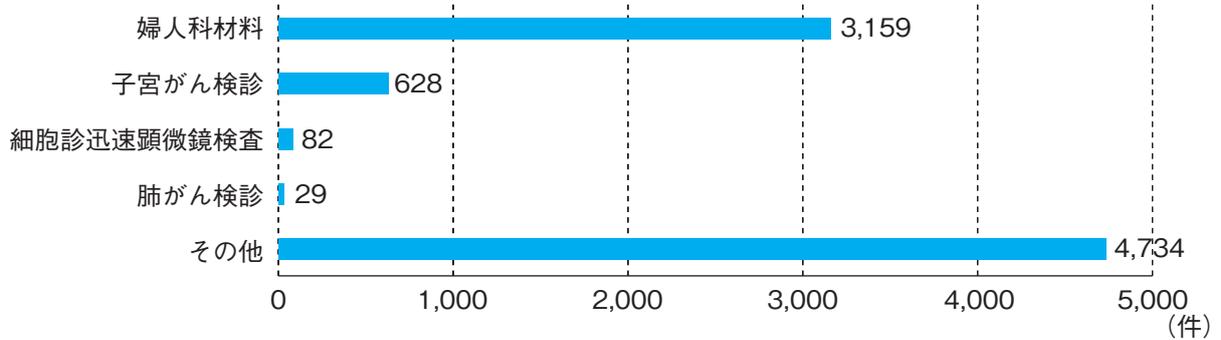
(イ) 病理組織検査件数



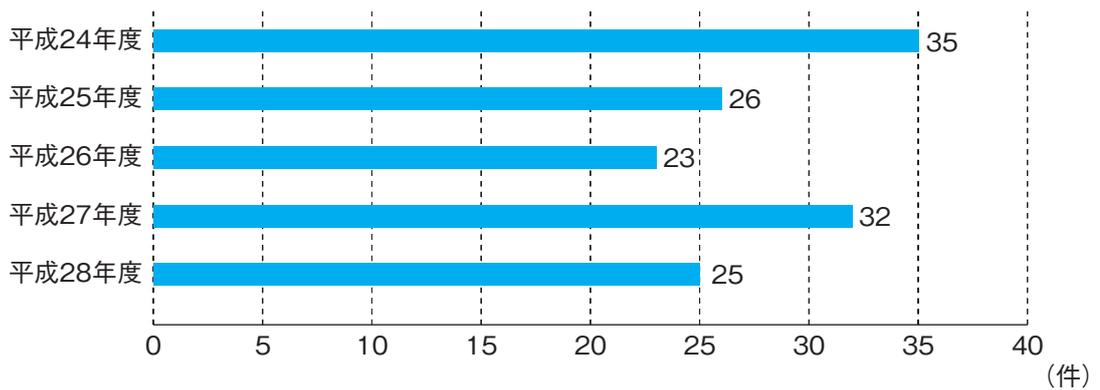
(ウ)細胞診検査材料別件数



(エ)細胞診検査件数



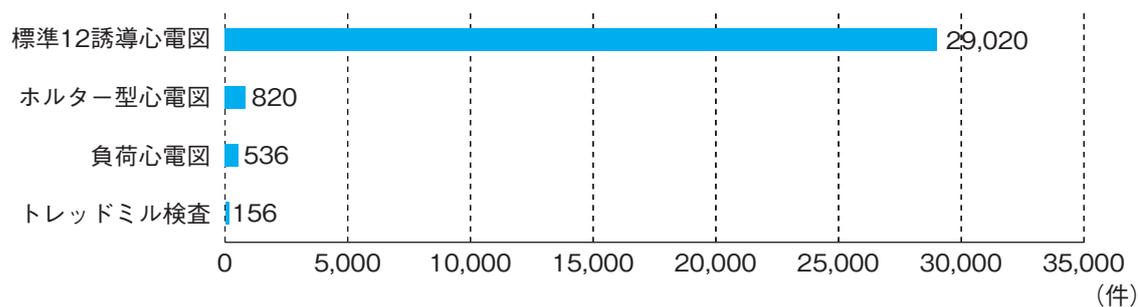
②病理解剖



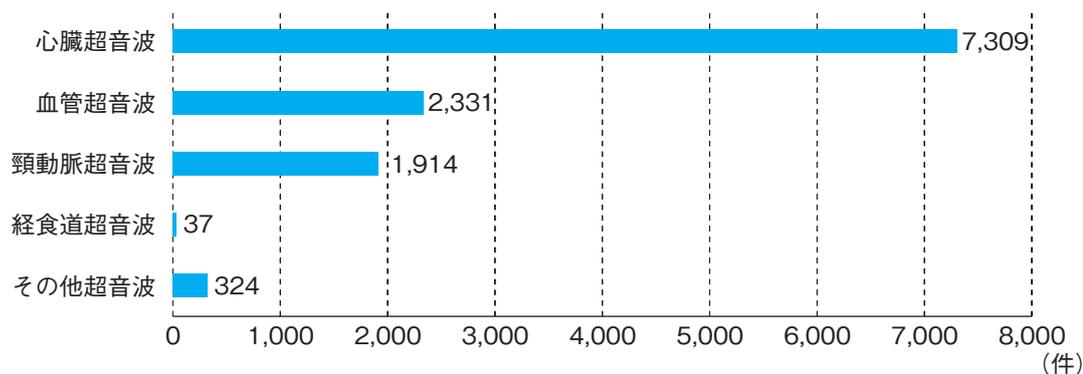
(8) 生理機能・生殖医療検査

①生理機能・画像検査

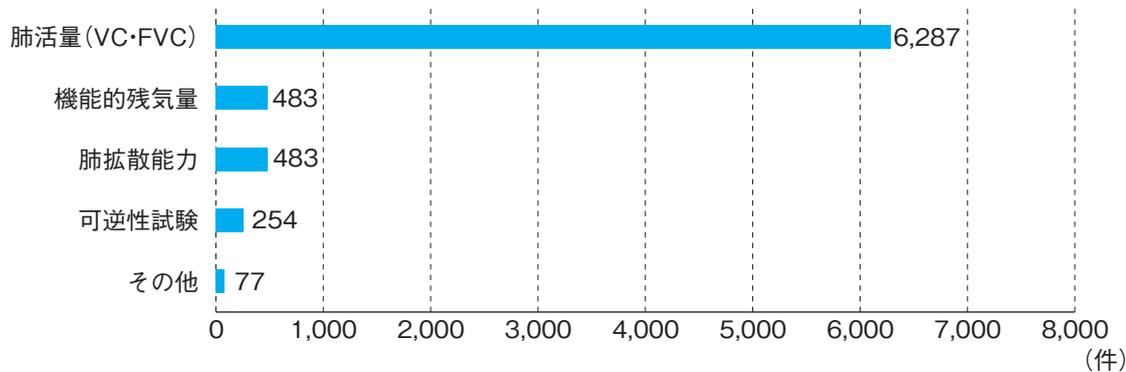
(ア)心電図 検査実績



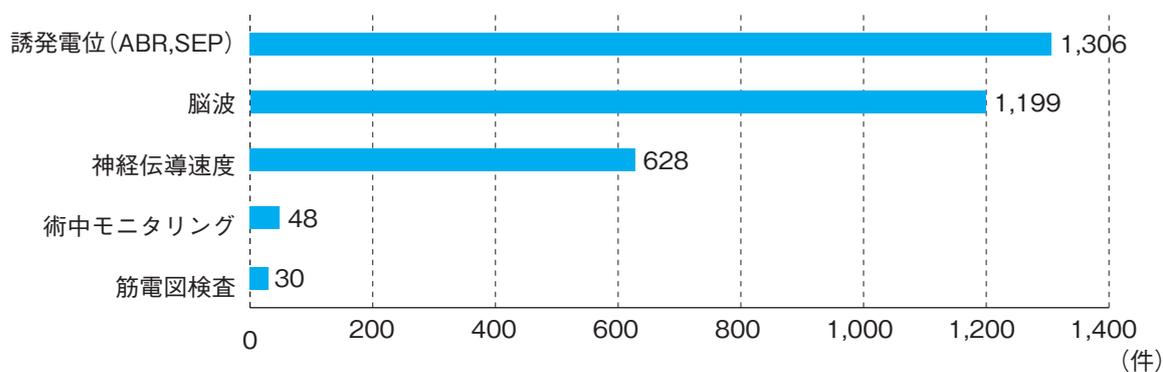
(イ)超音波 検査実績



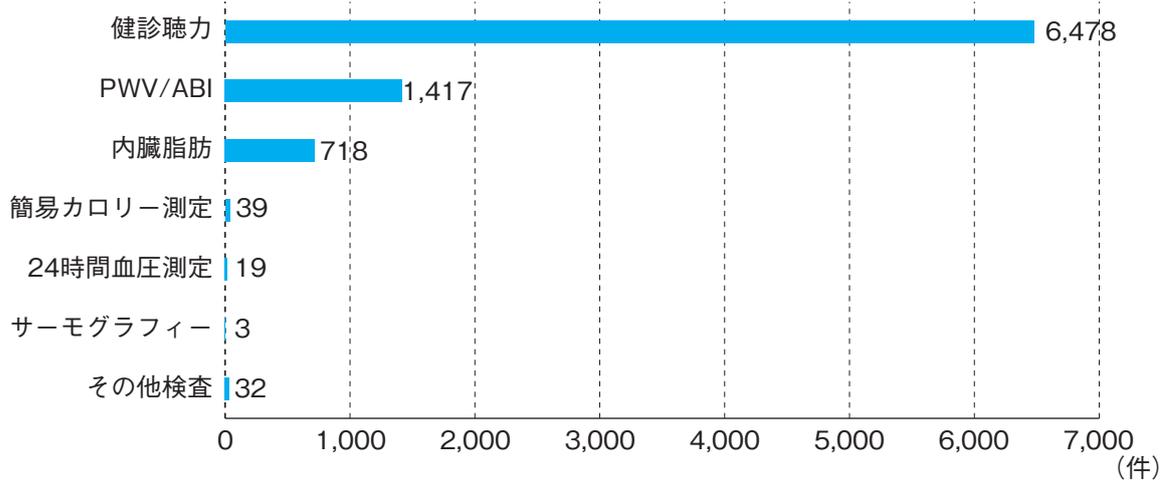
(ウ)肺機能 検査実績



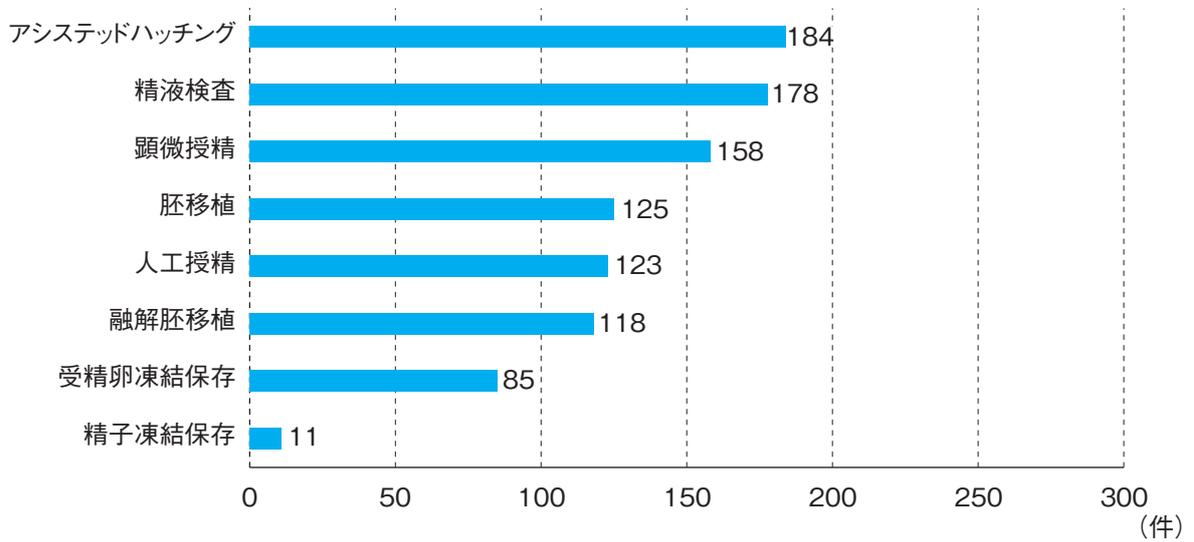
(エ)脳・神経 検査実績



(オ)その他 検査実績



②生殖医療関連 検査実績



# リハビリテーション技術室

## 1. 概要

リハビリテーション技術室は理学療法部門、作業療法部門、言語療法部門より構成される。さらに豊橋市長寿介護課に職員を派遣している。運動器・脳血管・呼吸・心大血管・がん患者を対象に総合的にリハビリテーションが実施できるよう施設基準を有している。

また、1987年より開始した地域病院間のリハビリテーション連絡会は、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が所属する施設で構成され、各機能別施設における各専門分野からの情報提供や症例検討を行っている。病診や病病連携一体のシステムは、26施設を数え、リハビリテーション分野からの市民サービスの充実を図っている。

(室長 森嶋 直人)

## 2. 活動報告

### (1) 外来入院別単位数

延べ患者件数は117,876件、その内訳として理学療法71,130件、作業療法28,961件、言語療法17,785件であった。

(件)

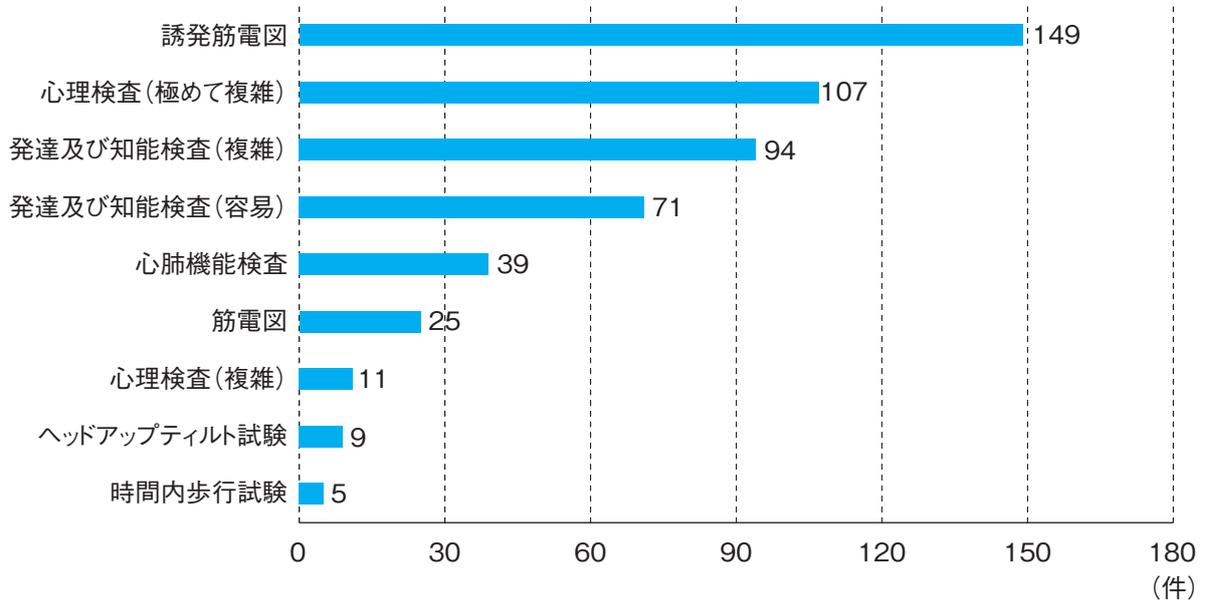
内 容	入外	平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度
理学療法	入院	67,518	65,697	58,245
	外来	3,612	3,869	4,748
作業療法	入院	26,228	21,979	18,678
	外来	2,733	2,986	2,363
言語療法	入院	14,770	13,018	11,558
	外来	3,015	2,936	2,627
小計	入院	108,516	100,694	88,481
	外来	9,360	9,791	9,738
合計		117,876	110,485	98,219

## (2) 疾患別件数

大分類疾患		代表的小分類疾患	
①脳疾患	1,371 件	ア) 脳梗塞	763 件
		イ) 脳出血	172 件
		ウ) くも膜下出血	64 件
		エ) 小脳出血・小脳梗塞	20 件
		オ) 頭部外傷	118 件
		カ) パーキンソン病	72 件
		キ) その他	162 件
		②脳性麻痺	6 件
③発達障害	157 件		
④脊髄疾患	75 件	ア) 脊髄損傷	31 件
		イ) 脊髄症	44 件
⑤神経疾患	301 件	ア) 顔面神経麻痺	81 件
		イ) 多発神経炎	29 件
		ウ) 変性疾患	34 件
		エ) その他	157 件
⑥先天性異常	2 件		
⑦骨疾患	598 件	ア) 上肢骨折	19 件
		イ) 下肢骨折	321 件
		ウ) 脊椎骨折	77 件
		エ) 脊椎症	82 件
		オ) 脊柱靱帯骨化	2 件
		カ) 無腐性壊死	7 件
		キ) 椎間板疾患	57 件
		ク) その他	33 件
⑧関節疾患	272 件	ア) 変形性関節症	136 件
		イ) 膝内障	56 件
		ウ) 肩関節疾患	24 件
		エ) 筋腱断裂	5 件
		オ) その他	51 件
⑨関節リウマチ	40 件		
⑩切断	17 件		
⑪手の外傷	26 件		
⑫筋疾患	13 件		
⑬循環器呼吸器疾患	926 件	ア) 循環器疾患	347 件
		イ) 呼吸器疾患	579 件
⑭腫瘍	313 件	ア) 脳腫瘍	59 件
		イ) 乳癌	46 件
		ウ) 肺癌	88 件
		エ) 脊髄腫瘍	14 件
		オ) その他の腫瘍	106 件

⑮その他	491 件	ア) 廃用症候群・運動器不安定症	413 件
		イ) その他	78 件

(3) リハビリテーションセンター内検査実施状況



## 臨床工学室

### 1. 概要

臨床工学室は病院理念と基本方針に基づき、市民の財産である院内の医療機器を安全且つ良好な状態で臨床提供を行い、公共性と経済性を考慮した効率的な運用を行っている。

生命維持装置を用いた手術、治療支援並びにそれに付帯する一切の医療安全業務に携ることが使命である。人員は室長の他 17 名+パート 2 名で、専用 PHS 端末を用いた 365 日 24 時間のオンコール体制を構築している。

医療機器管理においては医療機器安全管理責任者の下に医療機器の保守管理計画、研修計画及び実施記録管理、更新・増設・廃棄業務支援を行っている。地域医療連携においては主治医を中心に、在宅で医療機器を使用する患者・家族への指導や退院後のフォローも行う。多職種間の密な連携協力や、計画的な研修・カンファレンスを行いながら、患者様の安全を第一に考えた医療技術の提供と診療支援を行う。手術支援ロボット「da Vinci Si」については泌尿器科領域から外科、婦人科領域に適応が拡大され、年間立ち合い件数は 80 件を超し、先進医療に貢献している。

(室長 田中 規雄)

(文責 補佐 後藤 成利)

#### 「在籍技士が取得している認定資格等」

資格	認定団体	資格	認定団体
臨床 ME 専門認定士	日本生体医工学会	透析技術認定士	日本透析医学会・ 他 4 学会透析療法合同 専門委員会認定資格
体外循環認定士	日本人工臓器学会・ 日本体外循環医学会・ 日本心臓血管外科学会 他	呼吸療法認定士	日本呼吸器学会・ 日本麻酔科学会・ 日本胸部外科学会
第 2 種 ME 技術者	日本生体医工学会	特定高圧ガス取扱主任 者	高圧ガス保安協会
院内移植コーディネー タ	愛知県知事愛知腎臓財 団	第一種衛生管理者免許	厚生労働大臣指定安全 衛生技術試験協会
医療安全認定コーチ： MCCS	国際医療リスクマネー ジメント学会		

## 2. 活動報告

(1) 治療手術業務件数 緊急血液浄化・血液成分分離・末梢血幹細胞採取数

※HD、HDF、HF、ECUM、PEは血液浄化センターでの施行症例を除く

(件または回)

区分 内訳	平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度
血液浄化療法			
症例件数合計	110	150	129
血液浄化回数合計	477	448	341
HD件数	52	66	39
HD回数	243	165	58
HDF件数	4	0	3
HDF回数	16	0	8
HF件数	0	1	0
HF回数	0	1	0
ECUM件数	9	15	4
ECUM回数	12	18	6
CHD件数	0	0	0
CHD回数	0	0	0
小児CHD件数	0	1	0
小児CHD回数	0	4	0
CHDF件数	24	35	27
CHDF回数	103	96	66
CHF件数	0	1	0
CHF回数	0	2	0
PE件数	9	4	20
PE回数	23	5	65
CPE件数	0	0	0
CPE回数	0	0	0
DFPP件数	3	9	2
DFPP回数	12	14	5
免疫吸着件数	0	0	4
免疫吸着回数	0	0	23
LDL吸着件数	1	2	0
LDL吸着回数	4	2	0
薬物吸着件数	0	0	0
薬物吸着回数	0	0	0
ET 吸着件数	3	13	2
ET 吸着回数	4	23	3
L-CAP 件数	4	2	17
L-CAP 回数	50	3	63
G-CAP 件数	1	9	11
G-CAP 回数	10	23	44

末梢血幹細胞採取・骨髄移植関連			
症例件数合計	22	32	16
施行回数合計	29	66	34
PBSC成人	17	28	11
PBSC回数	24	61	24
PBSC小児	0	2	5
PBSC回数	0	3	10
健常人 ドナーPBSCH件数	3	2	0
健常人 ドナーPBSCH回数	3	2	0
骨髄濃縮件数	2	2	0
骨髄濃縮回数	2	2	0
顆粒球採取件数	0	0	0
顆粒球採取回数	0	0	0
白血球採取件数	0	0	0
白血球採取回数	0	0	0
その他			
腹水濾過濃縮再静注業務症例数	20	38	71
腹水濾過濃縮再静注業務回数	59	104	138

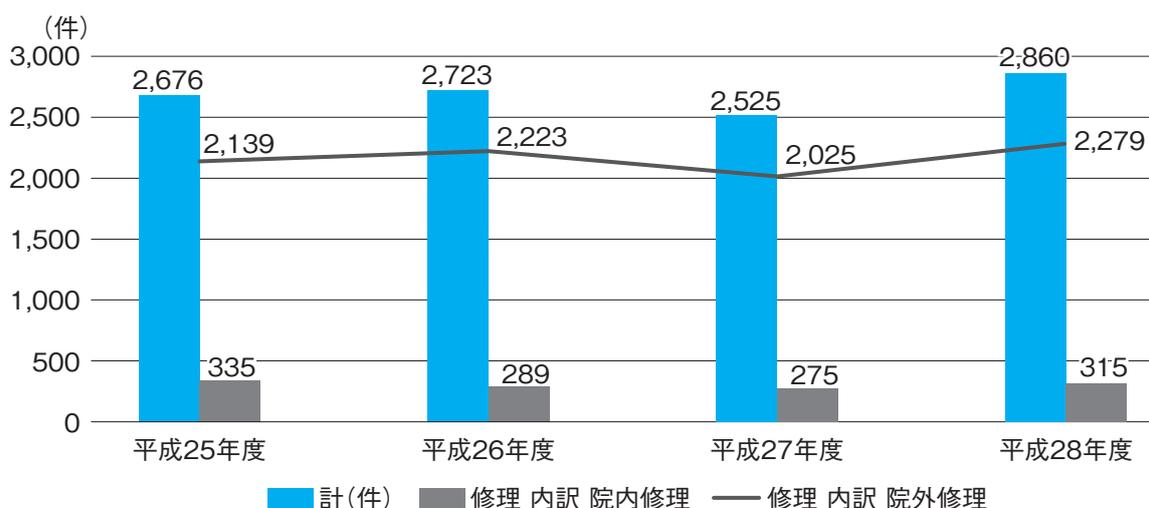
## (2) 手術立ち会い業務件数

人工心肺・補助循環・自己血回収・脳外ナビ・ペースメーカー等症例数

区分	平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度
人工心肺装置業務（開心術）			
成人人工心肺症例数	38	24	10
小児人工心肺症例数	0	0	0
Off Pump 手術立ち会い症例数	1	2	0
計	39	26	10
補助人工心肺装置管理業務			
PCPS 症例数	12	6	5
ECMO 症例数	0	0	0
計	12	6	5
手術立ち会い業務（人工心肺業務以外）			
心外 自己血回収症例数	9	9	3
整形 自己血回収症例数	10	4	17
計	19	13	20
脳外ナビゲーション症例数	48	52	39
整形手術ナビゲーション症例数	0	0	6
耳鼻いんこう科手術ナビゲーション症例数	10	6	2
計	58	58	47
泌尿器科ダヴィンチ症例数(前立腺)	56	52	28
泌尿器科ダヴィンチ症例数(腎部分切除)	2	—	—
婦人科ダヴィンチ症例数	7	0	8
外科ダヴィンチ症例数(胃・腸切除)	17	27	3
計	82	79	39
生体腎移植術腎還流	7	8	7
献腎移植術腎還流	0	2	1
計	7	10	8
PM・ICD 新規植込 立会い	17	20	17
PM・ICD 電池交換 立会い	6	18	15
PM・ICD リード交換等 立会い	1	5	2
PM 設定術中 /CT/MRI 対応	87	63	—
計	111	106	34
呼吸療法関連業務			
成人用人工呼吸器回路組立件数	492	419	—
小児用人工呼吸器回路組立件数	239	223	—
計	731	642	—
NO ガス使用症例数	4	6	10
N2 ガス 使用症例数	0	0	0
計	4	6	10

(3) 医療機器修理件数

①年度別修理件数



②修理処理件数内訳

(件)

部署名	修理件数	修理内訳				
		院内修理	院外修理	修理分類別		
				新品交換	異常なし	修理不能
内科	23	3	13	7	0	0
小児科	24	1	23	0	0	0
外科	15	1	9	5	0	0
形成外科	1	0	1	0	0	0
整形外科	10	1	9	0	0	0
皮膚科	9	0	9	0	0	0
泌尿器科	18	0	17	1	0	0
産婦人科	12	1	11	0	0	0
耳鼻いんこう科	71	3	67	1	0	0
眼科	30	0	27	3	0	0
脳神経外科	4	4	0	0	0	0
歯科口腔外科	9	0	9	0	0	0
外来治療センター	8	1	3	4	0	0
予防医療センター	4	2	2	0	0	0
総合案内	15	7	5	3	0	0
総合生殖	0	0	0	0	0	0
東2	73	13	48	11	3	1
西2	56	13	36	7	0	0
東3	60	15	29	15	1	0
西3	95	6	77	9	2	1
総合周産期病棟	72	12	49	8	2	1
東5	38	11	25	2	0	0
西5	60	16	28	15	1	0
東6	63	7	47	9	0	0

西 6	62	6	46	9	0	1
東 7	65	14	39	10	1	1
西 7	78	23	41	10	4	0
東 8	71	9	55	3	3	1
西 8	50	21	26	3	0	0
東 9	31	8	14	7	1	1
西 9	33	8	15	7	2	1
南病棟	63	14	36	12	1	0
放射線技術室	226	1	219	4	2	0
放射線治療室	4	1	1	2	0	0
画像検査（看護局）	101	1	99	4	0	0
中央臨床検査室	92	0	88	4	0	0
薬局	20	2	17	1	0	0
ME（臨床工学室）	92	3	82	6	1	0
血液浄化センター	19	1	16	0	0	0
NMC	98	16	78	0	3	1
救命救急センター	84	18	57	7	2	0
中央滅菌材料室	79	0	79	0	0	0
リハビリテーションセンター	40	13	24	3	0	0
栄養管理室	30	0	29	0	1	0
医局	0	0	0	0	0	0
看護局	28	6	19	2	0	1
管理課	4	0	4	0	0	0
医事課	13	4	9	0	0	0
医学情報室	7	3	4	0	0	0
手術センター	672	24	623	15	10	0
計	2,832	313	2,264	209	40	10

## (4) 臨床工学室が管理する医療機器台数

\* 各科で購入されているが、保守点検を臨床工学室が行っている機器を含む

管理機器名称	管理台数(台)
人工心肺装置	1
人工心肺用遠心ポンプコントローラー	1
心筋保護液供給装置	1
人工心肺用ヒータークーラーユニット	2
自己血回収装置	2
遠心ポンプ式補助循環装置 (PCPS)	2
IABP	3
成人・小児用人工呼吸器	24
新生児用人工呼吸器	13
在宅用 人工呼吸器 (リース)	35
成人用 NIPPV	6
小児・新生児用 NIPPV	10
パーカッションベンチレーター	2
RTX 陽陰圧式体外式人工呼吸器	1
多人数用血液透析患者監視装置	21
手術ナビゲーションシステム	2
個人用血液透析患者監視装置	3
個人用 RO 装置	2
持続的血液ろ過透析装置	2
血漿交換装置	1
腹水濾過濃縮装置	1
除細動装置	16
AED	24
AED 解析装置	1
閉鎖式保育器 (デュアル式 4 台含む)	18
開放式保育器 (インファントウォーマー)	11
搬送用保育器	2
輸液ポンプ	291
輸注ポンプ	286
経腸ポンプ	17
医薬品注入コントローラー (ドリップアイ)	10
PCA ポンプ	5
6 連式シリンジポンプユニット	2
セントラルモニター	28
ベッドサイドモニター	149
無線式送信機台数	149
携帯型受信機	13
心電計	23
血液成分分離装置	2
全身麻酔器	14
低圧持続吸引器	29
連続心拍出力計	7
体外式ペースメーカー (DDD 式を含む)	10
ネブライザーヒーター	60
手術支援ロボットシステム (ダヴィンチ Si)	1
計	1,303

(5) 人工呼吸器稼働台数および平均装着日数

診療科別

診療科名	症例数 (件)	延べ稼働 回数(日)	平均装着 日数(日)
外科	48	205	4.3
脳神経外科	85	368	4.3
心臓血管外科	55	450	8.2
呼吸器外科	8	46	5.8
循環器内科	31	145	4.7
呼吸器内科	21	204	9.7
消化器内科	12	43	3.6
神経内科	18	210	11.7
血液・腫瘍内科	5	46	9.2
腎臓内科	4	14	3.5
糖尿病・内分泌科	1	2	2.0
整形外科	8	52	6.5
リウマチ科	2	12	6.0
泌尿器科	5	8	1.6
産婦人科	4	11	2.8
形成外科	0	0	0.0
皮膚科	6	64	10.7
耳鼻いんこう科	13	39	3.0
歯科口腔外科	7	7	1.0
小児科	38	285	7.5
移植外科	1	1	1.0
計	372	2,212	6.4
前年度	309	1,819	5.9

病棟別

病棟名	症例数 (件)	延べ稼働 回数(日)	平均装着 日数(日)
南 1	5	75	15.0
南 2	0	0	0.0
西 2	29	226	7.8
東 2	33	295	8.9
西 3/ICU	298	1,270	4.3
東 3	10	210	21.0
西 4	0	0	0.0
東 4	0	0	0.0
西 5	3	12	4.0
東 5	1	22	22.0
西 6	0	0	0.0
東 6	2	11	5.5
西 7	4	34	8.5
東 7	5	88	17.6
西 8	0	0	0.0
東 8	0	0	0.0
西 9	0	0	0.0
東 9	0	0	0.0
計	390	2,243	5.8
前年度	431	2,485	5.7

\* 西病棟 3 階から病棟転床された症例を含む

\* 在宅人工呼吸療法中で入院した症例も含む

病棟別 人工呼吸器稼働（日常点検）台数の報告

病棟	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		年間365日計算			
	延べ稼働台数	1日平均(台)	延べ稼働台数	1日平均(台)	平均呼吸器稼働台数	延べ稼働台数																						
南1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	31	1	32	2	8	1	75	5	0.21			
南2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00		
西2	25	3	26	4	4	2	10	1	33	2	20	3	35	5	36	3	16	1	8	2	5	2	226	29	0.62			
東2	21	3	21	2	20	2	16	1	28	3	12	3	37	4	48	4	24	2	26	3	16	3	295	33	0.81			
西3/ICU	99	21	128	25	192	34	95	20	131	30	70	20	80	24	75	18	107	30	123	26	91	22	1270	298	3.48			
東3	0	0	0	0	0	0	2	1	39	2	44	2	41	2	30	1	23	1	0	0	0	0	210	10	0.58			
西4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00		
東4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00		
西5	0	0	0	0	7	2	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	3	0.03			
東5	22	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22	1	0.06			
西6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00		
東6	6	1	0	0	0	0	0	0	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	2	0.03			
西7	0	0	0	0	0	0	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	2	14	1	34	4	0.09				
東7	0	0	0	0	3	1	5	1	0	0	0	0	0	0	0	22	1	28	1	30	1	88	5	0.24				
西8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00		
東8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00		
西9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00		
東9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00		
合計/日平均台数	173	29	175	31	226	41	138	26	236	38	146	28	193	35	189	26	176	36	232	36	164	30	2243	390	6.15			

マスク式人工呼吸器	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		年間		成人小児比較(日)
	症例数	延べ使用日数	延べ稼働日数	延べ稼働日数																							
総数	8	27	4	31	8	27	8	32	6	22	10	48	4	11	7	50	7	30	6	30	8	27	16	38	92	373	4.1
(内訳)成人	6	20	4	31	8	27	7	31	6	22	9	34	4	11	7	50	7	30	5	23	7	21	14	30	84	330	3.9
(内訳)小児	2	7	0	0	0	0	1	1	0	0	1	10	0	0	0	0	0	0	1	7	1	6	2	8	8	39	4.8
一日平均装着日数(日)	3.4		7.8		3.4		4.0		3.7		4.8		2.8		7.1		4.3		5.0		3.4		2.4		4.1		

## 栄養管理室

### 1. 概要

栄養管理室では、患者の病状や状態、年齢に合わせた常食、やわらか食、糖尿食など40種類の食種を用意している。食事内容は医師とともに管理栄養士が検食で確認し、選択メニューなど喜んで食べていただける食事や、食事療法を行うための食事を提供して、QOLの向上に努めている。家庭でも栄養管理、食事療法が行えるよう、栄養指導や糖尿病教室などを通して、アドバイスやお手伝いをしている。

入院患者の栄養状態については、看護師とともにスクリーニングを行い、栄養管理計画書を作成し、医師が確認している。

栄養サポートチーム（NST）の事務局として、NST回診への同行、栄養治療実施計画書の作成など、患者の栄養状態の把握、改善を図り、治療に貢献している。また褥瘡対策チーム、呼吸療法ケアチームの一員として活動している。

栄養管理委員会で食事内容の検討や、NST運営委員会でNST活動を報告した。栄養治療についての知識、技術を習得するためNST定期教育講演会やNST教育カリキュラムを開催するなど、院内全体の栄養治療の水準向上に努めている。

（局長 田中 規雄）

（文責 室長補佐 藤田 克宣）

#### 「取得している認定資格等」

認定資格・専門資格	認定団体
栄養サポートチーム専門療法士	日本静脈経腸栄養学会

## 2. 活動報告

### (1) 実績

区 分		平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度	
食種及び食数	一般食	411,696	411,525	413,515	
	特別食	加算食	130,261	135,757	133,906
		非加算食	3,964	12,621	16,013
		小計（食）	134,225	148,378	149,919
	合計（食）	545,921	559,903	563,434	

選択メニュー	実施日数（日）		365	366	365	
	実施食種	一般食	常食	64,824	68,000	69,864
			軟菜食	24,882	22,232	22,595
			小計(人)	89,706	90,232	92,459
		治療食	糖尿食	14,259	14,538	11,491
			心臓食	4,509	4,227	4,555
			肝臓食	537	550	287
			すい臓B食	1,558	1,347	2,047
			小計(人)	20,863	20,662	18,380
			合計(人)	110,569	110,894	110,839

栄養食事指導	外来患者栄養食事指導	1,054	1,112	1,185
	糖尿病透析予防管理	84	63	21
	入院患者栄養食事指導	1,021	1,049	1,035
	乳児栄養食事指導	114	121	115
	小計（件）	2,273	2,345	2,356
	糖尿病教室	135	162	152
	合計（件）	2,408	2,507	2,508

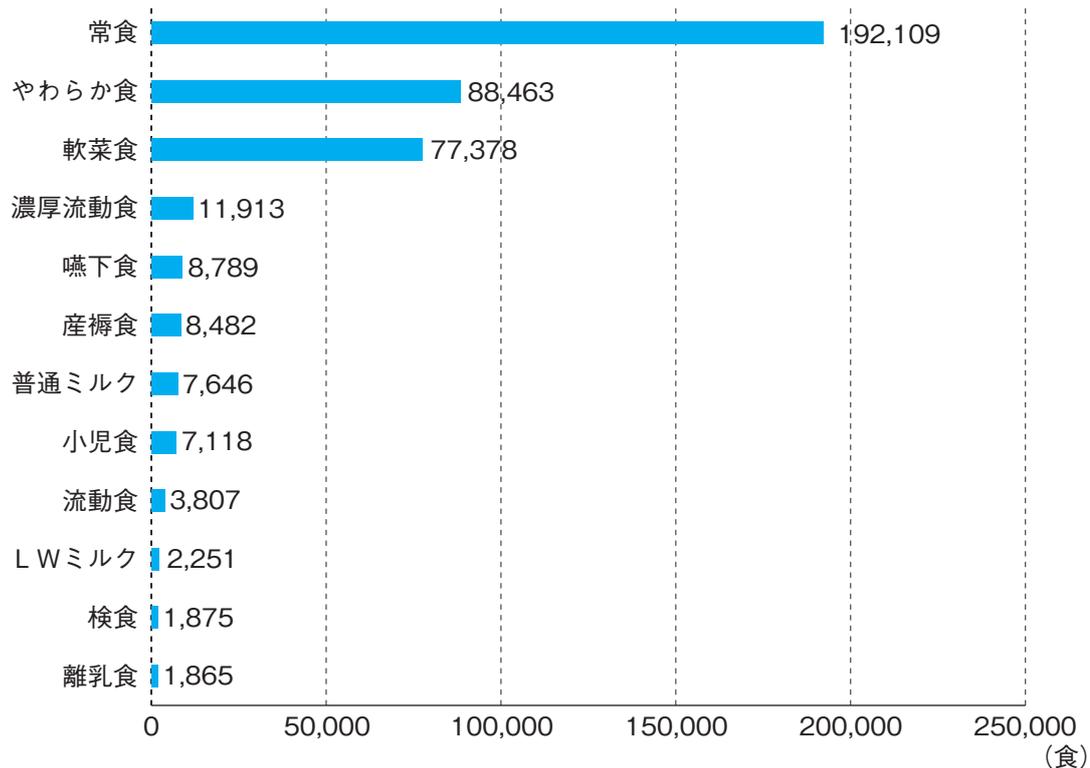
NST業務	栄養管理計画書（件）	21,729	21,666	21,588
	栄養サポートチーム加算（件）	646	602	368

NST定期教育 講演会	実施回数(回)	8	8	8
	参加者(人)	453	331	382

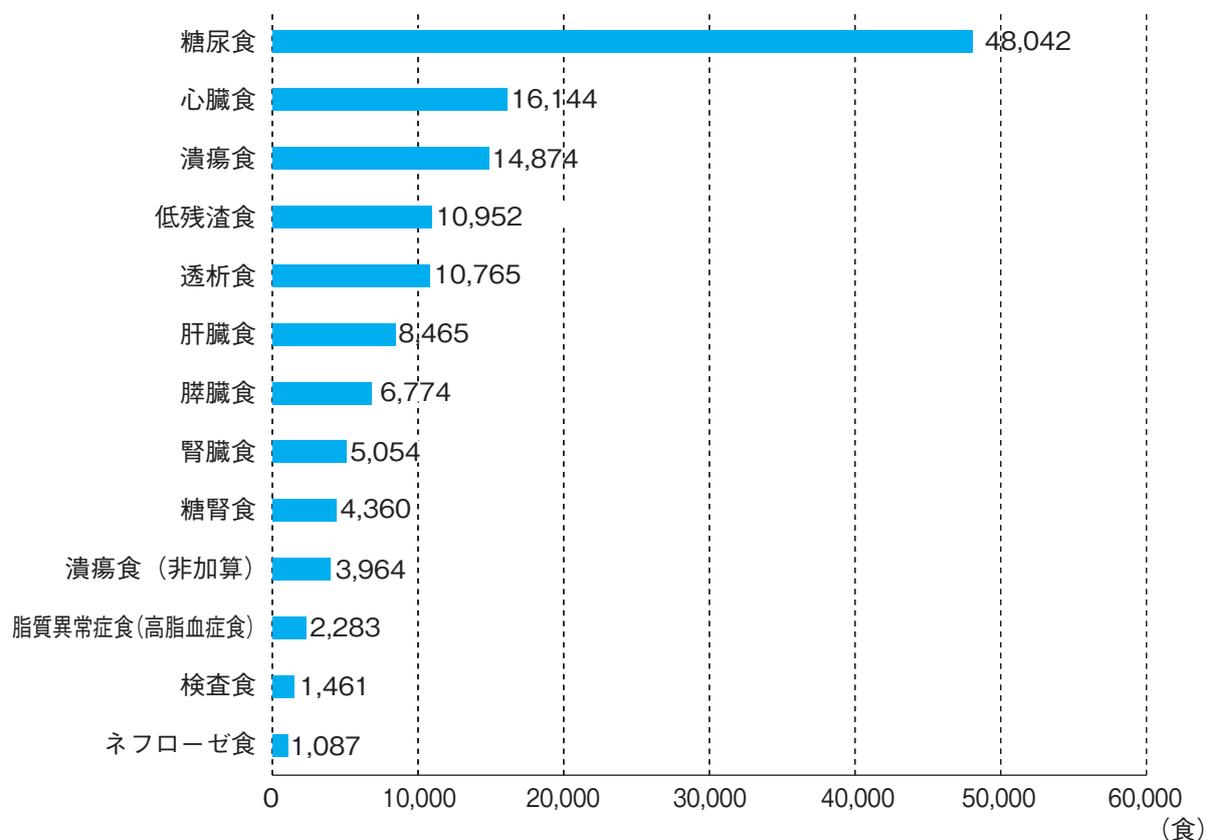
NST教育カリ キュラム	実施回数(回)		1	1	1
	受講者(人)	院外	4	4	5
		院内	2	1	1

(2) 食種詳細

①一般食 411,696食



②特別食 134,225食



# 薬局

## 1. 概要

薬局は、「薬あるところ薬剤師あり」を掲げ、薬のエキスパートとして各部局と連携をとり、医療チームの一員として薬物治療並びに医療安全に貢献することを目標としている。

薬局内には、管理・注射、製剤・調製、調剤・麻薬、医薬品情報の4グループからなる基本組織と治験管理センターが設置されている。

手術室にはサテライト薬局を設置しており、薬剤師が常駐して手術に使用する医薬品の供給・管理を行い、麻薬、毒薬等のハイリスク薬の適正管理を行っている。また、病棟においては、薬剤管理指導業務、病棟薬剤業務を実施して、患者への服薬指導や副作用発現のチェック、他の医療職への情報提供などを行い、最適な薬物療法における有効性・安全性の向上に貢献している。特に特定集中治療室への薬剤師の配置により高度急性期医療を担うチーム医療の推進に寄与している。

なお、がん指導薬剤師、がん専門薬剤師、感染制御専門薬剤師、感染制御認定薬剤師、抗菌化学療法認定薬剤師、緩和薬物療法認定薬剤師、栄養サポートチーム専門療法士、日本糖尿病療養指導士等の専門領域の薬剤師は、各チーム医療の一員として役割を担い、薬剤師能を発揮している。

(局長 石田 隆浩)

## 2. 活動報告

### (1) 患者数及び処方箋枚数

区分		年度	平成28年度(対前年度)	1日平均	平成27年度(対前年度)	1日平均	平成26年度(対前年度)	1日平均			
外来	患者数(人)	459,565	94.8%	1,891	484,692	100.1%	1,995	484,149	99.9%	1,984	
	院内	処方せん枚数(枚)	44,072	90.9%	181	48,486	98.2%	200	49,379	99.1%	202
		平均投薬日数(日)	14.1	102.2%		13.8	102.7%		13.5	111.1%	
		注射処方せん枚数(枚)	15,013	102.0%	62	14,725	101.7%	61	14,478	112.3%	59
	院外	処方せん枚数(枚)	163,959	95.2%	675	172,245	100.4%	709	171,585	100.7%	703
		平均投薬日数(日)	34.2	99.7%		34.3	99.3%		34.6	106.2%	
入院	患者数(人)	252,163	97.5%	691	258,733	100.1%	707	258,492	97.4%	708	
	処方せん枚数(枚)	114,317	98.1%	313	116,506	103.3%	318	112,833	98.5%	309	
	平均投薬日数(日)	6.8	90.7%		7.5	108.2%		7.0	104.6%		
	注射処方せん枚数(枚)	125,342	97.2%	343	128,896	101.1%	352	127,466	96.8%	349	
備考		外来日数	243日	外来日数	243日	外来日数	244日	入院日数	365日	入院日数	365日

### (2) 薬剤管理指導実績

	平成28年度	平成27年度	平成26年度
薬剤管理指導件数(件)	25,495	21,379	22,744
麻薬加算件数(件)	689	686	633

## (3) 無菌製剤処理料実績

	平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度
無菌製剤処理料件数(件)	12,326	11,699	10,972

## (4) 外来及び入院の科別処方箋枚数

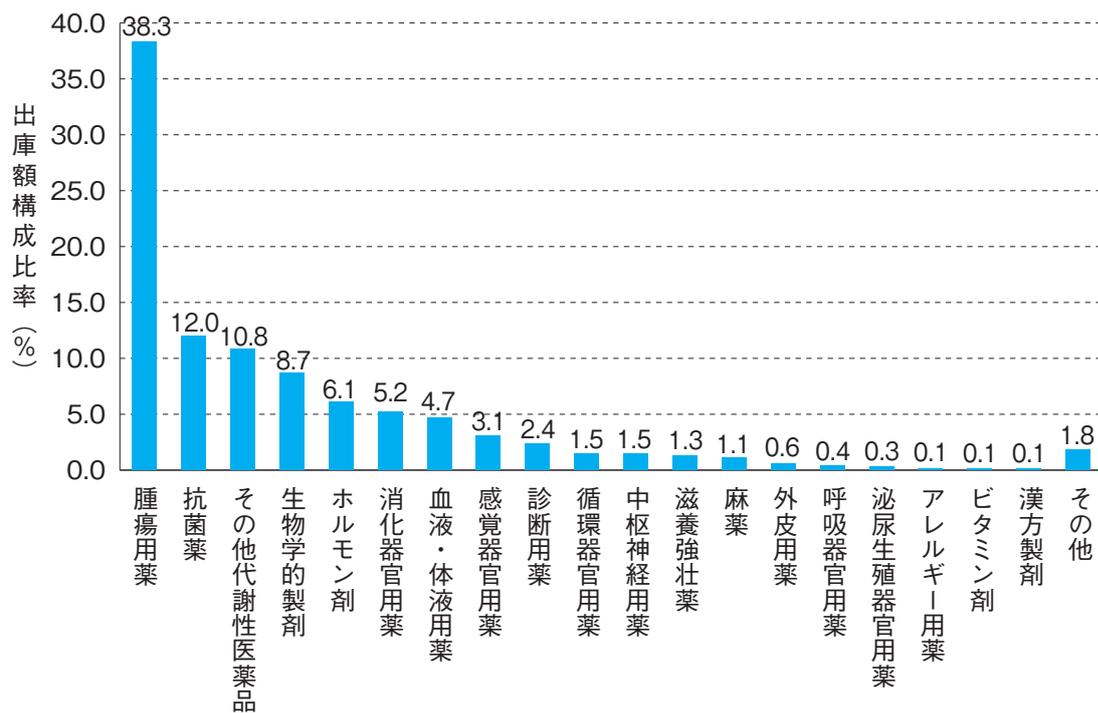
科 名	外 来			入 院	
	処方せん枚数(枚)		全処方せん枚数に対する科別比率(%)	処方せん枚数(枚)	全処方せん枚数に対する科別比率(%)
	院 内	院 外			
総合内科	844	3,838	2.3	206	0.2
一般外科	3,283	7,778	5.3	9,532	8.3
整形外科	1,726	9,175	5.2	9,384	8.2
脳神経外科	338	3,000	1.6	4,967	4.3
産婦人科	2,428	7,265	4.7	10,181	8.9
小児科	2,588	11,168	6.6	5,624	4.9
耳鼻いんこう科	1,086	9,022	4.9	4,661	4.1
皮膚科	2,671	16,112	9.0	2,541	2.2
泌尿器科	1,469	11,012	6.0	6,025	5.3
眼科	895	10,900	5.7	1,568	1.4
放射線科	19	225	0.1	2	0.0
こころのケア科	206	11	0.1	0	0.0
形成外科	133	440	0.3	3	0.0
歯科口腔外科	717	4,308	2.4	1,535	1.3
リハビリテーション科	10	15	0.0	0	0.0
麻酔科	10	0	0.0	0	0.0
救急科	11,494	26	5.5	0	0.0
呼吸器内科	751	9,673	5.0	11,811	10.3
消化器内科	4,942	14,603	9.4	16,316	14.3
循環器内科	1,172	9,658	5.2	4,998	4.4
アレルギー内科*	0	0	0.0	0	0.0
腎臓内科	1,044	5,041	2.9	2,866	2.5
糖尿病・内分泌内科	2,886	10,590	6.5	2,247	2.0
神経内科	457	6,251	3.2	7,277	6.4
血液・腫瘍内科	1,672	5,058	3.2	9,037	7.9
小児外科	15	252	0.1	19	0.0
移植外科	71	693	0.4	322	0.3
リウマチ科	857	6,460	3.5	586	0.5
脊椎外科	0	0	0.0	9	0.0
呼吸器外科	224	305	0.3	973	0.9
心臓血管外科	64	1,080	0.5	1,627	1.4
合 計	44,072	163,959	100.0	114,317	100.0
	208,031				

\* 処方せん枚数：入院のアレルギー内科は呼吸器内科に含む。

(5) 抗がん薬及びIVH調製本数

	区 分	平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度
抗がん薬 (本)	入 院	6,828	6,366	6,489
	外 来	11,818	10,258	9,843
IVH (本)	入 院	987	1,379	767

(6) 薬効別出庫薬品

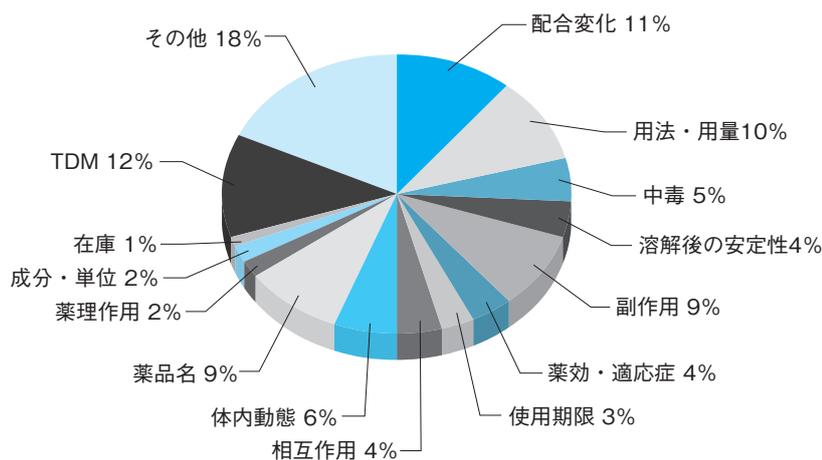


## (7) 院内特殊製剤（一部抜粋）

剤形	製 剤 名 (出庫単位)	適 応 症 等	主な使用科	製剤量
坐剤・ 腔坐剤	チラージンS坐薬50 $\mu$ g	甲状腺機能低下症(内服不可能時)	糖尿病・内分泌内科等	116本
	ミラクリッド腔坐薬 1万単位	切迫早産(破水予防)	産婦人科	1,881本
	プロゲステロン腔坐薬 200mg	黄体ホルモン補充療法	総合生殖医療センター	4,371本
	リファンピシン坐薬 450mg	結核治療薬 (イレウス等で内服困難時)	呼吸器内科	29本
注射剤	3% 亜硝酸ナトリウム注(10mL)	シアン中毒の解毒	救急外来センター	8本
	安息香酸ナトリウム注(50mL)	高アンモニア血症	救急外来センター	12本
	眼科用アバスチン注	加齢黄斑変性症、血管新生緑内障	眼科	26本
	シリコンオイル眼注(10mL)	増殖硝子体網膜症の硝子体手術における眼内充填物	眼科	27本
	滅菌墨汁(5mL)	内視鏡的点墨法	消化器内科	152本
	2% パテントブルー注(5mL)	悪性リンパ腫のリンパ管染色	皮膚科	7本
点眼剤	0.5% デノシン点眼液(5mL)	サイトメガロウイルス角膜内皮炎	眼科	47本
	バンコマイシン点眼液(5mL)	MRSA 陽性患者への眼科感染症	眼科	24本
	0.125% ピロカルピン液(4mL)	瞳孔緊張症	眼科	23本
	0.5% 硫酸アトロピン点眼液(5mL)	診断または治療を目的とする散瞳と調節麻痺	眼科	54本
内用剤	セレン内服液(10 $\mu$ g/mL)	セレン欠乏症	小児科	21,180mL
	P.Child - C (CN)	風邪・咳用申し合わせ処方	小児科	11,000g
外用剤	SAD 液	円形脱毛症、疣贅	皮膚科	5,700mL
	鼓膜麻酔薬	鼓膜麻酔	耳鼻いんこう科	40mL
	DPCP 液	円形脱毛症、疣贅	皮膚科	3,600mL
	2% 滅菌 HPC 液	肉芽組織の清浄化と形成促進剤	血液・腫瘍内科等	10,500mL
	0.02% 滅菌ボスミン液	外傷・鼻・抜歯後など局所出血	耳鼻いんこう科等	27,600mL
	1% ヨウ素ヨウ化カリウム液	カメラ室における検査薬	消化器内科	8,700mL
軟膏剤	40%尿素軟膏	爪白癬の角質除去	形成外科	380g
	5% ヒドロキノン軟膏	メラニン色素の破壊・生成抑制	形成外科等	2,800g
	Mohs 氏ペースト	Mohs surgery における組織の固定	一般外科等	1,100g

(8) 医薬品情報室への問い合わせ状況

総件数：599件



(9) 医薬品情報提供

医薬品要覧	1回
Drug Information News	12回
薬局ニュース	12回
緊急安全性情報・安全性速報	0件
適応症に関する情報	37件
使用上の注意に関する情報	38件
用法・用量に関する情報	7件
安全性情報	39件
薬物血中濃度解析	72件

(10) 持参薬鑑別

	平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度
薬剤鑑別件数 (件)	11,987	11,927	11,110

(11) 治験実施数

治験／製造販売後	相	件数	予定症例数	実施症例数
治験	ph I	2	6	5
	ph I / II	1	1	0
	ph II	3	8	4
	ph III	21	79	38

(12) 副作用報告

	平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度
厚生労働省報告件数(件)	9	18	7
プレアボイド報告件数(件)	140	73	75

## (13) 年間麻薬使用量

薬品名	平成28年度		平成27年度		平成26年度	
	院内	院外	院内	院外	院内	院外
オピオ注(本)	0	-	0	-	0	-
オピスコ注(本)	1	-	11	-	8	-
ペチジン塩酸塩注(本)	0	-	1	-	2	-
モルヒネ塩酸塩注10mg(本)	3,350	-	2,098	-	3,496	-
モルヒネ塩酸塩注50mg(本)	473	-	809	-	511	-
モルヒネ塩酸塩注200mg(本)	364	-	20	-	40	-
フェンタニル注0.1mg(本)	9,832	-	11,319	-	12,963	-
フェンタニル注0.5mg(本)	7,139	-	6,228	-	6,575	-
アルチバ静注用2mg(瓶)	3,832	-	4,034	-	4,167	-
アルチバ静注用5mg(瓶)	1,627	-	1,471	-	1,293	-
ケタラール静注用200mg(瓶)	642	-	562	-	836	-
オキファスト10mg(本)	696	-	1,571	-	1,335	-
オキファスト50mg(本)	482	-	431	-	597	-
プレベノン注100mgシリンジ(本)	136	-	5	-	-	-
MSコンチン錠10mg(錠)	1,269	949	1,167	1,802	2,530	1,519
MSコンチン錠30mg(錠)	592	14	964	735	330	14
ピーガード錠20mg(錠)	10	0	19	70	0	0
ピーガード錠30mg(錠)	0	0	0	0	18	0
ピーガード錠120mg(錠)	0	0	0	0	0	0
カディアンカプセル60mg(C)	0	0	0	0	0	0
カディアンスティック粒120mg(包)	0	0	0	0	0	0
カディアン分包品20mg(包)	0	-	0	-	0	-
カディアン分包品30mg(包)	0	-	0	-	0	-
モルベス細粒2%10mg(包)	1,864	652	2,139	884	26	14
モルベス細粒6%30mg(包)	-	-	30	0	68	0
モルヒネ塩酸塩錠10mg「DSP」(錠)	479	115	2,348	529	955	1,045
オプソ内服液5mg(包)	2,352	933	3,021	1,244	1,721	402
オプソ内服液10mg(包)	2,270	466	1,974	1,215	1,317	315
オキシコンチン錠5mg(錠)	23,383	34,736	29,602	28,272	30,395	26,218
オキシコンチン錠20mg(錠)	3,905	5,702	3,448	4,772	4,367	6,865
オキシコンチン錠40mg(錠)	1,730	4,846	2,837	4,438	1,688	3,274
オキノーム散2.5mg(包)	6,900	5,506.5	5,130	5,093	5,801	3,041
オキノーム散5mg(包)	4,999	3,479	5,773	3,573	5,086	2,817
オキノーム散10mg(包)	4,430	6,343	4,741	2,790	3,624	6,809
イーフェンバツカル錠50μg(錠)	173	30	601	50	360	122
イーフェンバツカル錠100μg(錠)	908	135	568	199	282	30
イーフェンバツカル錠200μg(錠)	279	294	2,799	680	417	0
タペンタ錠25mg(錠)	1,337	28	725	161	49	0
タペンタ錠100mg(錠)	872	14	44	0	0	0
アンベック坐薬10mg(本)	449	30	234	0	841	34
アンベック坐薬30mg(本)	51	0	40	0	104	0
デュロテップMTパッチ2.1mg(枚)	46	80	284	647	497	1,123
デュロテップMTパッチ4.2mg(枚)	3	29	283	491	403	581
デュロテップMTパッチ8.4mg(枚)	7	10	170	244	373	373
デュロテップMTパッチ16.8mg(枚)	-	0	275	6	150	85
フェントステープ1mg(枚)	2,581	2,727	2,899	1,916	2,831	1,645
フェントステープ2mg(枚)	4,331	2,687	5,020	2,345	3,923	816
フェントステープ6mg(枚)	1,680	490	1,757	212	1,243	598
ワンデュロパッチ1.7mg(枚)	-	-	-	-	0	0
アヘンチンキ(mL)	403.6	1,769.0	376.5	1,460.0	571.5	1,477.5
1%塩酸モルヒネ液(mL)	0	0	21.0	0	22.5	0
10%リン酸コデイン散(g)	0	0	0	0	0	0
10%塩酸コカイン液(mL)	46.0	0	49.0	0	28.0	0

※年度の設定は麻薬関係法令上、平成27年10月1日～平成28年9月30日までとする。

# 看護局

## 1. 概要

看護局の重点目標として以下を挙げ、看護局委員会、師長を中心に看護目標やチーム活動を実施し、目標達成に向けて取り組むことができた。

- ① 患者さん・ご家族の声を大切にし、安全・安心な看護を提供する
- ② 看護サービスの質の向上に努め、看護を可視化する
- ③ お互いを認め合う職場をつくる
- ④ 災害対応の強化に努める

今年度、当院の方針のもと、新たに看護災害対策委員会及びリンクナースを設け、学習会、アクションカードの作成や各部署でのシミュレーション訓練が実施できた。また、記録を通して看護の可視化を図る目的から、看護記録・クリニカルパス委員会に於いてリンクナースを設け、ケアプロセスが見える記録ができるようその活動を支援した。

さらに、高度急性期の医療の充実を図るために、救急外来センターと画像検査室を統合した。担当部署の師長・主任を中心にメンバーが一丸となり情報共有し、円滑な業務運営ができるように努めた。

(局長 間瀬 有奈)

## 2. 活動報告

### (1) 看護局の状況

#### ① 職員の動向

職員数 894人 助産師36 (2) 人 看護師767 (76) 人 准看護師14 (11) 人  
看護補助者 62人 助手 5人 保育士 2人  
退職者 41人 (定年退職者 4人含む)

#### ② 看護師確保対策

##### (ア) 採用試験

平成29年度新規採用試験 3回実施 (新卒54人、既卒5人)

平成28年度中途採用試験 11回実施 (11人)

##### (イ) ガイダンス (4回実施 134人参加)

日 程	開 催 名	参加人数
5月14日	豊橋創造大学「病院を知る会」	32人
6月11日	豊橋市民病院就職ガイダンス	41人
7月9日	豊橋市民病院就職ガイダンス	5人
3月20日	看護師就職春ガイダンス	56人

(ウ) 学校訪問 (12校)

日 程	訪 問 校
5月10日	浜松医科大学、浜松市立看護専門学校、宝陵高校衛生看護科 穂の香看護専門学校
5月17日	椋山女学園大学、中部大学、愛知県立看護大学 岐阜医療科学大学、愛知きわみ看護短期大学
5月20日	三重県立看護大学、県立愛知看護専門学校、岡崎市立看護専門学校

(エ) インターンシップ

開催期間	研 修 名	人 数
8月8日～8月19日	夏のインターンシップ	7人
3月13日～3月29日	春のインターンシップ	34人

(オ) 施設見学 総数25人

(カ) 看護師再就職チャレンジ支援研修 (6月13日～6月16日) 7人参加

(キ) 看護体験

高校生 ナースセンター開催 30人

自開催 8月18日 30人 8月10日 32人

3月24日 35人 3月25日 34人

中学生職場体験 15人

(ク) 育児休業中職員向けに「ぶっちゃけママトーク」開催 40人

(ケ) 育児復帰者研修 14人 (育服者 7人 パート・中途採用者 7人)

### 3. 認定看護師

(1) 認定看護師数 (25人)

感染管理 (2) 救急看護 (3) 皮膚・排泄ケア (3) がん化学療法看護 (2)

がん性疼痛看護 (2) 緩和ケア (1) 集中ケア (1) 新生児集中ケア (1)

摂食・嚥下障害看護 (1) 脳卒中リハビリ看護 (1) 認知症看護 (1) 訪問看護 (1)

糖尿病看護 (1) 透析看護 (1) 手術看護 (1) 小児救急 (1) 看護管理 (2)

(2) 平成28年度 認定看護師活動実績 (資料1)

### 4. 教育活動

(1) クリニカルラダー認定者数

レベルⅠ 395人 レベルⅡ 127人 レベルⅢ 4人

(2) 平成28年度 研修状況 (資料2)

(3) 病棟看護補助者研修66人参加

## 5. その他

医療安全管理者養成研修修了者 11人

専任看護教員養成講習会修了者 13人

愛知DMAT隊員養成研修修了者 2人

災害派遣医療チーム研修修了者（日本DMAT隊員）8人

愛知県看護協会災害支援ナース登録者 16人

(資料1) 平成28年度 認定看護師活動実績

	実 践	指 導	相 談
感染管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>①医療関連感染サーベイランス（耐性菌・ウイルス、CLABSI、CAUTI、VAP）</li> <li>②職業感染予防対策の推進（抗体価測定、ワクチン接種事業、他）</li> <li>③職員健康外来の開催と診療介助</li> <li>④IC トピックスの配信</li> <li>⑤ ICT News の発行</li> <li>⑥院内感染対策委員会、院内感染対策チーム（ICT）、感染症管理センター会議の事務局運営</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①新規採用者オリエンテーション：講義</li> <li>②基礎看護技術演習：講義&amp;演習</li> <li>③クリニカルラダーⅠ：講義&amp;机上演習</li> <li>④クリニカルラダーⅡ：感染症病棟視察（見学）&amp;講義</li> <li>⑤再就職チャレンジ支援研修：講義</li> <li>⑥中途採用者オリエンテーション：講義（計3回）</li> <li>⑦院内感染対策講習会：講義（計2回）</li> <li>⑧救急医学講座：講義</li> <li>⑨NST教育カリキュラム：講義</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①132件</li> </ul>
手術看護	<ul style="list-style-type: none"> <li>①手術センター新人看護師の教育</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①認定看護師セミナー「みんなで体温管理」</li> <li>②豊橋市立看護専門学校 看護第1科：成人看護援助論Ⅰ「手術と看護」講義</li> <li>③豊橋市立看護専門学校 看護第2科：成人看護援助論Ⅱ「周術期看護」講義</li> <li>④日本手術看護学会東海地区「内視鏡手術看護セミナー」ハンズオン講師</li> <li>⑤日本手術看護学会東海地区「新人交流会」ファシリテーター</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①手術センター内での体位固定についての相談（5件）</li> </ul>
訪問看護	<ul style="list-style-type: none"> <li>①在宅療養支援：75人（入院）、19人（外来）</li> <li>②訪問看護ステーション勤務者向け勉強会開催：5回、参加人数合計97人</li> <li>③退院前訪問：4人</li> <li>④退院後訪問：3人</li> <li>⑤長期入院者院内ラウンド：6回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①患者総合支援センターセミナー「みんなですすめる 退院支援 退院調整」講義</li> <li>②職場復帰支援研修「地域包括ケアシステムにおける在宅療養支援」講義</li> <li>③訪問看護ステーション勉強会開催：5回</li> <li>④訪問看護ステーション交流会：1回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①なし</li> </ul>

透析看護	<ul style="list-style-type: none"> <li>①血液浄化センターでの看護実践を通しての現場の質向上</li> <li>②腹膜透析患者に対してチューブ交換手技マニュアル作成</li> <li>③透析導入患者に対しての導入前面談実践（2017年2月末時点：49件）</li> <li>④入院患者・外来患者のシャントスクリーニング（2017年2月末時点：59件）</li> <li>⑤転入患者のシャントスクリーニング（2017年2月末時点：70件）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①認定看護師セミナー「内シャント感染と予防」</li> <li>②外来主任会勉強会「慢性腎臓病（CKD）」</li> <li>③血液浄化センタースタッフ対象の学習会 <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア)「バスキュラアクセスの観察とケア」</li> <li>(イ)「リンのおはなし」</li> <li>(ウ)「栄養指導のポイント」</li> <li>(エ)「透析導入期の生活支援」</li> <li>(オ)「腹膜透析について」</li> <li>(カ)「PD＋HD併用療法」</li> <li>(キ)「検査データの見方」</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①シャントトラブルに対する相談（3件）</li> </ul>
認知症看護	<ul style="list-style-type: none"> <li>①認知症や高齢により心身の安寧が得られていない患者に対する症状マネジメント</li> <li>②認知症のある患者の家族支援</li> <li>③認知症サポートチームラウンド（週1回および適宜臨時、187例）</li> <li>④院内デイケア（摂食・嚥下障害看護認定看護師および脳卒中リハビリテーション看護認定看護師との共同により31回開催、延べ203人参加）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①認知症サポートチームラウンドを通して、認知症看護についてスタッフに指導</li> <li>②勉強会 <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア)院内トピックス研修「高齢者の看護（高齢者の心理、高齢者の看護における家族支援、認知症高齢者の看護）」</li> <li>(イ)職場復帰支援研修「せん妄ケアを実践しよう～安全・安楽な療養支援のために～」</li> <li>(ウ)認知症対策委員会主催「認知症看護について～DSTラウンドの事例から学ぶ、せん妄ケア～」</li> <li>(エ)認定看護師セミナー</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①年間相談依頼件数（3件）</li> </ul>
摂食・嚥下障害看護	<ul style="list-style-type: none"> <li>①認定看護師嚥下回診（週1回）介入件数：108件</li> <li>②病棟内の摂食・嚥下障害患者の把握と定期的な評価</li> <li>③摂食機能療法の算出開始（平成28年8月より）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①摂食機能療法プロジェクトチーム開催の勉強会を通してのスタッフ指導</li> <li>②認定看護師セミナー（院内）「あなたの知らない食事介助のコツ」</li> <li>③愛知県摂食・嚥下障害看護認定看護師会（院外）「脳血管疾患の摂食・嚥下障害」</li> <li>④「脳からわかる摂食・嚥下障害」～NOBUV～全3回（南、西2、東7、西7）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①筋ジストロフィー患児の摂食訓練方法について（東2）</li> <li>②家族が行える摂食訓練について（東3）</li> <li>③自宅退院する患者・家族への食事形態の指導について（東7）</li> <li>④姿勢調整が困難な患者への食事介助方法について（東7）</li> <li>⑤自己にて行える間接訓練について（東7）</li> </ul>

小児救急看護	①採血時のプレパレーション	①病棟学習会 (ア)子どもの視野体験と子どもの権利について (イ)災害時の子どもの反応について ②新人指導 (ア)PBL演習 ③認定看護師セミナー(院内) (ア)子どもの「みかた」講義 ④准看護学校講義「小児看護」	①プレパレーションツール内容について ②災害時の小児トリアージについて
脳卒中リハビリテーション看護	①音楽療法・院内デイケアを活用した離床時間の延長 ②片麻痺患者や意識障害患者のポジショニング検討 ③高次脳機能障害患者への看護介入 ④深部静脈血栓予防への対策 ⑤脳卒中退院時指導プロジェクトの運営(1回/月) (ア)脳卒中再発予防パンフレットの作成・配布開始H27.5～ (イ)脳卒中再発予防プログラムの作成と実施H27.11～ ⑥摂食機能療法プロジェクト会議への参加(1回/月)	①認定看護師セミナー「脳卒中予防のための生活習慣について」 ②トピックス研修「高齢者の看護」 ③訪問看護師交流会「脳卒中患者さんのリハビリ看護」 ④東三河こども看護フェア「脳卒中予防：塩分当て釣りゲーム」 ⑤NŌBUV(計9回)「脳卒中看護・摂食嚥下障害看護」(西2・南・東7・西7) ⑥西病棟2階看護師対象の勉強会 (ア)「はじめての脳神経看護」 (イ)「片麻痺患者のポジショニング」 (ウ)「深部静脈血栓症の理解」	①年間相談依頼件数(3件) (ア)「トルソー症候群の理解・日常生活動作・コミュニケーション方法の検討」(東6) (イ)「高次脳機能障害への対応」(西2) (ウ)「円背のポジショニング」(西2)
糖尿病看護	①糖尿病内分泌内科病棟での糖尿病教育入院患者、糖尿病合併症患者に対する看護実践を通し、糖尿病看護の質向上に努めた ②院内インスリン関連針刺し事故の分析・対策検討 ③糖尿病対策委員会・サポートチームの構築	①新人基礎看護技術研修「血糖測定、インスリン自己注射」講義・演習 ②クリニカルラダートピックス研修「糖尿病看護」講義 ③認定看護師セミナー「正しいインスリンの自己注射の方法教えます！」講義・演習 ④病棟学習会「インスリンの作用について」「糖尿病看護」「運動」講義 ⑤透析室看護師対象勉強会「下肢観察」講義 ⑥新人シミュレーション研修「多重課題の振り返り」講義 ⑦訪問看護勉強会「高齢者の糖尿病について」講義 ⑧看護学校講義「内分泌・代謝疾患の看護」 ⑨准看護学校講義「内分泌・代謝疾患の看護」	①年間相談依頼件数(14件) (ア)インスリン自己注射指導(8件) (イ)フットケア(4件) (ウ)低血糖・シックデイ指導(1件) (エ)下肢観察の講義依頼(1件)

<p>皮膚・排泄ケア</p>	<p>①褥瘡ラウンド（週1回：308件）  ②褥瘡フォローアップ回診（週1回：212件）  ③褥瘡ハイリスク患者のリスクアセスメント・予防計画書立案・ラウンド・評価  ④ストーマ外来での患者のケア（週3回：611件）</p>	<p>①褥瘡勉強会（講義）：3回  「褥瘡の基礎知識、発生要因」  「リスクアセスメント（ブレードンスケールの採点方法）」  「体圧分散用具の種類と特徴・選択方法」  「褥瘡ケア用品の正しい使い方」  「ポジショニング」  「褥瘡のアセスメント（DESIGN-Rの採点方法）」  ②褥瘡ラウンドを通して、褥瘡予防・褥瘡ケアについてスタッフへ指導  ③認定看護師セミナー：2回「スキン-テアについて」「オムツによる排尿ケアの基本」  ④基礎看護技術演習：講義・演習「安楽な体位の工夫」  ⑤NST教育カリキュラム：褥瘡ラウンド同行・講義  ⑥ストーマケアプロジェクトチーム会（月1回）・勉強会  「ストーマサイトマーキング」「早期合併症」「症例検討①②」「社会福祉」「装具選択①②」  ⑦ストーマ外来に病棟看護師が参加し、ストーマケア指導：11回  ⑧再就職チャレンジ支援研修：講義・演習「スキンケア、褥瘡の予防対策」</p>	<p>①年間相談依頼件数（161件）</p>
<p>緩和ケア</p>	<p>①緩和ケアチームラウンド（週1回：新規依頼件数：36件/年）  ②緩和ケアチームカンファレンス（週1回21件/年）  ③緩和ケア外来（毎週火曜日）  ④がん患者指導管理1におけるIC同席5件/年  ⑤がん患者指導管理2における心理的支援（8件/年）</p>	<p>①認定看護師セミナー（院内）：「患者ケアに活かそう 苦痛のスクリーニング STAS-J」講義  ②緩和ケアリンクナース会（2回）  ③院内ラダー研修  (ア)緩和1「痛みのマネジメント」講義  (イ)緩和2「緩和ケアにおける臨床倫理」講義  ④ELNEC-J「喪失・悲嘆・死別」講義  ⑤豊橋緩和ケア地域連携講演会「豊橋市民病院における緩和ケアの取組」講演</p>	<p>①年間相談依頼件数（10件）  ②自部署病棟看護師からの相談対応</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">がん化学療法看護</p>	<p>①がん化学療法前オリエンテーションマニュアル修正（外来治療センター）</p> <p>②がん患者指導管理1におけるIC同席：1件</p> <p>③がん患者指導管理2における心理的支援：1件</p> <p>④がん化学療法認定看護師病棟ラウンド（10部署）</p>	<p>①院内研修</p> <p>(ア)がん看護基礎：「がん対策基本法と地域がん診療連携拠点病院の役割、がん患者の心理と看護支援」講義</p> <p>(イ)がん看護1：「がん化学療法薬の安全な取り扱いと投与管理」講義</p> <p>(ウ)がん看護2：「悪心の症状マネジメントとセルフケア支援」講義</p> <p>(エ)皮下埋め込み型ポート（CVポート）の研修（4回）</p> <p>②認定看護師セミナー 「化学療法による味覚障害 ～CiTASを用いた評価と看護介入～」</p>	<p>①末梢神経障害に対する対処方法</p> <p>②味覚障害を訴える患者への看護</p> <p>③ポートからの抗がん剤投与での注意点</p> <p>④長時間投与のレジメンでの投与上の注意点について</p> <p>⑤口内炎悪化時の対応</p> <p>⑥抗がん剤による血管痛の対処方法</p> <p>⑦CVポートの穿刺困難による相談</p> <p>⑧好中球減少時の食事指導</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">がん性疼痛看護</p>	<p>①緩和ケアチームラウンド（週1回：新規依頼件数：36件/年）</p> <p>②緩和ケアチームカンファレンス（週1回：21件/年）</p> <p>③緩和ケア外来（毎週火曜日）</p> <p>④緩和ケア地域連携クリニカルパスによる退院調整（2件/年）</p> <p>⑤がん患者指導管理1におけるIC同席（170件/年）</p> <p>⑥がん患者指導管理2における心理的支援（26件/年）</p> <p>⑦がん相談支援センターにおけるがん相談（151件/年）</p>	<p>①認定看護師セミナー（院内）：「患者ケアに活かそう 苦痛のスクリーニング STAS-J」講義</p> <p>②緩和ケアリンクナース会（2回）</p> <p>③院内ラダー研修</p> <p>(ア)トピックス研修 がん看護の基礎①「がん患者の意思決定支援」講義</p> <p>(イ)緩和1 「痛みのマネジメント」講義</p> <p>(ウ)緩和2 「緩和ケアにおける臨床倫理」講義</p> <p>④職場復帰支援研修 講義</p> <p>⑤病棟勉強会「がん性疼痛のマネジメント」講義</p> <p>⑥訪問看護ステーション勉強会「在宅における注射薬での疼痛管理」講義</p>	<p>①年間相談依頼件数（49件）</p>

救急看護	<p>①救急外来における看護実践を通し現場の質の向上に努めた</p> <p>②災害看護の知識、技術の習得、向上の為講習会を開催し講義、演習を行った</p> <p>③院内BLS・ICLS研修ではインストラクターとして参加し急変時の対応についての知識・技術の普及を図りインストラクターの育成にも努めた</p>	<p>①ラダー講義 演習（救急看護1 災害看護Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）</p> <p>②認定看護師セミナー「2次トリアージを習得しよう」</p> <p>③看護師再就職チャレンジ研修「患者の見かた」</p> <p>④新人研修「12誘導心電図」演習 「フジカルアセスメント」講義</p> <p>⑤院内BLS ICLS講習 インストラクター育成</p> <p>⑥看護学校第1科、2科「災害看護」講義</p> <p>⑦起震車 エアーストレッチャーでの避難訓練 演習</p> <p>⑧アクションカード作成と災害訓練の実施について指導と支援を行った</p>	①年間相談依頼件数 (6件)
新生児集中ケア	<p>①超低出生体重児の蘇生を医師と共に速やかに実施し安定化を図る</p> <p>②新生児医療センターで看護実践を通し看護の質向上を目指す</p>	<p>①病棟勉強会 &lt;NMC&gt; (ア)超低出生体重児の蘇生シミュレーション (医師と協働) (イ)ディベロップメンタルケアの概念を基にした看護 (ウ)ポジショニング勉強会 &lt;4階&gt; (ア)正常新生児の観察 (イ)ハイリスク新生児の看護</p> <p>②認定看護師セミナー (院内) 育児の違い 今・昔</p> <p>③看護学校講義 新生児看護</p>	①年間相談依頼件数 (3件)
集中ケア	<p>①呼吸ケアサポートチーム活動(RST) 人工呼吸器装着患者の早期呼吸器離脱を目指した活動 (ラウンド患者数:年間延べ103人)</p> <p>②西病棟3階 (集中治療室) での看護実践を通し、提供する看護の質的向上を目指す</p>	<p>①認定看護師セミナー (院内) 講義「せん妄とその評価」</p> <p>②新人研修 講義「呼吸と循環のアセスメント」</p> <p>③院内クリニカルラダー研修 講義「救急看護2」「救急看護3」</p>	①年間相談依頼件数 (6件) ②RSTラウンドでの年間相談件数 (15件)

## (資料2) 平成28年度 研修状況

	日付	研修名	延参加人数	内 容	
フ レ ッ シ ユ	4/7 4/8 4/11 4/13	情報研修	53人	電子カルテの操作方法	
	4/12 4/15 4/19 4/22 4/26 5/2 5/6	基礎看護技術研修 (7日 間)	364人	感染対策 バイタルサイン測定 膀胱留置カテーテル 静脈採血と血糖測定 フィジカルアセスメントと酸素療法 上気道吸引の仕方 皮下注射と筋肉内注射 点滴静脈内注射の方法 看護必要度と栄養評価 (NST) 安楽な体位の工夫	
	4/25 4/27 4/28	外来看護半日研修	52人	外来看護の業務 (診察介助、検査説明、指導、治療) 外来患者への関わり	
	5/10 5/17 5/24 5/31 6/7 6/14 6/21	心電図研修	52人	12誘導心電図計の正しい電極装着と操作方法	
	6/2 7/7 8/4 9/1 10/6 12/1	BLS 研修	51人	気道確保、胸骨圧迫などの蘇生方法 AED (自動体外式除細動器) の使用方法	
	5/25	新人フォロー振り返り研 修	52人	働き始めて困ったこと、SBARを用いた報告の仕方	
	6/29	ME 研修	52人	輸液ポンプと輸注ポンプの取り扱い	
	7/6	消防研修	68人	院内消防設備の講義と消火用散水栓・消火器の取扱い	
	7/6	入職3ヶ月フォローアッ プ	52人	患者情報の整理と業務の組み立て方 (グループワー ク)	
	8/1	医療安全	52人	新人が起こしやすいインシデントと改善策	
	9/9	輸血	52人	血液製剤の取り扱いと輸血時の看護	
	10/7-8	宿泊研修	79人	多重課題シミュレーション、フィジカルアセスメン ト、KYT	
	11/21	急変時の対応	51人	胸骨圧迫の仕方とAEDの操作 救急カート内の物品の使用方法 挿管チューブ固定方法 心電図装着方法と危険波形の理解	
	12/7	ME 研修	51人	人工呼吸器の取り扱いと看護	
	2/13	プリセプターシップ	51人	一年の振り返りと次年度への課題	
	2/13	医療安全	51人	チームワークを活用した医療安全対策	
	レ ベ ル I	5/16	救急看護〈1〉	53人	フィジカルアセスメントと救急カート物品の使用方法 報告の仕方 (SBAR) と急変時の記録の書き方
		7/4	受け持ち看護師の役割看 護過程	48人	受け持ち看護師の役割について 看護過程の基本的な考え方と情報の解釈と問題の明確化
8/29		KYT 〈1〉	27人	医療安全におけるKYT 4 ラウンド法の活用	
10/24 12/5		災害看護 〈1〉	38人 29人	災害の定義と種類、トリアージ 災害拠点病院の役割と災害時の対応策	

レベルⅠ	11/4	感染管理〈1〉	58人	標準予防策と感染経路別の予防対策のエビデンス 針刺し切創および皮膚粘膜汚染事故の実際
	1/13	がん看護〈1〉	32人	がん化学療法の看護と抗がん剤の作用機序
レベルⅡ	5/23 11/14	災害看護〈2〉	22人 39人	災害トリアージの方法と応急処置
	6/6	救急看護〈2〉	28人	生命維持の基本とショックおよび急変時の対応
	6/27	リーダーシップ	30人	リーダーシップに必要な能力と理論
	7/22 10/31	文献検討① 文献検討②	19人 19人	文献検索方法と文献カードを使った文献検討の仕方 文献の読み方
	7/29	看護倫理〈1〉	43人	看護倫理の原則、倫理と法律 倫理的な課題・ジレンマへのアプローチ方法
	8/15	人材育成〈1〉	33人	人材育成に必要な能力
	9/5 12/2	看護実践リフレクション	29人 24人	体験・経験した看護実践の振り返りと意味づけの明確化
	9/26	日々リーダーの役割	35人	日々リーダーの役割とマネジメント能力
	12/19	KYT〈2〉	12人	病棟ラウンドによる危険な環境要因の発見 KYT 4 ラウンド法による危険因子と危険回避対策の検討
	1/6	緩和〈1〉	11人	がん性疼痛のアセスメント 疼痛緩和に関する薬物療法と看護師の役割
2/20	がん看護〈2〉	15人	がん患者の症状マネジメントと看護ケア	
レベルⅢ	5/30	日直・夜勤リーダーの役割	7人	日直・夜勤リーダーの役割とトラブル時の対応 病院の医療体制と宿日直師長の役割
	6/20	看護倫理〈2〉	9人	倫理原則を活用した倫理問題へのアプローチ
	7/11 10/3	人材育成〈2〉① 人材育成〈2〉②	4人 4人	指導に対する考え方（指導観の明確化） 基礎看護技術に関する指導案の作成と評価の仕方
	7/25 11/28	SWOT分析① SWOT分析②	11人 11人	SWOT分析の手法の理解
	8/8 9/2 11/7 1/16	看護理論①～④	16人	看護の主要概念の検討と看護観の明確化
	8/22	災害看護〈3〉	15人	災害時のアクションカード作成
	9/12 1/23	研究計画書の理解① 研究計画書の理解②	5人 5人	研究計画書の作成方法
	12/12	RCA分析	12人	RCA分析の実際
	1/30	感染管理〈2〉	16人	感染症患者の管理体制と感染症曝露後の対応
	2/6	救急看護〈3〉	11人	フィジカルアセスメントと急変対応の演習
3/3	緩和〈2〉	6人	意思決定のプロセス 緩和ケアにおける倫理的問題とケアの実際	

実地指導者	4/25	実地指導者研修	55人	実地指導者の役割認識と効果的な指導 新人看護職員の現状と育成 看護技術の指導方法と評価 コーチングスキル メンタルサポート支援
	6/13		54人	
	10/17		53人	
	3/13		56人	
トピックス	6/3	高齢者の看護	13人	高齢者特有の疾患をふまえた関わり方 高齢者の心理と家族支援
	7/1	がん看護の基礎	19人	がんの基礎知識 がん診療連携拠点病院の役割 がん患者の心理と日常生活への看護支援
	8/5	糖尿病看護	18人	糖尿病の基礎知識 インシュリンの種類、作用、副作用、取り扱い方法 患者・家族への指導

各レベル	コマ数	延べ人数
フレッシュ	22 コマ	1,183人
レベルⅠ	7 コマ	285人
レベルⅡ	14 コマ	359人
レベルⅢ	17 コマ	132人
実地指導者	4 コマ	218人
トピックス	3 コマ	50人
計	67 コマ	2,227人

### 1. 概要

本年度は、DPC 医療機関群Ⅱ群病院（大学病院本院に準ずる高度な医療を提供する病院として全国で140病院）に指定されるとともに、2010年度以降継続した経常収支の黒字や地域医療支援病院としての取り組みにより、自治体立優良病院表彰を受賞した。加えて、臓器の提供・移植に関する体制整備及び脳死下での実績が認められ、臓器提供施設として厚生労働大臣から感謝状を授与されるなど、高度急性期医療を担う病院として高い評価を得ることができた。また、地域医療機関との紹介・逆紹介を促進するため、地域連携登録医向けの広報誌の発行に加え、地域の医療機関に院長が自ら足を運び、病診連携の強化に努めたほか、医療スタッフの確保・定着を図るため、給与面での処遇改善とともに、院内保育所における病児保育の実施により、子育て世代の離職防止に取り組んだ。

主な事業としては、地域がん診療連携拠点病院として、最新の治療装置と検査機器を備えた高度放射線棟を開設するとともに、地域全体の医療水準の向上を図るため、同棟の2階に、シミュレーション研修センターを整備した。また、内視鏡手術の増加や最新の医療技術に対応するため、2019年度の開設を目指し、手術センター棟を整備することとし、基本設計及び実施設計に着手した。

（局長 黒釜 直樹）

## 2. 活動報告

### (1) 収益的收入及び支出

区分		平成 28 年度			平成 27 年度			平成 26 年度				
		金額(円)	医業 収益比 (%)	構成比 (%)	金額(円)	医業 収益比 (%)	構成比 (%)	金額(円)	医業 収益比 (%)	構成比 (%)		
収益的 収入	医業 収益	入院収益	15,929,472,794	62.3	58.0	16,057,961,457	63.7	58.5	15,684,645,427	65.3	59.2	
		外来収益	8,421,437,767	33.0	30.6	8,034,963,994	31.8	29.3	7,285,520,374	30.3	27.5	
		その他医業収益	1,205,101,427	4.7	4.4	1,127,171,691	4.5	4.1	1,051,475,208	4.4	4.0	
		小計	25,556,011,988	100.0	93.0	25,220,097,142	100.0	91.9	24,021,641,009	100.0	90.7	
	医業外 収益	受取利息	2,910,194	0.0	0.0	3,300,163	0.0	0.0	4,482,915	0.0	0.0	
		他会計負担金	788,750,220	3.1	2.9	1,097,885,881	4.3	4.0	1,189,897,907	4.9	4.5	
		国庫補助金	20,973,000	0.1	0.1	19,398,000	0.1	0.1	22,448,000	0.1	0.1	
		県補助金	42,488,000	0.1	0.2	44,604,000	0.2	0.2	40,830,000	0.2	0.2	
		長期前受金戻入	644,372,340	2.5	2.3	668,203,777	2.6	2.4	752,884,253	3.1	2.8	
		その他医業外収益	222,965,050	0.9	0.8	219,705,882	0.9	0.8	253,790,619	1.1	1.0	
		小計	1,722,458,804	6.7	6.3	2,053,097,703	8.1	7.5	2,264,333,694	9.4	8.6	
	特別 利益	長期前受金戻入	194,847,695	0.8	0.7	181,525,166	0.8	0.6	192,162,087	0.8	0.7	
		小計	194,847,695	0.8	0.7	181,525,166	0.8	0.6	192,162,087	0.8	0.7	
	計		27,473,318,487	107.5	100.0	27,454,720,011	108.9	100.0	26,478,136,790	110.2	100.0	
	収益的 支出	医業 費用	給与費	11,953,435,284	46.8	44.6	11,346,289,270	45.0	43.8	10,770,894,417	44.8	35.6
			材料費	7,932,084,951	31.0	29.6	7,958,684,013	31.6	30.7	6,996,697,339	29.1	23.1
			経費	3,480,804,279	13.6	13.0	3,438,731,467	13.6	13.3	3,517,946,020	14.7	11.6
			減価償却費	1,603,766,509	6.3	6.0	1,683,773,810	6.7	6.5	1,928,125,102	8.0	6.4
			資産減耗費	259,081,628	1.0	1.0	139,893,374	0.5	0.6	196,502,593	0.8	0.7
研究研修費			103,123,784	0.4	0.4	104,626,103	0.4	0.4	92,339,231	0.4	0.3	
小計			25,332,296,435	99.1	94.6	24,671,998,037	97.8	95.3	23,502,504,702	97.8	77.7	
医業外 費用		支払利息	505,273,053	2.0	1.9	548,797,661	2.2	2.1	593,405,695	2.5	2.0	
		繰延資産償却	0	0.0	0.0	18,784,307	0.1	0.1	191,189,139	0.8	0.6	
		保育費	41,850,785	0.1	0.1	35,009,287	0.1	0.1	44,825,623	0.2	0.2	
		長期前払消費税償却	1,782,827	0.0	0.0	33,919,418	0.1	0.1	46,761,262	0.2	0.2	
		貸倒引当金繰入額	20,176,000	0.1	0.1	22,751,900	0.1	0.1	8,529,666	0.0	0.0	
		雑損失	893,085,618	3.5	3.3	580,174,888	2.3	2.2	375,558,105	1.5	1.2	
小計		1,462,168,283	5.7	5.4	1,239,437,461	4.9	4.7	1,260,269,490	5.2	4.2		
特別 損失		引当金繰入額	0	-	-	0	-	-	5,466,525,650	22.8	18.1	
		小計	0	-	-	0	-	-	5,466,525,650	22.8	18.1	
計		26,794,464,718	104.8	100.0	25,911,435,498	102.7	100.0	30,229,299,842	125.8	100.0		
当年度純利益(△純損失)		678,853,769	-	-	1,543,284,513	-	-	△3,751,163,052	-	-		
前年度繰越利益剰余金 (△繰越欠損金)		1,022,637,038	-	-	1,022,352,525	-	-	△7,517,133,941	-	-		
その他未処理欠損金変動額		0	-	-	0	-	-	9,442,723,599	-	-		
当年度未処分利益剰余金 (△未処理欠損金)		1,701,490,807	-	-	2,565,637,038	-	-	△1,825,573,394	-	-		

## (2) 行為別入院収益・外来収益

区 分		平成 28 年 度		
		金 額 (円)	前年度比 (%)	構成比 (%)
入 院 収 益	投 薬 収 入	111,113,854	88.0	0.7
	注 射 収 入	301,234,580	75.7	1.9
	処 置 及 び 手 術 収 入	4,228,895,831	97.6	26.5
	検 査 収 入	197,894,344	89.9	1.2
	放 射 線 収 入	39,639,452	83.0	0.3
	入 院 料	10,274,988,285	100.8	64.5
	給 食 収 入	366,148,273	97.4	2.3
	そ の 他	409,558,175	113.4	2.6
	計	15,929,472,794	99.2	100.0
外 来 収 益	初 診 料	154,748,345	92.7	1.9
	再 診 料	835,092,673	103.6	9.9
	投 薬 収 入	811,209,544	83.0	9.6
	注 射 収 入	3,095,443,701	114.5	36.8
	処 置 及 び 手 術 収 入	370,354,607	99.9	4.4
	検 査 収 入	1,803,276,404	103.2	21.4
	放 射 線 収 入	1,096,538,497	105.7	13.0
	そ の 他	254,773,996	112.3	3.0
	計	8,421,437,767	104.8	100.0

## (3) 資本的収入及び支出

(円)

区 分		平成28年度	増 減	平成27年度	増 減	平成26年度	増 減
資 本 的 収 入	企 業 債	5,448,700,000	3,386,700,000	2,062,000,000	2,062,000,000	-	△90,000,000
	他 会 計 出 資 金	-	-	-	-	-	△88,028,375
	他 会 計 負 担 金	946,626,659	30,125,499	916,501,160	△43,757,835	960,258,995	△26,481,755
	投 資 回 収 金	8,860,000	6,172,500	2,687,500	△1,342,634	4,030,134	4,006,134
	県 補 助 金	3,492,000	3,492,000	-	△4,132,000	4,132,000	△262,197,000
	固 定 資 産 売 却 代 金	-	△ 72,736,110	72,736,110	72,736,110	-	-
	損 益 勘 定 留 保 資 金	2,042,554,669	696,909,267	1,345,645,402	△249,971,504	1,595,616,906	△326,242,807
	消費税及び地方消費税資本的収支調整額	19,388,308	10,850,187	8,538,121	5,934,563	2,603,558	△345,395
計	8,469,621,636	4,061,513,343	4,408,108,293	1,841,466,700	2,566,641,593	△789,289,198	
資 本 的 支 出	施 設 改 良 費	4,469,042,492	2,317,488,892	2,151,553,600	2,050,513,600	101,040,000	△325,279,350
	資 産 購 入 費	2,487,826,429	1,691,604,843	796,221,586	△114,854,816	911,076,402	△405,324,705
	長 期 貸 付 金	36,499,200	6,947,800	29,551,400	7,573,400	21,978,000	8,007,000
	企 業 債 償 還 金	1,476,241,208	45,459,501	1,430,781,707	△101,765,484	1,532,547,191	△66,692,143
	補 助 金 返 還 金	12,307	12,307	-	-	-	-
	計	8,469,621,636	4,061,513,343	4,408,108,293	1,841,466,700	2,566,641,593	△789,289,198

## (4) 貸借対照表 (平成29年3月31日)

## 資 産 の 部

(単位：円)

## 1 固定資産

## (1) 有形固定資産

イ 土 地		6,385,451,623	
ロ 建 物	19,096,393,672		
減価償却累計額	<u>△ 7,567,233,117</u>	11,529,160,555	
ハ 附 属 設 備	16,873,919,804		
減価償却累計額	<u>△ 11,534,338,584</u>	5,339,581,220	
ニ 構 築 物	1,592,874,896		
減価償却累計額	<u>△ 752,015,663</u>	840,859,233	
ホ 器 械 備 品	10,156,320,961		
減価償却累計額	<u>△ 5,848,993,668</u>	4,307,327,293	
ヘ 車 両	27,968,111		
減価償却累計額	<u>△ 22,092,017</u>	5,876,094	
ト 放射線同位元素	14,625,000		
減価償却累計額	<u>△ 2,294,460</u>	12,330,540	
チ リ ー ス 資 産	201,612,000		
減価償却累計額	<u>△ 86,601,500</u>	115,010,500	
リ 建 設 仮 勘 定		<u>21,616,666</u>	
有形固定資産合計			28,557,213,724

## (2) 無形固定資産

イ 電 話 加 入 権		7,041,831	
ロ ソフトウェア		61,884,000	
ハ ソフトウェア仮勘定		175,400,000	
ニ その他無形固定資産		<u>2,574,312</u>	
無形固定資産合計			246,900,143

## (3) 投資その他の資産

イ 長 期 貸 付 金	79,946,200		
貸倒引当金	<u>△ 47,115,000</u>	32,831,200	
ロ 出 資 金		500,000	
ハ 破産更生債権等	104,527,850		
貸倒引当金	<u>△ 104,527,850</u>	<u>0</u>	
投資その他の資産合計			<u>33,331,200</u>
固定資産合計			28,837,445,067

## 2 流動資産

(1) 現金預金		7,617,350,166	
(2) 未収金	4,464,457,064		
貸倒引当金	<u>△ 21,990,877</u>	4,442,466,187	
(3) 貯蔵品		57,428,141	
(4) 前払金		<u>139,679,550</u>	
流動資産合計			<u>12,256,924,044</u>
資産合計			<u>41,094,369,111</u>

## 負債の部

### 3 固定負債

(1) 企業債			
イ 建設改良費等の財源に 充てるための企業債	<u>19,288,195,615</u>		
企業債合計		19,288,195,615	
(2) リース債務		81,104,140	
(3) 引当金			
イ 退職給付引当金	<u>4,552,708,855</u>		
引当金合計		<u>4,552,708,855</u>	
固定負債合計			23,922,008,610

### 4 流動負債

(1) 企業債			
イ 建設改良費等の財源に 充てるための企業債	<u>1,517,329,739</u>		
企業債合計		1,517,329,739	
(2) リース債務		40,944,504	
(3) 引当金			
イ 賞与引当金	533,920,223		
ロ 法定福利費引当金	<u>95,765,667</u>		
引当金合計		629,685,890	
(4) 未払金		2,341,900,930	
(6) 預り金		<u>103,321,117</u>	
流動負債合計			4,633,182,180

5 繰延収益

(1) 長期前受金

イ 受贈財産評価額	33,121,075		
収益化累計額	<u>△ 26,018,512</u>	7,102,563	
ロ 補助金	1,205,483,412		
収益化累計額	<u>△ 770,440,411</u>	435,043,001	
ハ 負担金	12,996,834,521		
収益化累計額	<u>△11,465,358,869</u>	1,531,475,652	
ニ 寄附金	3,000,000		
収益化累計額	<u>△ 2,850,000</u>	150,000	
長期前受金合計			<u>1,973,771,216</u>
繰延収益合計			<u>1,973,771,216</u>
負債合計			<u>30,528,962,006</u>

資 本 の 部

6 資本金			6,973,942,341
7 剰余金			
(1) 資本剰余金			
イ 受贈財産評価額	246,164,805		
ロ 負担金	<u>100,809,152</u>		
資本剰余金合計		346,973,957	
(2) 利益剰余金			
イ 減債積立金	1,543,000,000		
ロ 当年度未処分利益剰余金	<u>1,701,490,807</u>		
利益剰余金合計		<u>3,244,490,807</u>	
剰余金合計			<u>3,591,464,764</u>
資本合計			<u>10,565,407,105</u>
負債資本合計			<u>41,094,369,111</u>

## (5) 主な経営財務分析

区 分	算 式	平成28年度	平成27年度	平成26年度
1. 平均在院日数 (施設基準上の算定) (日)	$\frac{\text{在院患者数}}{1/2(\text{新入院患者数} + \text{退院患者数})}$	12.8	12.7	13.3
2. 病床利用率 (一般病床) (%)	$\frac{\text{入院患者数}}{\text{許可病床数}} \times 100$	88.3	87.9	88.0
3. 入院患者1人1日当たり 収入額 (円)	$\frac{\text{入院収益額}}{\text{入院患者延数}}$	63,025	62,064	60,677
4. 外来患者1人1日当たり 収入額 (円)	$\frac{\text{外来収益額}}{\text{外来患者延数}}$	18,325	16,577	15,042
5. 剖 検 率 (%)	$\frac{\text{解剖数}}{\text{院内死亡患者数}} \times 100$	3.8	4.5	2.9
6. 100床当たり職員数 (人)	$\frac{\text{職員数(年度末)}}{\text{許可病床数(年度末)}} \times 100$	142.3	134.8	131.7
7. 100床当たり医師数 (人)	$\frac{\text{医師数(年度末)}}{\text{許可病床数(年度末)}} \times 100$	22.4	21.6	22.0
8. 100床当たり看護師数 (人)	$\frac{\text{看護師(年度末)}}{\text{許可病床数(年度末)}} \times 100$	89.5	84.9	82.7
9. 100床当たり器械備品額 (年度末) (千円)	$\frac{\text{器械備品額(減価償却累計額控除額)}}{\text{許可病床数}} \times 100$	538,416	369,887	394,117
10. 人 件 費 率 (%)	$\frac{\text{給与費}}{\text{医業収益}} \times 100$	46.8	45.0	44.8
11. 流 動 比 率 (%)	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$	264.5	231.4	250.6
12. 総 資 本 利 益 率 (%)	$\frac{\text{当年度純利益}}{1/2(\text{期首総資産} + \text{期末総資産})} \times 100$	1.7	4.4	△ 10.8

## 医師事務作業補助者

### 1. 概要

医師事務作業補助者（以下、ドクタークラーク）は、医師の事務作業軽減を目的として2008年に誕生した職種である。当院では、2009年から採用を開始し、現在41人となった。主な業務内容は下記の3つである。

- ① 文書作成補助業務：保険会社の入院証明書・通院証明書、介護保険に伴う主治医意見書、傷病手当一時金等の診断書作成補助を行っている。今年度は、新たに小児慢性特定疾患を開始した。
- ② 臨床データ登録業務：診療に関するデータの抽出・整理・登録業務、薬品市販後調査、患者を他院に紹介するための画像CDの作成補助をしている。
- ③ 外来助手業務：診察室内準備、診療補助、電子カルテへの代行入力を行っている。当院は、外来クラークと称している。

これらの業務は、医師事務作業補助検討委員会で管理をしている。また、ドクタークラークの活躍が医師に認められ、年々業務依頼が増加しており、当院にとって欠かせない存在となった。

来年度は、さらに医師の要望を取り入れ、医師の事務作業の軽減に努めたい。

（委員長 杉浦 勇）

### 3. 活動報告

#### (1) 従事者数

##### ①ドクタークラーク

チーム名(主な業務)	人数(人)
Aチーム (入院証明作成)	8
Bチーム (その他書類作成)	5
Cチーム (データの抽出・整理)	4
Dチーム (市販後調査の補助)	2
Eチーム (臨床研究書類作成補助)	2
計	21

##### ②外来クラーク

診療科	人数(人)
内科	7
産婦人科	1
産婦人科(生殖医療)	1
外科	2
脳神経外科	2
放射線科	1
小児科	3
泌尿器科	1
眼科	1
耳鼻いんこう科	1
計	20

(2) ドクタークラーク実績

①入院証明作成補助業務（担当者 8人）

業務内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(件)
入院証明書	583	586	670	602	643	677	617	640	646	571	621	758	7,614

②その他書類作成補助業務（担当者 5人）

業務内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(件)
指定難病（新規・更新） 臨床調査個人票	8	39	1,142	188	70	51	31	17	19	19	17	15	1,616
介護保険主治医意見書	107	125	128	140	123	143	127	128	129	165	130	129	1,574
自賠責保険診断書	130	146	137	167	135	146	105	130	153	133	144	117	1,643
傷病手当金請求書	132	150	150	135	144	154	151	143	144	124	131	131	1,689
労災休業給付申請書	36	33	40	31	33	40	30	26	35	37	39	36	416
生活保護医療要否意見書	76	72	65	61	82	78	72	94	84	75	76	85	920
B型C型肝炎患者医療 給付事業受給者票認定 に係わる診断書	15	14	15	7	12	11	9	13	25	22	8	11	162
肝疾患インターフェロン 治療効果判定報告書	0	0	0	0	0	0	38	0	0	0	0	26	64
出産一時金支給申請書	1	3	4	1	0	2	4	1	2	4	2	6	30
出産手当金支給申請書	6	8	3	4	3	6	7	2	6	4	8	7	64
訪問看護指示書	28	23	30	32	31	28	25	22	36	26	38	24	343
障害認定医師意見書	11	6	6	10	6	6	4	6	10	8	8	3	84
自立支援	9	2	10	2	3	8	4	5	4	2	8	11	68
結核定期病状調査報告書	0	14	12	5	0	12	2	14	20	4	13	0	96
小児慢性特定疾病	6	7	9	4	6	2	7	109	74	36	9	8	277
計	565	642	1,751	787	648	687	616	710	741	659	631	609	9,046

③他院紹介・学会用CD作成業務（担当者 4人）

業務内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(件)
転院・紹介用(申請書あり)	185	179	210	195	226	185	179	152	161	156	168	163	2,159
学会・研究用(申請書あり)	8	5	17	3	18	12	8	6	10	5	3	19	114
転院・紹介用(Dr作成)	410	384	454	394	442	442	483	449	442	462	485	530	5,377
学会・研究用(Dr作成)	8	11	2	8	6	2	2	4	3	7	10	3	66
計	611	579	683	600	692	641	672	611	616	630	666	715	7,716

④薬品別市販後調査票作成業務（担当者 2人）

業務内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(件)
調査票記入数	37	23	26	34	31	20	19	21	18	15	20	39	303
製薬会社提出数	32	39	23	44	26	17	19	17	24	10	23	36	310
製薬会社説明会	1	2	1	1	1	0	1	1	1	2	1	2	14

⑤症例登録・抽出業務（担当者 8人 ※3・4・7担当者兼務）

業務内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(件)
DWHを使用したデータ抽出・作成	8	10	8	3	7	13	7	6	9	12	14	17	114
血液学会疾患登録(血液・腫瘍内科)	73	20	0	0	0	0	0	0	0	0	75	56	224
血液学会疾患登録(小児科)	3	1	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	7
NCD症例登録(一般外科)	135	131	131	120	166	103	115	144	124	146	137	119	1,571
NCD症例登録(心臓外科・血管外科)	3	16	1	15	6	17	18	4	25	20	3	20	148
NCD症例登録(脳神経外科)	21	31	36	28	39	14	39	32	13	32	0	65	350
NCD症例登録(循環器内科)	11	10	14	31	14	0	0	47	17	22	26	21	213
NCD症例登録(移植外科)	5	0	0	24	9	0	0	0	0	38	0	0	76
NCD症例登録(呼吸器外科)	0	5	9	14	8	0	24	13	19	8	0	17	117
産科データ登録	84	78	0	171	77	100	52	68	84	174	0	155	1,043
計	343	302	199	406	328	248	255	314	291	452	255	470	3,863

⑥各診療科の患者データベース作成業務（担当者 8人 ※3・4・7担当者兼務）

歯科口腔外科、リウマチ科、肛門外科、脊椎外科、呼吸器外科、心臓外科・血管外科、呼吸器内科、小児科（新生児）、消化器内科、泌尿器科、産婦人科、整形外科、放射線科 計 13 診療科

⑦臨床研究に関わる書類作成補助（担当者 2人）

業務内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(件)
書類作成補助数	-	-	-	-	-	5	5	5	7	5	6	-	33
臨床研究審査委員会提出数	-	-	-	-	-	5	4	4	7	5	6	-	31

⑧院外研修実績

医師事務作業補助者コース（日本病院会）に7人受講した。

医師事務作業補助者としての知識向上や他施設との交流を図るために「NPO 法人日本医師事務作業補助研究会」に医療情報課職員も含め積極的に参加している。